

熊本大学五高記念館館報 第1号

(平成18年度～20年度)





国立大学法人 熊本大学五高記念館

発刊にあたって

館長 伊藤 重剛

ここに熊本大学五高記念館の館報第1号をお届けする。この館報は、当館が平成18年4月に週日開館となり、スタッフを入れて日常的に活動するようになったこの3年間の五高記念館の活動の記録である。

熊本大学五高記念館は、平成5年に開館した。五高同窓会の熱心な活動と働きかけにより、五高100周年を機に、それまで保存されたり収集されたりしていた様々な資料が、同会の寄付をもとに五高本館の西側半分を使って展示がなされた。しかしながら、土日しか開館されず、スタッフもおらず、特に広報もせずということで、一般にも大学内にも五高記念館とその展示はあまり知られていない状態であった。

そうした中で平成17年の国立大学法人化を機に、五高記念館を市民に対してもっと積極的に開放し、社会貢献に努めようという大学執行部の動きがあった。さっそく準備委員会が設立され、約1年間の期間を経て熊本大学ユニバーシティミュージアム構想が策定され、五高記念館の位置づけ、運営や組織、活動予算などが決定され、最終的に18年4月に週日開館するに至った。私は建築史を専門とする工学部の教授であるが、そのときの委員で、そのまま館長としてつとめることとなり、現在2期目を迎えている。兼任館長1名、専任准教授1名、非常勤の特任研究員2名と事務補佐員2名のスタッフ6人の体勢で運営している。

第五高等学校は明治20年の創立で、明治22年8月に現在の地に校舎が完成し、翌23年10月10日に第1回開校記念式を迎えている。以来60数年の歴史を経て、戦後の学制改革によって昭和25年に閉校した。その敷地と校舎は新制の熊本大学に統合され、五高時代の資料は熊本大学に大事に継承され保存され、現在となっては日本の近代高等教育を知る上で貴重な資料となっている。また卒業生は母校を愛し卒業生であることを誇り高く思い、様々な資料が寄せられてきた。こうして保存され集められた資料数は、現在6,000点に上る。

現在の主たる展示はこうした五高時代の資料である。人事や運営などの学校資料や試験問題などの教育資料のほか、卒業生から寄せられた古いアルバムなどからの古写真が展示されている。週日開館の後には、これら常設展示のほか、年に数回の企画展示や講演会、コンサートなどの行事を行い、五高に関することに限らず様々な情報発信を行っている。スタッフのこうした努力のおかげで、平成20年度は入館者数が1万人を突破した。入館者は県外からの入館者が3分の1以上を占め、全国に知られるほどになっている。

また、当館は明治の赤煉瓦の建物で重要文化財にも指定されている珍しい建物であることから、映画の撮影に使われたり、大学の行事の際に新聞やテレビに取り上げられるなど、何かとマスコミに露出する頻度が高い。NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」では、建物の正面が陸軍大学校という設定で放映された。つまり五高記念館はいい意味で熊本大学の顔でありシンボルにもなっており、今後もこうした広報活動にも力を入れていきたい。

今後の課題は、現在の脆弱な財政基盤を強化して人員の安定的確保を図り、博物館相当施設として認可を受け、さらなる展示の充実、資料集や研究書の出版、市民への情報の公開と発信を図ることである。

も く じ

発刊にあたって	3
I 熊本大学五高記念館概要	
1 沿革	7
2 施設概要	8
3 利用案内	10
II 事業概要	
1 展観事業	11
(1) 常設展示	
(2) 特別展・企画展等開催概要報告	
2 教育普及事業	24
(1) 講演会・文化講座・コンサート等	
(2) 出版活動	
(3) 学芸員養成課程等	
(4) 友の会活動	
(5) その他の教育普及活動	
3 調査研究事業	37
(1) 収蔵資料に関する調査及び五高記念館等に関する調査研究活動	
(2) 教職員の科学研究費採択状況	
(3) 教職員の外部資金受託状況	
(4) 教職員の学内拠点形成研究等	
(5) 教職員の研究活動等	
4 その他の事業	42
(1) 害虫生息状況調査	
(2) 収蔵資料の燻蒸	
III 収蔵資料	
平成18～20年寄贈資料・購入資料目録	56
IV 運営等に関する資料	
1 入館者の動向	65
2 五高記念館機構	67
3 五高記念館教職員	67
4 五高記念館等運営委員会委員名簿	67

5	教職員等の変遷	68
	(1) 館長	
	(2) 教職員	
	(3) 五高記念館等運営委員会	
6	五高記念館等運営委員会記録	69
7	運営に関する諸規程等	72
	(1) 設置規程	
	(2) 教授会等	
	(3) 熊本大学五高記念館等規則	
	(4) 職員組織規程等	
	(5) 資料公開等に関する規程等	
	(6) 利用規則等	
	(7) 業務協力者に関すること	
	(8) 公印規程	
	(9) 防災規程	
	(10) 新聞・単行本・雑誌等掲載一覧	
	(11) 平成17年以前の活動実績	
V	研究	
	『龍南会雑誌』と雑誌部委員—明治期の動向を中心として—	95

I 熊本大学五高記念館概要

1 沿革

明治20年(1887)4月、熊本に第五高等中学校の設置が決定し、同年11月第1回目の入学式を挙行した。同22年には本館、化学実験場、表門が竣工する。明治27年に高等学校令が公布され、第五高等学校となる。

第五高等学校は、第二次世界大戦後の学制改革によって熊本大学の母体のひとつとなり、昭和25年に最後の卒業生を送り出して閉校となった。熊本大学となってからも本館は法文学部の管理のもと「教室本館」として講義・研究棟として活用されていた。

昭和44年(1969)8月、本館・化学実験場・表門は「旧第五高等中学校本館」「旧第五高等学校化学実験場」「旧第五高等学校表門」として国の重要文化財に指定された。なお附指定として本館設計図24枚、化学実験場設計図10枚、表門設計図6枚も国の重要文化財指定を受けている。

平成5年(1993)10月、本館の西側半分が旧制第五高等中学校及び同第五高等学校の関係資料を展示する「五高記念館」として公開され、財務部管財係が管理することとなった。平成12年4月には「熊本大学五高記念館」に名称を改め、残る東側半分の利用計画を策定して全館を公開するなど、五高記念館を熊本大学の教育・研究及び地域連携の拠点と位置づけ、収蔵資料調査や公開講座、友の会設立等の活動を展開してきた。またその間、平成10年3月には『熊本大学資料館に関する検討委員会報告』を、翌年には『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム』をまとめ、大学博物館設置の検討を行なった。そして、平成18年2月、熊本大学の歴史的遺産を地域資源として総合的に活用し、教育・研究に資するとともに、地域文化の発展・向上に寄与することを目的に『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期五カ年計画(案)』を策定した。ここでは、4期20か年の計画を想定し、第1期5か年計画として五高記念館の整備が提案された。

平成18年3月から同計画案にそった整備事業に着手し、同年12月1日には五高記念館を学内共同教育研究施設として位置づけるとともに専任教員が配置され、五高記念館の事務は研究・国際部社会連携課が担当することとなった。

平成19年4月からは、五高記念館を拠点とした学芸員養成課程が稼動している。さらに、各学部等に分散している学術研究資料を収集・整理・保管し、一般に展示・公開するため、五高記念館、工学部研究資料館、山崎記念館、肥後医育記念館、熊薬ミュージアム等を有機的に結びつけた熊本大学総合研究博物館(仮称)の早期実現を目指している。

(岩崎竹彦)

2 施設概要

- ・種別 歴史博物館
- ・所在地 熊本県熊本市黒髪2丁目40番1号
- ・規模 地上2階
- ・面積 建築面積 921.6㎡
延床面積 1,806㎡
- ・構造 煉瓦造、2階建、棧瓦葺、背面木造裏玄関付
- ・建築年代 明治22年（1889）
- ・建築設計 山口半六、久留正道

・動線計画

熊本大学五高記念館は、2階及び1階西側部分に展示スペース、1階に教育普及スペース及び管理スペース並びに研究スペースを設けている。

日常動線は1階正面玄関を導入口とし、中央階段を上がって西側部分に誘導し、第1展示室から第4展示室、西側階段を下りて第5・第6展示室及び復原教室へと導く流れを取り入れている。そして、日常動線の最後に休憩室・図書室・情報プラザといった教育普及スペースを設けることで利用者の自己学習の便を図っている。

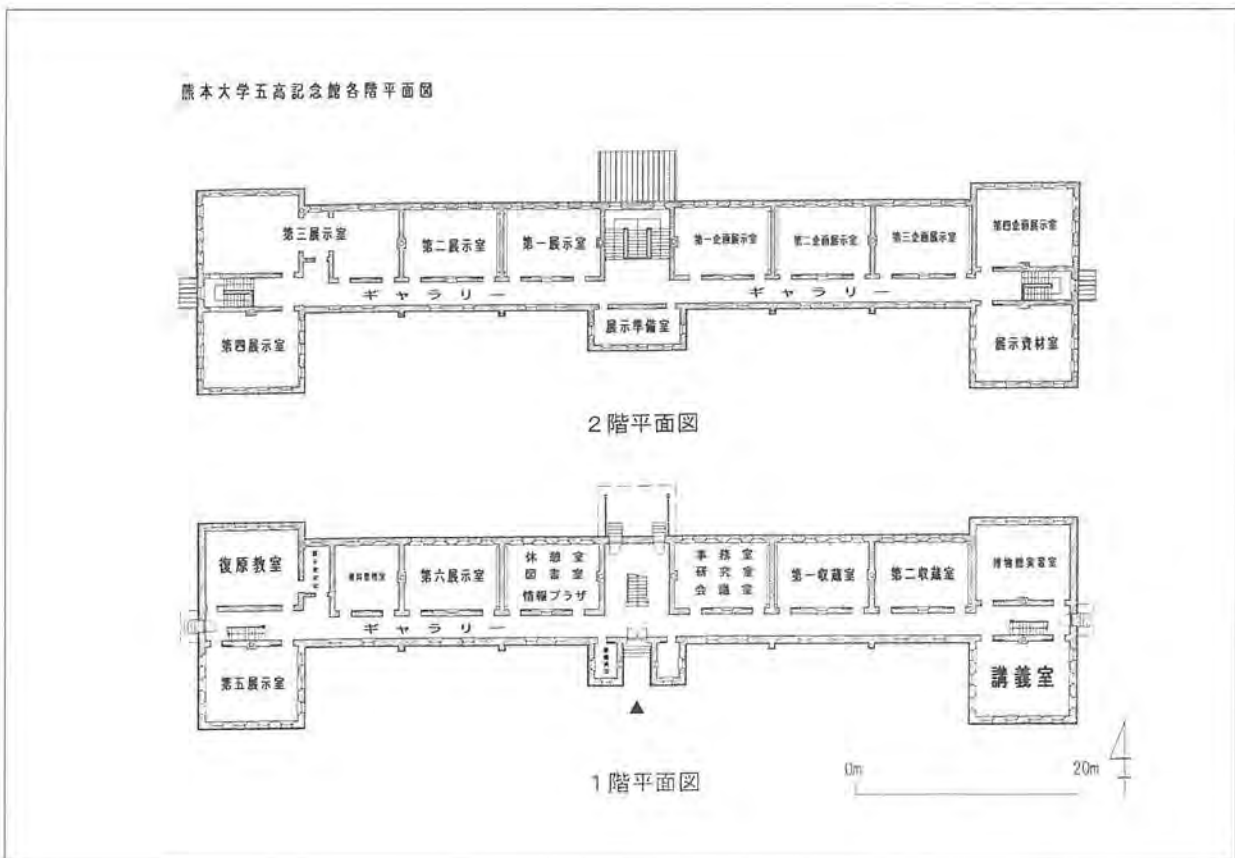
企画展示室（第1企画展示室～第4企画展示室）は、2階東側部分に集中させることで常設展とは別の流れを作り、企画・特別展に関係した講演会等の際には特別展を鑑賞した後、東側階段を利用して1階の講義室に導くことで日常動線と交錯しないよう配慮している。企画展示室が稼動していないときは、2階ホール東側にパーティションスタンドを設置して東側部分を閉鎖している。

講義室は本学の通常講義にも使用され、博物館実習室は学芸員課程の講義で使用することから、1階管理スペースの奥に配置することで日常動線から切り離している。

利用者の動線パターンは廊下接続タイプであり、動線計画は可能なかぎり交差を減らし、機能的な流れとなるよう設定している。

・建物用途別表

室名	階層	面積	室名	階層	面積	
常設展示室	第1展示室	2階	66㎡	ギャラリー	2階	237㎡
	第2展示室	2階	66㎡	ギャラリー	1階	230㎡
	第3展示室	2階	118㎡	展示準備室	2階	20㎡
	第4展示室	2階	66㎡	展示資材室	2階	66㎡
	第5展示室	1階	66㎡	展示資材室	1階	12㎡
	第6展示室	1階	66㎡	休憩室・図書室・情報プラザ	1階	66㎡
	復原教室	1階	66㎡	講義室	1階	66㎡
	小計 514㎡			博物館実習室	1階	66㎡
企画展示室	第1企画展示室	2階	66㎡	事務室・研究室・会議室	1階	66㎡
	第2企画展示室	2階	66㎡	資料整理室	1階	40㎡
	第3企画展示室	2階	66㎡	第1收藏室	1階	66㎡
	第4企画展示室	2階	66㎡	第2收藏室	1階	66㎡
	小計 264㎡			その他		27㎡
					合計 1,806㎡	



(岩崎竹彦)

3 利用案内

・所在地等 〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL (096) 342-2050 FAX (096) 342-2051
URL www.goko.kumamoto-u.ac.jp
Email goko@kumamoto-u.ac.jp

・入館料 無料

・開館時間 10:00~16:00 (ただし、入館は15:30まで)

・休館日 毎週火曜日 大学の都合による休館あり
※3、4月は火曜日も開館
※12~2月の土・日と重ならない祝日は閉館

・アクセス

阿蘇くまもと空港から

空港リムジンバス：西部車庫・熊本駅前行き「通町筋」下車
「通町筋」(電車通りをはさんで向かい側カトリック手取教会前)から
産交バス、電鉄バス：[子1] [子7] [子8] [子9] [子18] [子20]
楠団地、武蔵ヶ丘、大津方面行き「熊本大学前」下車

熊本交通センターから

13番のりばから
産交バス、電鉄バス：[子1] [子7] [子8] [子9] [子18] [子20]
楠団地、武蔵ヶ丘、大津方面行き「熊本大学前」下車

JR熊本駅から

都市バス：第一環状線 [駅2] (大学病院・大江渡鹿経由)
「子飼橋」下車 徒歩10分
産交バス、電鉄バス：[子1] [子7]
楠団地、武蔵ヶ丘方面行き「熊本大学前」下車
※熊本駅発の豊肥本線、各駅停車への連絡の便が良ければ竜田口駅までJRをご利用いただき、
JR竜田口駅からバスをご利用になるのが便利です。
(豊肥本線：光の森、肥後大津、宮地、豊後竹田、大分方面行き)

JR上熊本駅から

都市バス：第一環状線 [駅1] (子飼橋・大江渡鹿経由)
「子飼橋」下車 徒歩10分

JR竜田口駅から

産交バス、電鉄バス：[子1] [子7] [子8] [子9] [子18] [子20]
交通センター、熊本駅行き「立田自然公園入口」下車

Access Map



II 事業概要

1 展観事業

(1) 常設展示

第1展示室 【五高開校から閉校まで】

明治20年の開校から昭和25年の閉校に至る五高63年の歴史を概観する資料を展示。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作者	制作年代
1	横一行書「瑞邦」	1面	絹本墨書	有栖川宮熾仁親王	明治27年(1894)5月
2	横一行書「済美」	1面	絹本墨書	小松宮彰仁親王	明治31年(1898)5月
3	校旗	1旒			昭和6年(1931)
4	五高徽章	1個	金属	第五高等学校	
5	第五高等学校関係公印	19個	木材・石	第五高等学校	明治22年(1894)～
6	生徒募集掛木札	2枚	木材	第五高等学校	明治22年6月、明治27年5月
7	第1回開校式関係書類	1式	一紙	第五高等学校	明治23年(1890)10月10日
8	第1回卒業式関係書類	1式	一紙	第五高等学校	明治25年(1892)7月10日
9	協議会書類	2冊	冊子	第五高等学校	明治20年(1887)～
10	職員出欠調	1冊	冊子	第五高等学校	明治28年(1895)
11	辞令簿	1冊	冊子	第五高等学校	明治45年(1912)
12	高等学校長会議決議	5冊	冊子	第五高等学校	明治21年(1888)～
13	課程の修了式関係綴	1冊	冊子	第五高等学校	昭和25年(1950)3月
14	禁酒宣誓簿	3冊	冊子	第五高等学校	明治34年(1901)9月12日
15	第五高等学校沿革略	2冊	冊子	第五高等学校	昭和32年(1957)
16	生徒必携	1冊	冊子	第五高等学校	昭和4年(1929)4月
17	第五高等学校学則	1冊	冊子	第五高等学校	昭和12年(1937)4月
18	職員心得要項	1冊	冊子	第五高等学校	
19	校長肖像・写真	14面			
20	校長室の椅子	2脚			

第2展示室 【五高建造物】

五高の建造物を復元模型や図面類で紹介、講堂や教室に掲げられた扁額も展示している。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作者	制作年代
1	横一行書「入神致用」	1面	紙本墨書	勝海舟	
2	「順道制勝行不害人」	1面	紙本墨書	嘉納治五郎	
3	横一行書「寛猛相濟」	1面	絹本墨書	閑院宮熾仁親王	
4	横一行書「仰光館」	1面	紙本墨書	武藤虎太	
5	第五高等中学校本館図面(複写)	4枚	一紙	山口半六、久留正道	明治20年(1887)
6	第五高等学校全図	1枚	一紙	富田治禎、渡辺仁、滝川長雄、天草狭齋	明治42年(1909)2月
7	第五高等学校復元模型	1台			昭和62年(1987)

第3展示室 【五高を飾る著名教授陣】

夏目漱石やラフカディオ・ハーンをはじめとする五高で教鞭をとった教師を紹介。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作者	制作年代
1	横一行書「精力善用」	1面	紙本墨書	嘉納治五郎	
2	嘉納校長送別記念(写真)	1葉			明治28年(1895)
3	秋月胤永教授肖像画	1面			
4	「有故潜行北越の漢詩」	1面	紙本墨書	秋月胤永	
5	五高職員生徒宛の書簡	1通	一紙	秋月胤永	明治28年(1895)7月16日
6	命名由来記秋月胤永(掛軸)	1幅		秋月胤永	明治25年(1892)
7	夏目金之助第五高等学校赴任関係資料(写)	1式	冊子		明治29年(1896)
8	夏目金之助英国留学関係資料	3冊	冊子		明治33年(1900)

9	開校十周年記念祝辞	1枚		夏目金之助	明治33年(1900)10月10日
10	祝辞朗読(MD試聴)	1枚		夏目金之助	
11	ラフカディオ・ハーン旅行免許状	1枚			明治27年(1894)
12	ラフカディオ・ハーン試験問題	1枚	一紙	ラフカディオ・ハーン	明治26年(1893)
13	極東の将来	1冊	冊子	ラフカディオ・ハーン	明治27年(1894)1月27日
14	ポーター(写真)	1葉			
15	徒然草	1冊	冊子	ポーター訳	大正3年(1914)
16	百人一首	1冊	冊子	ポーター訳	明治42年(1909)
17	ドル(写真)	1葉			
18	マーター(写真)	1葉			
19	「龍南の五高生」	1冊	冊子	マーター	昭和5年(1950)
20	ロバート・クラウダー(写真)	5葉			
21	ロバート・クラウダー京都スケッチ	2枚		ロバート・クラウダー	
22	原稿、写本等	8冊	冊子	山形元治	明治26年(1893)
23	第七回開校記念祝辞	1枚	一紙	山形元治	明治30年(1897)10月10日
24	植物スケッチ	2枚	一紙	浅井東一	昭和7年(1932)7月14日
25	論文草稿「立田山のヤエクチナシ」の発見	2冊	冊子	浅井東一	昭和4年(1929)
26	植物教室実習記録	1冊	冊子	浅井東一	昭和8年(1933)
27	観察器具	1基		浅井東一	
28	卒業式生徒総代祝辞	1枚	一紙	十時弥	明治28年(1895)7月1日
29	第45回開校式学校長式辞	1枚	一紙	十時弥	昭和10年(1935)10月10日
30	中川久知教授写真・解説	1枚			
31	教授集合写真	7葉			大正10年～昭和20年
32	図書カード整理箱	1架	木材		
33	担当箱	1架	木材		
34	会議室の椅子	2脚			
35	教官用の椅子	1脚			

第4展示室 【五高が誇る多彩な人材群】

政界、官界、実業界、研究者、作家など各界で活躍した卒業生を紹介。

番号	史料名	員数	材質・形態	作者	制作年代
1	五高人脈の一角(パネル)	1枚			
2	寺田寅彦(パネル)	3枚			
3	五高時代と首相当時の池田勇人(写真)	1葉			
4	池田勇人と同級生(写真)	1葉			
5	同窓会池田勇人(写真)	3葉			
6	第二次池田内閣(写真)	1葉			昭和39年(1964)8月21日
7	池田さんと五高の太鼓	1冊	冊子		昭和52年(1977)10月10日
8	随筆「池田勇人-敗戦と復興の現代史-」	1冊	冊子	林房雄	昭和43年(1968)5月25日
9	五高時代の佐藤栄作(写真)	1葉			
10	同窓会佐藤栄作(写真)	2葉			
11	ノーベル賞を受ける佐藤栄作氏(写真)	1葉			昭和49年(1974)12月10日
12	ノーベル賞賞状(写真)	1葉			昭和49年(1974)12月10日
13	犬養孝(写真)	1葉		犬養孝	
14	文部省主催思想問題後援会講義要領	1冊	冊子	高田運吉	昭和6年(1931)8月4日
15	公園にて(原稿)	1冊	冊子	林房雄	
16	「武夫原頭」歌碑(写真)	1葉			
17	木下順二書 武夫原頭歌詞(複写)	1枚		木下順二	
18	寺田寅彦氏の全集を読む(原稿)	1冊	冊子	神田慶也	
19	石神長助氏在学中家族への手紙、葉書	1式	一紙	石神長助	明治31年(1898)～

第5展示室 【五高精神と龍南生活(I) 学校生活・龍南会】

試験問題や授業風景、学校行事など五高生の学校生活を紹介。

番号	史料名	員数	材質・形態	作者	制作年代
1	掛木札 生徒心得	1枚	木材		
2	掛木札 五高剣道部看板	1枚	木材		
3	掛木札 図書閲覧細則	1枚	木材		明治39年(1906)
4	事務日誌類	5冊	冊子	第五高等学校	明治23年(1890)～昭和11年(1936)
5	歳入出書類	4冊	冊子	第五高等学校	明治41年(1908)～昭和19年(1944)
6	入学試験問題綴	3冊	冊子	第五高等学校	明治20年(1887)～明治45年(1912)
7	学期学年試験問題綴	4冊	冊子	第五高等学校	明治33年(1900)～明治41年(1908)
8	合格書類	1枚	1紙	第五高等学校	
9	ノート	3冊	冊子	神田慶也、堀川俊章	
10	教科書	6冊	冊子		
11	理科実験道具類	22基			
12	龍南会関係資料	4冊	冊子	龍南会	明治41年(1908)～昭和9年(1934)
13	『龍南』	9冊	冊子	龍南会	大正13年(1924)～昭和19年(1944)
14	部報・部誌	24冊	冊子		昭和21年(1946)6月30日
15	優勝旗	1旗			
16	優勝カップ	6個			大正～昭和
17	開学記念運動会旗	1旗			
18	終戦前後の時間割	4枚	一紙	第五高等学校	昭和20年(1945)7月11日
19	銃架	1台			
20	徴集者名簿	1冊	冊子	第五高等学校教務課	昭和18年(1943)
21	出陣学徒壮行会書類	1式		第五高等学校	昭和18年(1943)10月13日
22	出陣学徒壮行会写真	1葉			昭和18年(1943)10月13日
23	表彰状 学徒動員	4枚	一紙		昭和20年(1945)3月20日
24	写真 学校生活	19葉			大正～昭和

第6展示室 【五高精神と龍南生活(II) 勉強と遊び・寮生活】

寮生活など、五高生の日常生活を紹介。

番号	史料名	員数	材質・形態	作者	制作年代
1	YMCA花陵会(パネル)	2枚			
2	シンシナティ・インクワイアラー紙	8枚		ラフカディオ・ハーン 記事掲載	明治7年(1874)～
3	提灯	2個			
4	羽織	1枚			
5	小太鼓	1張			
6	大太鼓	1張		池田勇人寄贈	昭和39年(1964)10月
7	習学寮鉄製・陶器火鉢	2台			
8	習学寮食器 木箱(壬寅8/17)付き	3個			8月17日
9	習学寮食堂清規(複写)	1枚			
10	炊事簿の裏に書かれた出陣の言葉	1枚			
11	郷関録	1冊	冊子		昭和18年(1943)

12	寮務課日誌	1冊	冊子	第五高等学校習学寮	昭和20年(1945)
13	習学寮報1～6号	6冊	冊子	第五高等学校習学寮	昭和12年(1937)12月30日
14	寮務日誌	2冊	冊子	第五高等学校習学寮	昭和19年(1944)4月
15	外出又は外泊に関する指令簿	1冊	冊子	第五高等学校習学寮	明治44年(1911)2月
16	入寮者心得及習学寮諸規程	2冊	冊子	第五高等学校習学寮	大正2年(1913)
17	出入寮通知簿	1冊	冊子	第五高等学校習学寮	明治40年(1907)
18	第五高等学校習学寮炊事部日計表	1枚		第五高等学校習学寮	10月15日
19	入寮者心得及習学寮諸規程	1冊	冊子	第五高等学校習学寮	大正15年(1926)
20	入寮者記名簿	1冊	冊子	第五高等学校習学寮	大正4年(1915)
21	龍南物語	1冊	冊子	上田沙丹	昭和6年(1931)
22	寮歌集	3冊	冊子		昭和9年(1934)～
23	寮歌 (MD試聴)	1枚			
24	祝辞 開学記念大晩餐会	1枚	一紙		昭和28年(1953)10月24日
25	東光会綱領掛軸 (複写)	1幅		徳富蘇峰	
26	東光会寄書	1枚	一紙		
27	写真 寮生活	38葉			

復原教室

五高当時の黒板・教卓・机・椅子を使って五高の教室を復原している。

第1展示室



第2展示室



第3展示室



第4展示室



第5展示室



第6展示室



復原教室



(薄田千穂)

(2) 特別展・企画展等開催概要報告

平成18年度

① 企画展「創業140年富重写真所の古写真にみる熊本と五高」



〔開催趣旨〕

熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想の実現に向けた五高記念館週日公開の開始（平成18年4月1日）に先立ち、本学学生及びその家族を始め、広く一般の方々にも五高記念館の存在を知ってもらい、歴史的価値を認識してもらうため、熊本が有する貴重な近代資料である「富重写真所の古写真」による熊本と五高の写真展を開催した。

〔主な出品資料〕

古写真33点

〔主催〕

熊本大学五高記念館等運営委員会、熊本大学政策創造研究センター

〔協力〕

富重写真所

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成18年3月1日(水)～4月7日(金)

〔開催日数〕

38日間

〔期間中入館者数〕

1,416人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

② 旧制第五高等学校オリジナル設計図面展 「赤煉瓦——明治の夢と情熱」

〔開催趣旨〕

熊本大学の五高記念館や赤門は明治期の建築物として国の重要文化財に指定されている。建造当時のオリジナル図面も適切に保存され、同時に重要文化財となっている。日本の風土に合った洋風建築が手探りで建設されていた時代、設計技術も用具も未だ確立していなかった時代に、新しい建築に果敢に挑んだ若い技術者達の情熱を、描かれた設計図面を通して識ることを目的として開催した。

〔主な出品資料〕

パネル化した図面や原図、棟札など約70点

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成18年7月20日(木)～9月24日(日)

〔開催日数〕

62日間

〔期間中入館者数〕

1,530人

〔展覧会担当者〕

伊藤重剛（当館館長）

藤本秀子（当館特定事業研究員）



③ 共催展 富重写真所開業140周年記念「富重写真所の道具に見る明治時代の肥後人と道具展」

〔開催趣旨〕

富重写真所は、慶応2年（1886）の開業以来、同じ家族により現在も熊本で営業を続けており、日本

国内はもとより世界的にみても稀有なスタジオであるといえよう。初代富重利平の時代から4代にわたって受け継がれてきた多数の資料を基に、日本人が写真という技術をどのように実用化していったのかを、貴重な文化遺産を通してモノ作りの智恵と精神を学ぶことを目的に開催した。



〔主な出品資料〕

- ・熊本や国内で初めてつくられた写真機材
- ・指物師がつくった暗箱（写真機）の箱や脚
- ・畳職人がつくった撮影用椅子
- ・鍛冶屋がつくった首押さえ
- ・県内を飛び回った携帯暗室の復元品
- ・明治期の熊本城写真・城下の風景等

〔主催〕

財団法人熊本県伝統工芸館

〔共催〕

熊本大学五高記念館

〔協力〕

富重写真所、熊本県立美術館、日本大学芸術学部写真学科

〔後援〕

熊本県教育委員会

〔会場〕

熊本県伝統工芸館 2階常設特別展示室

〔開催期間〕

平成18年10月27日（金）～11月26日（日）

〔期間中入館者数〕

2,253人

④ 夏目漱石『草枕・二百十日』発表100年記念展
「五高時代の漱石先生」

〔開催趣旨〕

夏目漱石の文学作品『草枕』『二百十日』が発表されて100年目にあたることを記念し、人生の一時期を五高教師として熊本で過ごした夏目漱石の教師としての姿に着目し、その活動や生活が後の作品執筆の大きな糧となったことを紹介する目的で開催した。

〔主な出品資料〕

略年表、漱石関係写真、履歴書、五高記念館が所蔵する学校関係の文書類、漱石の声（モンタージュヴォイス）、『草枕』紹介ビデオ等

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔監修〕

跡上史郎（熊本大学教育学部助教授）

坂元昌樹（熊本大学文学部助教授）

村田由美（八代高専・電波高専非常勤講師）

〔協力〕

（有）ひとちいき計画ネットワーク

〔後援〕

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

〔会場〕

当館 2階企画展示室



〔開催期間〕

平成18年11月3日（金）～12月10日（日）

〔開催日数〕

35日間

〔期間中入館者数〕

1,461人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

〔記念講演会〕

日時 平成18年11月3日（金曜）10:00～12:00

演題 「100年前の漱石先生」

講師 出久根達郎

会場 熊本大学工学部百周年記念館

⑤ 熊本大学埋蔵文化財調査室企画展
「熊本大学を発掘する」



〔開催趣旨〕

熊本大学の各キャンパスには、黒髪町遺跡、本庄遺跡など多くの重要な遺跡が眠っている。熊本大学埋蔵文化財調査室で実施している、大学構内の再開発に伴う12年間の発掘調査で得られた成果を出土品とともに紹介した。また、最新科学によって明らかになった新しい成果も紹介した。

〔主な出品資料〕

熊本大学敷地内より発掘された考古資料（甕棺、土器等）、発掘調査手順写真、発掘用機材、復元模型等

〔主催〕

熊本大学五高記念館

熊本大学埋蔵文化財調査室

〔協力〕

熊本県教育委員会

㈱NTTドコモ九州熊本支店

〔後援〕

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成18年11月3日(金)～19年1月28日(日)

〔開催日数〕

67日間

〔期間中入館者数〕

1,808人

〔展覧会担当者〕

本学埋蔵文化財調査室

〔記念講演会〕

日時 平成18年12月2日(土曜) 13:00～16:00

演題・講師

「熊大を掘る（構内遺跡発掘とその成果）」

小畑弘己(熊本大学埋蔵文化財調査室助教授)

「縄文時代のアクセサリーと熊本の玉づくり」

大坪志子(熊本大学埋蔵文化財調査室助手)

「本庄遺跡からみた熊本の古墳時代」

檀 佳克(熊本大学埋蔵文化財調査室)

会場

本学文・法学部A2教室

〔関連事業〕

体験学習「縄文時代の勾玉（まがたま）を造ろう」

会場 当館講義室

日時 平成18年11月18日(土曜) 09:00～12:00

費用 1,000円(材料費実費・保険料)

対象 親子15組

参加者数 20人

⑥ 写真展「空想散歩——絵葉書にみる古き熊本の街かど——」



〔開催趣旨〕

カメラが一般に普及する以前、絵葉書は土地土地の様子を伝える貴重な手段であった。名所旧跡だけではなく町の様子や新しい建物なども盛んに絵葉書にされ、人々はお土産や記念としてこぞって買い求めた。時を経た現在、それらは貴重な歴史資料となり、古い時代の風景や風俗を伝えている。今回、熊本市歴史文書資料室所蔵の絵葉書をデジタルデータ化し、かつて五高生が闊歩した熊本の街かどを中心とした写真展を開催した。

〔主な出品資料〕

写真パネル44点他

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔協力〕

熊本市歴史文書資料室、熊本まちなみトラスト

〔後援〕

熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成19年3月15日(木)～5月28日(月)

〔開催日数〕

72日間

〔期間中入館者数〕

1,906人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子(当館特定事業研究員)

平成19年度

① 特別展「衝撃エネルギーの世界へようこそ！」



〔開催趣旨〕

熊本大学は早くから衝撃エネルギー工学という特色ある研究課題に取り組み、国際的に評価される成果をあげてきた。平成14年にはその研究蓄積をもとにした「衝撃エネルギー科学の深化と応用」が21世紀COEプログラムに採択され、衝撃エネルギーにかんする世界最高水準の研究教育拠点を形成するとともに、世界をリードする研究と創造的な人材の育成につとめてきた。本展覧会は、制御可能な衝撃エネルギーの平和利用を追求し、衝撃エネルギー科学

の深化と応用により、近未来の衝撃エネルギー工学の創生と体系化に貢献してきた本学21世紀COEプログラム拠点本部の研究の一端をわかりやすく解説し、大学における研究活動と社会とのつながりを紹介することを目的として開催した。

〔主な出品資料〕

プラズマボール、雷発生装置、CDRリサイクルロボット、超高圧発生装置+デモ装置、水中放電プラズマなど。

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本大学21世紀COEプログラム「衝撃エネルギー科学の深化と応用」

〔後援〕

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成19年8月8日(水)～9月24日(月)

〔開催日数〕

41日間

〔期間中入館者数〕

1,105人

〔展覧会担当者〕

本学21世紀COEプログラム「衝撃エネルギー科学の深化と応用」

勝木 淳(本学大学院自然科学研究科准教授)

岩崎竹彦(当館准教授)

〔関連事業〕

体験学習 「ドクター・アキヤマの科学教室 衝撃エネルギーの世界へようこそ！」

開催趣旨 熊本大学21世紀COEプログラム「衝撃エネルギー科学の深化と応用」の研究成果の一端をわかりやすく解説し、次世代を担う若者に科学の面白さとその広大な世界を体験してもらうことを目的として開催した。

会場 当館情報プラザ

日時 平成19年8月25日(土曜) 13:30～15:00

費用 無料

対象 小学5、6年生から中学生

参加人数 25人

② 第五高等学校開校120周年記念寄贈資料展

「レジェンド——五高龍南健児たちの青春」

〔開催趣旨〕

明治20年(1887)に開校した第五高等学校は、平

成19年で120周年を迎えた。熊本大学五高記念館ではこれを記念し、これまでに寄贈された五高関係資料を展示公開した。寄贈された資料はいずれも貴重なものであり、第五高等学校における勉学や暮らしの様子を伝えるもの、戦時下勉学に専念することのできなかった時代の有様を伝えるものなど、今後の当館の展示の充実に資するものである。今回の展覧会により、本学学生や一般の来館者にあらためて五高の歴史や戦時下の学校教育等について認識を深めてもらうとともに、貴重な資料を寄贈いただいた方々への感謝の意をあらわすことを目的に開催した。



〔主な出品資料〕

寄贈資料約70点（嘉納治五郎の書、徳富蘇峰の書、古写真等）

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔協力〕

全国五高会

〔後援〕

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成19年10月10日(水)～12月17日(月)

〔開催日数〕

59日間

〔期間中入館者数〕

2,924人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

③ ミニ企画展「はじめてのキュレーター体験!？」



「はじめてのキュレーター体験!？」展示風景

〔開催趣旨〕

「はじめてのキュレーター体験展!？」は学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」の受講生による手作りの展覧会である。平成19年度の「博物館実習Ⅰ」は、博物館における教育普及活動の人気メニュー（拓本、注連縄作り）を学芸員の立場で実際に体験し、その歴史・文化的背景を調査研究し、さらに成果を展覧会に結びつけることで学芸員としての基礎知識や技術を習得することを目標に実施した。

〔展示構成〕

第1部 熊大黒髪キャンパスの歴史遺産

第2部 薬の文化

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本大学学芸員養成課程

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成20年2月28日(木)～3月17日(月)

〔開催日数〕

18日間

〔期間中入館者数〕

383人

〔展覧会担当者〕

岩崎竹彦（当館准教授・学芸員養成課程担当）

平成20年度

① くまもとの産業遺産展「明治篇」

〔開催趣旨〕

「産業遺産」とは、「歴史的、社会的、建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物からなる」と定義され、近年関心が高まっている「世界遺産」の中でも大きな位置を占めている。

九州は、江戸時代に殖産興業が盛んであり、石炭

の存在なども知られていた。明治期になるとその資源や地の利により、近代日本を牽引する産業が立地し、今日、多くの産業遺産が残されている。

明治期、九州の中心都市であった熊本にも多くの産業遺産が存在している。また、本学の前身である第五高等学校工学部や熊本高等工業学校は、産業の発展を支える技術者の育成を担い、各産業界に多くの人材を送り出した。

本展は、明治期の熊本における産業の隆盛と広がり、残された多様な産業遺産によって紹介した。また、同時期の熊本高等工業学校卒業生の就職動向や学校活動などを合わせて展示した。



〔主な出品資料〕

写真、絵葉書、文書資料の書き起し等約60点

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本産業遺産研究会

〔共催〕

熊本大学工学部研究資料館、熊本学園大学産業資料館、五高記念館友の会

〔監修〕

伊藤重剛（当館館長）

幸田亮一（熊本学園大学商学部教授）

〔協力〕

山江村、富重写真所、熊本学園大学

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成20年4月10日(木)～6月30日(月)

〔開催日数〕

71日間

〔期間中入館者数〕

2,035人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

② 企画展「Dr.Arita天然痘根絶の軌跡」

〔開催趣旨〕

熊本大学の前身校である第五高等学校並びに熊本医科大学出身の蟻田功博士は、WHO（世界保健機関）の「世界天然痘根絶計画」の推進に尽力し、天然痘根絶という人類の悲願とも言うべき偉業を成し遂げた。人類を苦しめた感染症の根絶は、歴史上初めてであり、未だその後続く根絶は成し遂げられていない。そればかりか、新たな感染症の広がり懸念されている。

WHOによる天然痘根絶確認30年（平成19年）を迎えるのを機に、蟻田博士の功績を広く人々に知ってもらうとともに、感染症への理解を深めることを目的に開催した。

〔主な出品資料〕

写真、ポスター、統計データ等、約30点

〔主催〕

熊本大学五高記念館、財国際保健医療交流センター

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔監修〕

小野友道（熊本保健科学大学学長・熊本大学顧問）

〔後援〕

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

〔協力〕

JICA（独立行政法人国際協力機構）

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成20年5月8日(木)～6月30日(月)

〔開催日数〕

43日間

〔期間中入館者数〕

1,323人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

〔記念講演会〕

日時 平成20年5月17日(土) 11:00～12:00

演題 「人類と感染症根絶——地球上から天然痘が消えた日」

講師 蟻田功（財国際保健医療交流センター名誉
理事長）

会場 熊本大学工学部百周年記念館

〔参加者数〕

84人



③ 移動企画展「Dr.Arita天然痘根絶の軌跡」

〔開催趣旨〕

開催趣旨については、前述の企画展「Dr. Arita 天然痘根絶の軌跡」に同じ。

会場を熊本医科大学所縁の山崎記念館（医学部附属病院敷地内）に移して開催した。

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本大学医学部附属病院

〔会場〕

熊本大学医学部山崎記念館

〔開催期間〕

平成20年9月26日（金）～10月10日（金）

④ 共催展 熊本市立熊本博物館企画展

「昭和の思い出——回想のススメ——」

〔展示構成〕

懐かしさとは何か（太平洋戦争、戦後復興、昭和の暮らし、卓袱台のある風景）

懐かしさの力（熊本博物館の回想法事業）

〔主催〕

熊本市立熊本博物館

〔共催〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

熊本市立熊本博物館特別展示室

〔開催期間〕

平成20年9月13日（土曜）～10月13日（月曜）

〔展覧会担当者〕

福西大輔（熊本市立熊本博物館学芸員）

岩崎竹彦（当館准教授）

〔記念講演会〕

日時 平成20年9月13日（土）

13:30～15:00

演題 思い出のチカラ

講師 岩崎竹彦（熊本大学准教授）

会場 熊本博物館研修室

⑤ 特別展「思い出のチカラ——回想のススメ——」

〔開催趣旨〕

高齢者が過去を振り返って思い出話を花を咲かせ、自分の歩んできた人生再評価することは、よりよい未来を生きるために必要であり、その手助けをするのが回想法だといわれている。回想法の実践には民俗文化、とりわけ民具の活用が有効であると考えられている。そのため、回想法を事業の一環として取り入れたり、あるいは回想法に役立てる目的で民具等を高齢者福祉施設に貸し出す博物館が増えている。

本展覧会では、なぜ、民俗文化や民具が回想法を実践する際、有効に機能するのかを明らかにするとともに、回想法・回想ワークの意義および博物館との関係についても紹介し、さらにわれわれの記憶のなかにある民俗文化や民具のあり方について探ることを目的に開催した。



〔展示構成〕

ROOM 1 思い出のチカラ

ROOM 2 記憶を展示する

ROOM 3 麦島勝写真館にみる昭和の思い出

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本市立熊本博物館

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成20年10月1日(水)～11月24日(月)

〔開催日数〕

48日間

〔期間中入館者数〕

2,432人

〔展覧会担当者〕

岩崎竹彦(当館准教授)

福西大輔(熊本市立熊本博物館学芸員)

⑥ 移動企画展「Dr.Arita天然痘根絶の軌跡」

〔開催趣旨〕

開催趣旨については、前述の企画展「Dr. Arita天然痘根絶の軌跡」に同じ。

会場を薬学部敷地内にある宮本記念館に移して開催した。

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本大学薬学部

〔共催〕

五高記念館友の会、熊本大学薬学部宮本記念館

〔協力〕

熊本大学薬学部附属薬用植物園

〔会場〕

熊本大学薬学部宮本記念館

〔開催期間〕

平成20年11月3日(月)～11月28日(金)

〔開催日数〕

26日間

〔展覧会担当者〕

藤本秀子(当館特定事業研究員)

〔関連事業〕

写真展「阿蘇の草原再生と希少植物」

報告会「植物園と市民の協働による絶滅危惧植物保全システムの構築」

主 催 薬学部附属薬用植物園

日 時 11月22日(土曜) 14:00～16:00

⑦ ミニ企画展「はじめてのキューレイター体験!？」

〔開催趣旨〕

「はじめてのキューレイター体験展!？」は学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」の受講生による手作りの展覧会である。平成20年度の「博物館実習Ⅰ」は、県内の博物館が行っている参加体験型の教育普及活

動に参加し、企画・立案から事後評価までを学び、その後博物館の調査研究活動を学ぶ目的で班ごとにテーマ設定をした上で、学内で調査研究活動を行った。その成果を展覧会という形で公開した。展示資料は学生たちが自ら探し出してきたものばかりである。加えて、高度経済成長期以降の博物館資料は、われわれの記憶に残っているモノが有力な候補になるのではないかとの仮説から、受講生一人ひとりの思い出にまつわる「思い出の品」を展示した。



〔展示構成〕

ROOM1 熊本県内の博物館が行っている参加型教育普及活動の紹介

ROOM2 わたしたちの思い出の品

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本大学学芸員養成課程

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成21年3月9日(月)～16日(月)

〔開催日数〕

7日間

〔期間中入館者数〕

199人

〔展覧会担当者〕

岩崎竹彦(当館准教授・学芸員養成課程担当)

(岩崎竹彦・薄田千穂・藤本秀子)

2 教育普及事業

(1) 講演会・文化講座・コンサート等

平成18年度

① 週日開館記念コンサート「モーツァルトコンサート」

〔開催趣旨〕

五高記念館の週日開館を学内外に広く知ってもらうことを目的として、当館講義室でコンサートを開催した。なお、演奏曲目は生誕250年を迎えたモーツァルトの曲から選定した。

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

当館講義室

〔日時〕

平成18年4月21日(金) 12:00~12:45

〔演奏〕

熊本アカデミカ・アンサンブル

〔曲目〕

「セレナード 第13番 ト長調 K.525 (アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク) 第1楽章」

「ディベルティメント 第1番 ニ長調 K.136」

「ディベルティメント 第3番 ヘ長調 K.138」

〔参加者数〕

116人



② 第2回ラフカディオ・ハーン生誕記念コンサート「ハーンの愛した日本の音色」

〔開催趣旨〕

本学のユニバーシティ・ミュージアム構想推進のため五高記念館と熊本大学小泉八雲研究会は、五高の外人教師であったラフカディオ・ハーンの研究、調査及び知識の啓発等を行っている。ハーンは世界

を視覚だけではなく五感でとらえており、そのことを文学作品や随筆のなかで示している。音を通してハーンの人となりや生涯をたどることは、ハーンの世界に親しむ有益な方法である。学生をはじめ、多くの人々が広くハーンの世界に親しむきっかけとなることを目的に開催した。



〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学小泉八雲研究会

〔会場〕

熊本大学工学部百周年記念館

〔日時〕

平成18年6月27日(火) 18:00~20:00

〔講話〕

「ハーンと音楽」

アラン・デービッド・ローゼン (熊本大学教育学部助教授)

〔演奏〕

箏 二宮晶代 (平成音楽大学講師)

箏 筒井雅子 (生田流宮城社教師)

オーボエ 上田愛彦 (平成音楽大学助教授)

〔曲目〕

「宵待草」「おぼろ月夜」「水の変態」「春の海」他

〔参加者数〕

120人

③ 夏目漱石『草枕・二百十日』発表100年記念講演会「100年前の漱石先生」

詳細は、夏目漱石『草枕・二百十日』発表100年記念展「五高時代の漱石先生」の〔記念講演会〕とし

て記載した (pp17)。

④ 富重写真所開業140周年記念シンポジウム
「日本における写真の源流その伝統と継承」



〔開催趣旨〕

富重写真所は、慶応2年(1886)の開業以来、同じ家族により現在も熊本で営業を続けており、日本国内はもとより世界的にみても稀有なスタジオであるといえよう。同写真所には初代利平の時代から4代にわたり受け継がれてきた多数の資料が保存されているが、これらの資料は渡来した写真技術を日本人がどのように実用化したかを体系的にたどることのできるものであり、日本の写真の歴史が集約されているといっても過言ではない。本シンポジウムは、このような貴重な文化遺産を保存継承し、後世に伝える一助とすることを目的に開催した。

〔主催〕

熊本大学五高記念館、文部科学省科学研究費補助金基盤研究・初期写真調査研究グループ

〔共催〕

財団法人熊本県伝統工芸館

〔後援〕

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

〔会場〕

熊本大学工学部百周年記念館

〔日時〕

平成18年11月5日(日) 13:00~17:00

〔内容〕

- ◎「日本写真史における富重写真所の位置および歴史的機材の復元について」
高橋則英(日本大学芸術学部写真学科教授)
- ◎「明治初期上野系写真術のネットワーク 上野彦

馬・内田九一・富重利平」

姫野順一(長崎大学環境科学部教授)

- ◎「上野彦馬『舎密局必携』の湿板写真術と富重写真所」

石川寛夫(九州産業大学芸術学部写真学科教授)

- ◎「1855~1880年代の写真スタジオの技術について」

マーク・オスターマン(ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真博物館)

〔参加者数〕

38人

- ⑤ 講演会「熊本大学を発掘する」

詳細は、熊本大学埋蔵文化財調査室企画展「熊本大学を発掘する」の〔記念講演会〕として記載した(pp18)。

- ⑥ 体験学習「縄文時代の勾玉(まがたま)を造ろう」

詳細は、熊本大学埋蔵文化財調査室企画展「熊本大学を発掘する」の〔関連事業〕として記載した(pp18)。

平成19年度

- ① 五高記念館文化講座「細川家お殿様の食卓」

〔開催趣旨〕

五高記念館では、市民を対象に大学が提供しうる内容の中から、楽しみながら学ぶことのできるテーマを選定して文化講座を開講している。平成19年度は熊本城築城400年にあたるため、江戸時代、細川家の料理頭であった村中乙右衛門が殿様料理について書き留めた「料理方秘」をもとに再現した「細川御膳」を味わい、その文書や熊本の菓子についての講座を開催した。



〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本交通センターホテル

[会場]

熊本交通センターホテル 3階大ホール

[日時]

平成19年6月9日(土) 11:00~14:00

[内容]

- ◎「細川家お殿様の食卓」
川口恭子（熊本大学客員教授）
- ◎「熊本の菓子」
松崎範子（歴史研究家）
- ◎「料理再現の苦労と工夫」
後藤和昭（熊本交通センターホテル料理長）

[参加者数]

43人

② 第3回ラフカディオ・ハーン生誕記念コンサート
「日本の音、西洋の音」

[開催趣旨]

五高記念館と熊本大学小泉八雲研究会は、五高の外人教師であったラフカディオ・ハーンの研究、調査及び知識の啓発等を行っている。ハーンは世界を視覚だけではなく、五感でとらえる人であることをその文学作品や随筆のなかで示しており、講演とともにコンサートを開催することは、ハーン文学の特徴を端的に示す方法として有効である。学生を始め、多くの人々が広くハーンの世界に親しむきっかけとなることを目的に開催した。

[主催]

熊本大学五高記念館

[共催]

熊本大学小泉八雲研究会

[会場]

熊本大学工学部百周年記念館

[日時]

平成19年6月29日(金) 18:00~20:30

[講演]

「ハーンの耳と口承文化」
小泉 凡（鳥根県立大学短期大学部准教授）

[演奏]

バイオリン 吉永誠吾（熊本大学教育学部教授）
 箏 二宮晶代（平成音楽大学講師）
 クラビノーバ 田畑敦子

[曲目]

「春の海」「蛍こい」「砂山」「浜千鳥」「愛のあいさつ」「白鳥」「タイースの瞑想曲」「無窮動」「ロンドンの夜の雨」「ユーモレスク」「ボカリーゼ」「夢」「小舟にて」「チャルダッシュ」

[参加者数]

160人



- ③ 体験学習「ドクター・アキヤマの科学教室 衝撃エネルギーの世界へようこそ！」
詳細は、特別展「衝撃エネルギーの世界へようこそ！」の【関連事業】として記載した (pp19)。
- ④ 映画会「北辰斜めにさすところ」



[開催趣旨]

神山征二郎監督作品「北辰斜めにさすところ」は、旧制高等学校の生徒たちの学校生活をテーマに剛毅木訥の気風やひた向きな姿を描いており、現代の学生にかつての生徒たちの人生や青春に向き合う一途な姿を伝え、継承してほしいという意図で制作されている。また、五高記念館や化学実験場が撮影場所として使用されており、平成19年は第五高等学校開校120周年記念の年にもあたることから、本作品の上映会を開催した。

〔主催〕

熊本大学五高記念館

「北辰斜にさすところ」製作委員会

〔会場〕

熊本大学工学部百周年記念館

〔日時〕

平成19年11月16日(金) 18:00~20:45

〔参加者数〕

138人

- ⑤ 工学部研究資料館機械遺産指定記念
「秋深しコンサート」



〔主催〕

熊本大学工学部研究資料館

〔共催〕

熊本大学五高記念館

〔協力〕

熊本大学教育学部音楽科

〔会場〕

熊本大学工学部百周年記念館

〔日時〕

平成19年11月22日(木) 18:00~19:00

〔演奏〕

- バイオリン 吉永誠吾 (熊本大学教育学部教授)
ピアノ 袴田和泉 (熊本大学教育学部教授)
箏 山川玉枝 (熊本大学非常勤講師)
ピアノ 鳥 優子 (熊本大学非常勤講師)
ソプラノ 宮川奈穂 (熊本大学大学院教育学研究科修士課程)
ピアノ 徳留瑞乃 (熊本大学大学院教育学研究科修士課程)
ピアノ 田中紘子 (熊本大学大学院教育学研究科修士課程)

〔曲目〕

「春の海」「アヴェ・マリア」「夢」小舟にて」「熊
ん蜂の飛行」「ノクターン第4番変ホ長調Op.
36」「この道」「浜辺の歌」「歌劇『魔笛』よりパ
ミーナのアリア『愛の喜びは露と消え』」「『チェ
チーリエ』Op.27-2」「ノクターン第2番変ホ
長調Op.9-2」「ワルツ第6番変イ長調Op.64
-1」「幻想即興曲Op.66」

〔参加者数〕

110人

平成20年度

- ① 講演会「人類と感染症根絶—地球上から天然痘
が消えた日」

詳細は、企画展「Dr.Arita天然痘根絶の軌跡」の
〔記念講演会〕として記載した (pp21)。

- ② 風薫るコンサート

〔開催趣旨〕

工学部研究資料館は「熊本大学工学部(旧熊本高
等工業学校)旧機械実験工場」として国の重要文化
財指定を受けている(附指定:工作機械1式)。ふだ
ん公開していないが、優れた音響効果を期待できる
ことから、コンサート会場として活用し、貴重な歴
史遺産を多くの人々に知ってもらうことを目的に開
催した。



〔主催〕

熊本大学五高記念館

熊本大学工学部研究資料館

〔協力〕

熊本大学教育学部音楽科

〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

〔日時〕

平成20年5月23日(金曜) 18:00～

〔演奏〕

バイオリン 吉永誠吾(熊本大学教育学部教授)
 ピアノ 島 優子(元熊本大学非常勤講師)
 ソプラノ 柴田万代
 ピアノ 田中紘子
 バイオリン 小野智恵里
 ピオラ 黒木佑基(熊本大学フィルハーモニーオーケストラ元コンサートマスター)
 チェロ 脇田真仁(熊本ユースオーケストラ団員)

〔曲目〕

「バイオリン・ソナタ第5番「春」第1楽章」
 「夜想曲 嬰ハ短調」「無窮動」「Seligkeit」「Der Nussbaum」「『Don Giovanni』より Vedri carino」「『Gianni Schicchi』より O miobabbino caro」「主よ人の望みの喜びよ」「舞踏への勧誘」「ディベルティメント ニ長調 K. 136」

〔参加者数〕

114人

③ 第4回ラフカディオ・ハーン生誕記念コンサート
「音にたどるハーンの足跡」



〔開催趣旨〕

五高記念館と熊本大学小泉八雲研究会は、五高の外人教師であったラフカディオ・ハーンの研究、調査及び知識の啓発等を行っている。ハーンは世界を視覚だけではなく、五感でとらえる人であることを

その文学作品や随筆のなかで示しており、音を通してハーンの人となりや生涯をたどることは、ハーンの作品に親しむ有益な方法である。学生を始め、多くの人々が広くハーンの文学世界に親しむきっかけとなるよう「ラフカディオ・ハーン生誕記念コンサート」を開催した。今回は、ハーンの生涯において長い期間暮した土地であるアイルランド、アメリカ、日本を中心に、それぞれの土地に根ざした音楽、歌曲を取り上げた。

〔主催〕

熊本大学五高記念館、熊本大学小泉八雲研究会

〔会場〕

熊本大学工学部百周年記念館

〔日時〕

平成20年6月27日(金) 19:00～20:30

〔講話〕

「ハーンと音楽と」
 福澤 清(熊本大学文学部教授)

〔演奏〕

テノール 春日幸雄(熊本県立ひのくに高等養護学校教諭)
 ソプラノ 春日信子(平成音楽大学講師、熊本YMC A学院非常勤講師)
 ピアノ 塩津貴子(中九州短期大学非常勤講師)
 テナー&ソプラノサクソス 堤 智登

〔曲目〕

「ダニーボーイ」「夢路より」「荒城の月」「福連木の子守唄」「スワニー川」「武夫原頭に草萌えて」他

〔参加者数〕

121人

④ 秋の夕暮れクラシックコンサート

〔開催趣旨〕

工学部研究資料館は「熊本大学工学部(旧熊本高等工業学校)旧機械実験工場」として国の重要文化財指定を受けている(附指定:工作機械1式)。ふだん公開していないが、優れた音響効果を期待できることから、コンサート会場として活用し、貴重な歴史遺産を多くの人々に知ってもらうことを目的に開催した。

〔主催〕

熊本大学工学部研究資料館、熊本大学五高記念館、熊本大学教育学部音楽科

〔共催〕

熊本大学工学部技術部
 熊本大学五高記念館友の会



〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

〔日時〕

平成20年10月29日(水) 18:00～

〔演奏〕

バイオリン 吉永誠吾 (熊本大学教育学部教授)

バリトン 平和孝嗣 (熊本大学教育学部教授)

ピアノ

袴田和泉 (熊本大学教育学部教授)

平和充子 (尚絅大学短期大学部非常勤講師)

渡辺由美子(元熊本大学非常勤講師)

バイオリン 尾上香織 (熊本大学教育学部2年)

バイオリン&ビオラ

黒木佑基 (熊本大学フィルハーモニーオーケストラ元コンサートマスター)

チェロ

脇田真仁 (熊本ユースオーケストラ団員)

〔曲目〕

「タイスの瞑想曲」「チゴイネルワイゼン」「幼いハンス」「五月の歌」「モルモット」「新しい愛 新しい人生」「私の太陽」「即興曲 Op. 142-3 変ロ長調」「カノン」「アンダンテカンタービレ」

〔参加者数〕

126人

⑤ 熊本大学ホームカミングデー茶会

〔主催〕

熊本大学

〔協力〕

熊本大学五高記念館、熊本大学茶道部、五高記念館友の会



〔場所〕

熊本大学五高記念館前

〔日時〕

平成20年11月2日(日) 10時～5時

〔参加者数〕

210人

(岩崎竹彦・薄田千穂)

(2) 出版活動

平成18年度

- ① 「熊本大学を発掘する 展示ガイド」(A4版8頁)
編集・発行 熊本大学五高記念館、熊本大学埋蔵文化財調査室
発行日 平成18年11月3日



平成19年度

- ① 『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第3号(A4版4頁)
編集・発行 熊本大学五高記念館
発行日 平成19年6月1日



- ④ ガイドブック「衝撃エネルギー科学の深化と応用展示ガイド」(A4版4頁)
 編集 熊本大学五高記念館、熊本大学21世紀COEプログラム拠点本部
 発行 熊本大学五高記念館
 発行日 平成19年8月8日



- ② 熊本大学五高記念館図録『第五高等学校』(A4版160頁)
 編集 熊本大学五高記念館図録編集委員会
 発行 熊本大学五高記念館
 発行日 平成19年10月10日



平成20年度

- ① 『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第5号(A4版4頁)
 編集・発行 熊本大学五高記念館
 発行日 平成20年4月30日



- ③ 『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第4号(A4版4頁)
 編集・発行 熊本大学五高記念館
 発行日 平成20年3月31日



(岩崎竹彦・薄田千穂・藤本秀子)

(3) 学芸員養成課程等

本学の学芸員養成課程は当館専任教員が担当しており、また熊本大学五高記念館等規則第3条第1項第4号に「学芸員教育に関すること」が当館の業務に位置づけられていることから、館として学芸員養成課程に対しての支援体制を構築している。さらに平成20年4月に大学院社会文化科学研究科文化行

政・学芸員専門職コースが開設されたことにもない、学芸員課程同様に当館が同コースに対してのサポートを行っている。

これまでの実績は、平成19年度ミニ企画展「はじめてのキュレーター体験!？」及び平成20年度ミニ企画展「はじめてのキュレーター体験!？」として「II事業概要 1 展観事業 (2) 特別展・企画展等開催概要報告」に記載した (pp20、pp23)。

また、当館では平成19年度より本学学芸員養成課程の「博物館実習II」(館園実習、2単位)の受入を行っている。平成19年度及び20年度の受入は以下のとおりである。

・平成19年度受入実績

文学部科目等履修生 (本学大学院文学研究科修士課程) 1人

・平成20年度受入実績

文学部科目等履修生 (本学大学院文学研究科修士課程) 1人

(岩崎竹彦)

(4) 友の会活動

熊本大学五高記念館友の会は、平成13年9月15日(土)に設立総会を開き発足した。以下、設立にいたる経緯を略述する。

・平成13年3月13日(火)、友の会発足のための世話人会を開催。

・同年6月26日(火)、熊本国際コンベンション協会と案内ボランティアガイドについて合意。

・同年7月17日(火)、世話人会で会則(案)、会費(案)を作成し、郵便振替口座を開設。

・同年9月15日(土)、設立総会を開催。世話人代表に平山謙二郎、事務局長に東孝治を選出。設立時の会員数は67人であった。

年度別の会員数はつぎの通りである。

・2001(平成13)年 9月15日 67人

・2002(平成14)年 10月末日 171人

・2004(平成16)年 1月末日 146人

・2004(平成16)年 12月末日 137人

・2006(平成18)年 3月末日 127人

・2008(平成20)年 3月末日 130人

以下、年度別の活動概要を報告する。

平成13年度

- ① 第1回「五高記念館案内ボランティア」養成講座
会場 五高記念館

日時 平成13年8月20日～9月17日(計5回)

受講者 19人

- ② 五高記念館友の会設立総会

会場 熊本大学くすの木会館

日時 平成13年9月15日(土)

- ③ 講演会

主催 熊本大学五高記念館友の会、熊本近代文学館友の会

会場 熊本大学五高記念館復原教室

日時 平成14年3月10日(日)

演題・講師

「夫・梅崎春夫の思い出」

梅崎恵津

平成14年度

- ① 平成14年度五高記念館友の会総会

日時 平成14年4月20日(土)

記念講演

「五高の外国人教師」

中島最吉(崇城大学教授)

五高記念館案内ガイド体験発表 2人

- ② 第2回「五高記念館案内ボランティア」養成講座

10月7日(月)「五高の建築」

北野隆(熊本大学工学部教授)

10月14日(月)「旧制高校とは」

今江正知(崇城大学教授)

10月21日(月)「五高の寮生活」

西岡鐵夫(元熊本市立熊本博物館館長)

10月28日(月)「五高文学散歩」

西川盛夫(熊本大学教育学部教授)

11月4日(月)「五高人脈」

平山謙二郎(友の会代表世話人)

受講者: 5人

- ③ 市民講座「ハーンとアイルランドの文化」

主催 熊本大学五高記念館友の会、熊本近代文学館友の会、熊本アイルランド協会

日時 平成14年11月17日(日)

演題・講師

「ハーンとケルトの妖精たち」

小辻梅子(熊本県立大学教授)

- ④ 見学会「黒髪キャンパス散歩」

主催 熊本大学五高記念館友の会

日時 平成14年11月9日(土)

- ⑤ 会報『赤煉瓦通信』創刊号発行

編集・発行 熊本大学五高記念館友の会

発行日 平成15年3月1日



平成15年度

- ① 平成15年度五高記念館友の会総会
日時 平成15年4月5日(土)
- ② 第2回キャンパス散歩「旧制五高の往時を偲ぶ」
主催 熊本大学五高記念館友の会
日時 平成15年11月8日(土) 13:00~15:00
コース 五高記念館⇒小峰墓地(石仏など)⇒泰勝寺入口⇒徳永直文学碑⇒寺田寅彦下宿の跡⇒リデル・ライト記念館⇒くすの本会館
- ③ 会報『赤煉瓦通信』第2号発行
編集・発行 熊本大学五高記念館友の会
発行日 平成16年2月1日



平成16年度

- ① 平成16年度五高記念館友の会総会
日時 平成16年4月27日(火)
記念講演 「五高時代の上林暁」
徳広育夫(鹿児島大学名誉教授)
- ② 「河原畑正行先生を偲んで—先生のハーン研究、

先生と五高資料—」五高記念館の新資料」展の開催

- 主催 熊本大学五高記念館
熊本大学五高記念館友の会
共催 熊本近代文学館
日時 平成16年10月20日(水)~24日(日)
会場 熊本大学五高記念館休憩室
- ③ 第3回キャンパス散歩「黒髪南地区」
主催 熊本大学五高記念館友の会
日時 平成16年11月13日(土)
 - ④ 会報『赤煉瓦通信』第3号発行
編集・発行 熊本大学五高記念館友の会
発行日 平成17年3月15日



平成17年度

- ① 平成17年度五高記念館友の会総会
日時 平成17年4月23日(土) 14:00~
記念講演 川口恭子(熊本大学学術資料調査研究推進室委員)「古文書の魅力」
- ② 色紙展
日時 平成17年9月1日~平成20年7月
主催 熊本大学五高記念館友の会
- ③ 第4回キャンパス散歩「大江キャンパス」
日時 平成17年11月21日(月)
主催 熊本大学五高記念館友の会
- ④ 文化講演会
主催 熊本近代文学館友の会
熊本大学五高記念館友の会
会場 熊本近代文学館
日時 平成18年3月13日(月) 13:30~15:00
演題・講師 「20年を迎えた熊本近代文学館」
久野啓介(熊本近代文学館館長)
- ⑤ 第1回見学ツアー「九州国立博物館特別展 中国美の十字路」

主催 熊本大学五高記念館友の会

日時 平成18年3月29日(水)

平成18年度

- ① 会報『赤煉瓦通信』第4号発行
編集・発行 熊本大学五高記念館友の会
発行日 平成18年5月1日



- ② 平成18年度五高記念館友の会総会
日時 平成18年6月10日(土)
10:30~12:00
記念講演 「新たな出発を迎えた記念館」
伊藤重剛(当館館長)
- ③ 第5回キャンパス散歩「本荘・九品寺キャンパス」
日時 平成18年11月7日(火)
主催 熊本大学五高記念館友の会

平成19年度

- ① 会報『赤煉瓦通信』第5号発行
編集・発行 熊本大学五高記念館友の会
発行日 平成19年5月1日



- ② 平成19年度五高記念館友の会総会
日時 平成19年6月2日(土)
記念講演 佐川敏明(医師)「五高とスポーツ」
- ③ 第2回見学ツアー「佐賀・資料館見学ツアー」
日時 平成19年11月25日(日)
主催 熊本大学五高記念館友の会

平成20年度

- ① 会報『赤煉瓦通信』第6号発行
編集・発行 熊本大学五高記念館友の会
発行日 平成20年5月1日



- ② 平成20年度五高記念館友の会総会
日時 平成20年5月17日(土)
記念講演
「人類と感染症根絶——地球上から天然痘
が消えた日——」
蟻田功(財)国際保健医療交流センター名譽
理事長)
(岩崎竹彦・薄田千穂・藤本秀子)

(5) その他の教育普及活動

当館では平成20年10月1日にミュージアム・フェロー及び市民研究員制度を設置した。

ミュージアム・フェローは大学院生を対象とした学内インターンシップであり、市民研究員は当館が生涯学習の振興において期待される役割を果たすことを目的に設置したものである。

以下、その背景及び目的、期待される効果等について概要を報告する。

ミュージアム・フェロー制度の設置について

[背景]

博物館法の改正に向けて設置された「これからの

博物館の在り方に関する検討協力者会議」において現行の学芸員制度について論議され、現職の学芸員の経験年数・実績にともない、初任者から管理職にいたるまでの各段階に適した養成内容と研修の在り方を整理し、「将来の学芸員のキャリア・パス（イメージ）（大学卒学芸員の場合）」が作成された（『新しい時代の博物館制度の在り方について』これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議、平成19年6月、pp30）。

これを踏まえて今後の新しい学芸員制度等の在り方について、①大学と博物館が協働して学芸員を養成する体制づくりが必要、②大学における「博物館に関する科目」は経営・教育・コミュニケーション能力の育成を重視して見直し、科目を修得した者は「学芸員基礎資格（仮称）」を付与、③博物館での一定期間の実務経験を学芸員資格の要件に位置付け、④新しい養成段階として大学院レベルの専門課程も今後検討、とされた。

要するに現行の短期大学における学芸員養成（学芸員補）を廃止し、学部教育での学芸員養成を「学芸員基礎資格」とし、学芸員養成を大学院レベルに引き上げるとともに、実務経験を重視した上で、上級学芸員制度を設けるといふものである。

ここに示された内容は学芸員養成の根幹にかかわる問題であり、資格制度の見直しについては、『博物館制度の実態に関する調査研究』（平成17年度文科省委託調査）において示された“学芸員資格は取得が容易であり、大学ごとの養成内容に差があるので、大学の養成課程の改善、充実、高度化、専門化が必要であり、加えて博物館実務の基本的な知識・実践技術を身につけていない”という博物館長等の問題意識、及びICOM（国際博物館会議）第22回総会（2007年8月、ウィーン）において決議された“より質の高い基準の制定と専門家の育成”等を受けたものである。ただし、上級学芸員制度については平成9年のカリキュラム改正の折にも検討された事柄であり、ここ10年のあいだ博物館界においてくすぶってきた問題でもある。

また、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～（答申）」（中央教育審議会、平成20年2月19日）においても、学芸員養成は、専門的な知識・能力に加え、より実践的な能力を身につけるための教育を行い、国際的にも遜色のない高い専門性と実践力を備えた質の高い人材を育成するよう、大学における養成課

程において履修すべき科目、単位についての具体的な見直しを含め、今後その在り方について検討が必要、と答申された。

今回の法改正において博物館法第5条及び6条に規定された学芸員資格制度そのものの改正には至らなかったが、法改正後に博物館法施行規則（省令）の見直し作業が行われ、そのなかで“大学の養成課程の科目数、内容の充実”“実習のガイドライン作成”“実務経験の重視”が検討され、また将来的な課題とされた“大学院における養成課程の充実（高レベルの現職研修の機会の充実）”“学芸員養成課程を有する大学における博物館の設置促進”“上級学芸員資格制度”の検討も引き続き行われる予定である。

このような博物館をめぐる諸問題及び諸改正案の論議が高まる中で、本学は平成20年4月に社会文化科学研究科文化学専攻博士前期課程に文化行政・学芸員専門職コースを設け、大学院レベルの学芸員養成及び高レベルの現職研修に対応できる体制を整えたところである。また、「学芸員養成課程を有する大学における博物館の設置促進」についても五高記念館を中心とした大学博物館の整備を進めているところである。

ただ、キャリアパスイメージにも示されたこれからの学芸員に必要な4つの能力、

- ①資料及びその専門分野に必要な知識と研究能力
 - ②資料に関する収集・保管・展示等の実践技術
 - ③学芸員としてのコミュニケーション能力
 - ④学芸員としてのマネジメント（部分管理）能力
- のうち、①②は学部養成のカリキュラム及び社文研文化行政・学芸員専門職コースに設定されたカリキュラムで対応可能である。しかし、③は博物館において市民と接するなかで培われていくものであり、④は現場で鍛える以外に方策はないとされている。

〔目的及び具体的な活動〕

前述の背景を考慮し、現行の制度設計では育成が困難なコミュニケーション能力及びマネジメント能力の充実にかんして、本学大学院生のうち学芸員有資格者を五高記念館ミュージアム・フェローに委嘱し、同館が実施する諸活動に主体的に参加（インターン・シップ）させることで、実務経験の不足を補いキャリア・アップを図ることを目的とする。

具体的なミュージアム・フェローの活動は以下のことを考えている。

- ①展覧活動（展覧会の実施及び補助）
- ②教育普及活動（ミュージアム・トーク等）

③情報の発信（①②の成果を五高記念館HP及び印刷物等にまとめて、情報を発信する）

④その他

〔期待される成果〕

① 展観活動

フィールド・ワークを実施している授業と連携し、その成果を展覧会につなげることで、本学の教育及び社会貢献活動をより広く社会に知らしめることが可能となる。また、ミュージアム・フェローに委嘱された大学院生が所属する研究室の研究成果を展示することで、本学各研究室の研究状況をより広く社会に知らしめることが可能となる。

一般的に学芸員の考えた展示は難解であると言われている。解説キャプションやパネルの表現内容、字数の分量、大きさ、それらを掲示する高さ、色彩、館内照明など、展示手法におけるちょっとした工夫が利用者サービスにつながるものであり、実際に展観を手がけ、展示批評を受けることでこうしたスキルを身につけることが期待できる。

② 教育普及活動

経験不足の学芸員による展示解説は、持てる知識のすべてを吐き出そうとするため、難解で利用者には理解不能であることが多い。それよりも鑑賞や観察のヒントを与えるような簡潔なトークのほうが、かえってサービスにつながると言われている。ミュージアム・フェローが展示にかかわり、そのミュージアム・トークを担当することで市民と接し、また批評を受けることで、コミュニケーション能力を高めることが期待できる。

③ 情報の発信

良質の情報を発信している博物館は望ましいマネジメントを行っており、望ましいマネジメントを行っている博物館は良質の情報を発信している。したがって、情報の発信とマネジメントは連動しているものであり、ミュージアム・フェローは情報発信にともなう具体的な作業を経験することでマネジメント能力を高めることが期待できる。

④ その他

ミュージアム・フェローに委嘱された人文系大学院生と自然科学系大学院生の相互交流が派生し、新たな学術的視点を提示することが期待される。

平成19年4月現在、331校が学芸員課程を開講しており（4年制大学301校、短期大学（部）30校）、年間1万人程度の学芸員有資格者を輩出している。近年の常勤学芸系職員の新規採用者数は400人程度

であり、新任職員であっても研究能力と実践的な技術を兼ね備えた能力を有することが求められている。そのため現職学芸系職員の32%以上は修士号以上を取得しているといわれており、このような厳しい状況の中で採用試験を勝ち残っていくためには、個別の学問領域における高度な研究能力に加えて、資料収集・整理、保存の具体的技術・方法、展示の構成、企画に関する知識・ノウハウが必要である。その際、本学五高記念館ミュージアム・フェローとしてのキャリアが有効に作用すると考えられる。

また、大学における学芸員養成は知識や技術の伝達よりも博物館の思想、哲学、倫理観を重視すべきであるとの意見がある。これは、「博物館とは何か」というきわめて素朴な問題及び人間としての「見識」にかかわる事柄であろう。こうした指摘に対してもミュージアム・フェローとして実地経験を積むことで対応が可能であると考えられる。

市民研究員制度について

〔背景〕

大学博物館の機能は、「収集・整理・保存」、「情報提供」、「公開・展示」、「研究」、「教育」の5つであるといわれている。なかでも、（特別）展示においては、一般の博物館では実施困難な実験的展示を行い、博物館工学実践の場としての機能を有すること、また教育においては学部・大学院教育ばかりでなく、博物館学芸員を対象としたリカレント教育に加えて一般社会人を対象とした社会教育など、生涯学習振興の拠点施設としての役割が求められている。実験的な展示は、新たな知見の提示や仮説の論証、あるいは新しい研究領域を開拓する場として位置づけられ、さまざまな展示手法を用いて先端の研究を広く社会に公開する場である（西野嘉章『大学博物館』東京大学出版会、1996年）。

生涯学習の振興については「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して（答申）」（中央教育審議会、平成20年2月19日）において、「地域社会における課題解決の機能を総合的に確保するための、社会教育施設等を活用した多様な学習の場や学習成果を生かす機会の充実」が必要であるとされた。また、ボランティア活動や社会参加等をしようとする人に対しては、学習相談から学習成果の活用までを支援する学習支援システム（ワンストップサービス）の構築が有効であること、学習活動を行う上ではキャリアアップ

に資する学習コンテンツの提供や学習相談を行い、学習活動を推進する地域の基盤（生涯学習プラットフォーム）形成が必要であること等の提言がなされた。これらは、従来の生涯学習振興方策は学習機会の提供・整備等の施策が中心であり、学習成果の発表や評価を受けること、さらにはその社会的通用性の確立に向けた具体的な方策を講じてこなかったことの反省によるものであり、学習成果を地域なり個人なりで生かす方策を打ち出すことで「知の循環型社会」の構築を目指すものである。そこでは、産業界・大学・専修学校・NPO等との連携がこれまで以上に期待されており、さらには社会教育施設と大学等のネットワーク化を推進し、それぞれの役割分担を明確にした上で、地域活動への参加に役立つ実践的な教育プログラムの共同開発等の提言もなされている。

大学にとって大学博物館は“地域に開かれた窓口”であり、今後は生涯学習振興においても、より高度化・多様化する市民のニーズに対応していくことが求められる。

〔目的〕

本学が整備を進めている大学博物館構想において、五高記念館がその中核的組織となり、生涯学習振興において期待される役割を果たすことを目的として市民研究員制度を設置する。

市民研究員は当館が実施する諸活動に参画し、また自主的に課題を見つけ、当館スタッフとともに課題解決に向けた活動を実施する。こうした活動を通して市民研究員は自らの学習成果を発表し、その評価を受けることで社会的通用性の確立が可能となろう。さらに他の博物館と連携することで、地域社会におけるワンストップサービス及び生涯学習プラットフォームの構築を模索するものである。

（岩崎竹彦）

3 調査研究事業

(1) 収蔵資料に関する調査及び五高記念館等に関する調査研究活動

収蔵資料に関する調査及び五高記念館等に関する調査研究活動の概略を記す。

平成5年1月7日に本学主計課管財係（当時）が作成した「資料館（旧第五高等学校本館）現在の展示状況調」がある。これは、館内各教室の利用状況及び展示資料についての調査報告である。

収蔵資料については、上杉勝（元法文学部勤務）の作成した「第五高等学校関係資料台帳」、東孝治（元本部事務局管財係、現在当館事務補佐員）の作成した「熊本大学五高記念館所蔵 五高関係史料目録」等の目録がある。

さらに平成13年7月に本学文学部教員が中心となって「五高記念館資料第1次調査」（調査組織：文学部吉村豊雄教授（団長）、同安田宗生教授、同森正人教授、同三澤純助教授、同稲葉継陽助教授、崇城大学松本寿三郎教授、本学大学院生）を実施した。その際、各資料1点ずつに名称・形態・寸法・数量・年次・材質・性格・配置場所等の情報が付与され、調査カードが作成されたことで収蔵資料に関する基礎データが整った。

また、平成17年1月7日には『熊本大学五高記念館所蔵 五高関係史料目録』を刊行している。

当館の収蔵資料調査は、現在も特定事業研究員薄田千穂及び事務補佐員東孝治が中心となり継続的に行っており、平成20年度からは薄田千穂が本学工学部研究資料館の収蔵資料調査を開始した。いずれこれまでの成果を集約した『熊本大学五高記念館 館蔵資料目録』及び本学の学術資料標本等を網羅した目録を作成したいと考えている。

五高記念館に関する刊行物としては、『熊本大学資料館に関する検討委員会報告』（熊本大学、平成10年3月）、『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム——熊本大学資料館検討委員会報告——』（同委員会編、1999年）、『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期五カ年計画（案）』（熊本大学五高記念館等運営委員会、平成18年2月）を発行している。これらはいずれも本学教員が実施した、大学博物館の設立及び五高記念館の整備に関する研究報告書である。

さて、当館は博物館相当施設の指定を目指して平

成18年度から活発に展覧活動を実施している。展覧会の開催にあたって、さまざまな調査研究活動を展開していることはいうまでもないが、それらについては「特別展・企画展等開催概要報告」（pp16）を参照されたい。

（岩崎竹彦）

(2) 教職員の科学研究費採択状況

平成18年度

・基盤研究（A）代表者：伊藤重剛（館長）
「ギリシア古代都市メッセネのアスクレピオス神域の建築及び考古学的国際共同調査」
直接経費：560万円 間接経費：168万円
合計：728万円

平成19年度

・奨励研究 薄田千穂（特定事業研究委員）
「第五高等学校『龍南会雑誌』目次のデータベース化及び書誌学的研究」
直接経費：76万円 間接経費：0円
合計：76万円

平成20年度

・基盤研究（C）岩崎竹彦（専任准教授）
「民俗・民具を活用した博物館における回想法・回想ワークの研究」
直接経費：120万円 間接経費：36万円
合計：156万円
・奨励研究 藤本秀子（特定事業研究委員）
「旧制第五高等学校卒業生が日本の近代化に果たした役割の研究」
直接経費：57万円 間接経費：0円
合計：57万円

(3) 教職員の外部資金受託状況

平成20年度

・岩崎竹彦：「天草市文化的景観保存調査（棚底地区社会民俗調査）」、天草市
直接経費：52万円 間接経費：0円
合計：52万円

(4) 教職員の学内拠点形成研究等

平成20年度

・岩崎竹彦：「歴史写真を活用した熊本県における生活環境の変容に関する研究」、拠点リーダー滝川清（本学沿岸域環境科学教育研究センター・自然科学研究科教授）、拠点B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」

(5) 教職員の研究活動等

【伊藤重剛（館長）】

平成18年度

〔国際会議論文（査読有）〕

- ① Ryuichi YOSHITAKE, Juko Ito, Hiroto Watanabe and Nobuo Kochi: 「Photogrametric Measuring for Historical Buildings and Excavation: The Project of Ancient Messene in Greece」, 『The e-volution of Information Communication Technology in Cultural Heritage, Short Paper from the Joint Event CIPA/VAST/EG/EuroMed 2006』, Cyprus, pp231-236, November 2006.

〔研究報告・解説等（査読なし）〕

- ① 安井伸顕、伊藤重剛、林田義伸：「地中海古代都市の研究（120）古代都市メッセネのメッセネ神殿調査報告2006」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第46号3、pp705-708、2007年

〔著書（研究書）〕

- ① 伊藤重剛：『ギリシア古代都市メッセネのアスクレピオス神域の建築及び考古学的国際共同調査』、日本学術振興会科学研究費補助金、基盤（A）海外、課題番号16254005、A4版、全212頁、2007年3月

平成19年度

〔研究報告・解説等（査読なし）〕

- ① 伊藤重剛：「ギリシア古代都市メッセネの建築調査と3次元CG復元」、『第2回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ』、奈良文化財研究所、pp76-81、2008年3月
- ② 右近和磨、伊藤重剛：「旧第六師団兵営の建築に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告

（計画系）』第47号3、pp669-672、2008年

- ③ 中野周平、大坪慎一郎、伊藤重剛：「旧熊本高等工業学校RC造本館の建築に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第47号3、pp673-676、2008年
- ④ 安井伸顕、伊藤重剛、林田義伸：「地中海古代都市の研究（121）古代都市メッセネにおけるメッセネ神殿調査報告2007」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第47号3、pp805-808、2008年
- ⑤ 谷 皓司、伊藤重剛：「地中海古代都市の研究（122）古代ローマのコロッセウムの設計法に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第47号3、pp809-812、2008年

〔著書（一般書）〕

- ① 伊藤重剛、中村青史、三澤 純、東 孝治、岩崎竹彦、薄田千穂、藤本秀子：『第五高等学校熊本大学五高記念館図録』、熊本大学五高記念館図録編集委員会、全200頁、2007年10月
- ② 伊藤重剛：『エーゲ海のライフスタイル 食と住の今昔』（熊本大学ブックレット 知のフロンティア講座）、熊本日日新聞社、全61頁、2008年2月

〔国内会議〕

- ① 伊藤重剛：「建築史における衰退の歴史」、日本建築学会大会、歴史意匠研究協議会、福岡大学、2007年8月30日、パネラー
- ② 伊藤重剛：「三角西港の建設」、三角西港築港120年記念事業シンポジウム、宇城市町民センター、2007年10月21日
- ③ 伊藤重剛：「エーゲ海のライフスタイル」、知のフロンティア講座、熊本大学工学部百周年記念館、2007年11月23日開催

〔新聞等による取材〕

- ① 伊藤重剛：「三角西港」、熊本日日新聞、2007年12月23日
- ② 伊藤重剛：「五高の魂、若い世代に」、読売新聞、2007年10月26日

平成20年度

〔研究論文（査読有）〕

- ① Akisumi Takeda, Juko Ito : 「Planning method of the Nereid Monument at Xanthos」, 『日本建築学会計画系論文集』第73巻第627号、pp1105-1112、2008年5月

- ② 林田義伸、伊藤重剛：「古代ギリシア都市メッセネにおけるアスクレピオス神域の設計法に関する研究」、『日本建築学会計画系論文集』第74巻第636号、pp479-486、2009年2月

[研究報告・解説等(査読なし)]

- ① 谷 皓司、伊藤重剛、吉武隆一、林田義伸、中之丸論志、國竹真由美、足立義幸：「地中海古代都市の研究(123) 古代都市メッセネにおける劇場調査報告(1) 概況」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第48号3、pp 773-776、2009年
- ② 中之丸論志、伊藤重剛、吉武隆一、林田義伸、谷 皓司、國竹真由美、足立義幸：「地中海古代都市の研究(124) 古代都市メッセネにおける劇場調査報告(1) 出土部材」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第48号3、pp 777-780、2009年
- ③ 安井伸顕、伊藤重剛：「地中海古代都市の研究(126) ヘレニズム期におけるドリス式柱のプロポーシオンに関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第48号3、pp 781-784、2009年
- ④ 伊藤重剛、末藤武志：「明治の熊本監獄に関する研究(1)」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第48号3、pp 697-700、2009年
- ⑤ 末藤武志、伊藤重剛：「明治の熊本監獄に関する研究(2)」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第48号3、pp701-704、2009年
- [新聞等による取材]
- ① 伊藤重剛：「三角西港」、日本経済新聞夕刊、2008年10月30日
- ② 伊藤重剛：「熊本大学工学部研究資料館」、熊本日日新聞夕刊、2009年1月30日

【岩崎竹彦(専任准教授)】

平成18年度

[論文]

- ① 岩崎竹彦：「紀の川・熊野川流域と民俗」、『季刊 河川レビュー』第134号(新公論社)、pp125-135、2006年5月

[学術記事]

- ① 岩崎竹彦：「伝統行事と観光」、『山陽新聞』(山陽新聞社)、pp32、2006年4月5日
- ② 岩崎竹彦：「桜」、『山陽新聞』(山陽新聞社)、pp32、2006年4月11日

- ③ 岩崎竹彦：「民具と社会福祉」、『近畿民具学会設立30周年記念セミナー 民具が語る現代社会』、pp11-14、2006年4月23日

- ④ 岩崎竹彦：「鯉のぼり」、『山陽新聞』(山陽新聞社)、pp28、2006年5月2日

- ⑤ 岩崎竹彦：「五月人形」、『山陽新聞』(山陽新聞社)、pp34、2006年5月7日

- ⑥ 岩崎竹彦：「民具のチカラ」、『備北新聞』(備北新聞社)、pp 2、2006年5月15日

- ⑦ 岩崎竹彦：「民具がつなぐ老人と子ども(上)」、『備北新聞』(備北新聞社)、pp 2、2006年6月5日

- ⑧ 岩崎竹彦：「民具がつなぐ老人と子ども(下)」、『備北新聞』(備北新聞社)、pp 2、2006年6月15日

[シンポジウム・講演会等]

- ① 岩崎竹彦：講演「思い出と記憶が博物館を活性化する——回想法のススメ——」、主催 香川県資料館協議会(第47回総会)、会場 香川県立歴史博物館、2006年7月

平成19年度

[著書]

- ① 岩崎竹彦編：『福祉のための民俗学——回想法のススメ——』、慶友社、2008年1月28日

[論文]

- ① 岩崎竹彦：「民俗文化と回想法」、『民俗文化財保護行政の現場から』(岩田書院)、pp130-142、2007年10月

[学術記事]

- ① 岩崎竹彦：「五高記念館で旧制第五高等学校の雰囲気を感じてみませんか」「五高こぼれ話①」、『熊本大学五高記念館ニュースレター』第3号(熊本大学五高記念館)、pp2-3、2007年6月1日
- ② 岩崎竹彦：「おススメの一冊 宮本常一『民俗学の旅』」、『熊大通信』第25号(熊本大学)、pp16、2007年7月
- ③ 岩崎竹彦：「熊本大学熊薬100周年記念ホール史料室」「熊本大学工学部研究資料館」「熊本大学五高記念館」「熊本大学大学院薬学教育部附属薬用植物園」、『大学博物館事典 市民に開かれた知とアートのミュージアム』(日外アソシエーツ)、pp500-516、2007年8月27日
- ④ 岩崎竹彦：「書評 千地万造・木下達文著『ひろがる日本のミュージアム——みんなで育て楽しむ

文化の時代——』、『紫明』第21号（丹波古陶館・能楽資料館友の会）、pp102、2007年9月25日

- ⑤ 岩崎竹彦：「上林暁」「梅崎春生」「龍南七不思議」、『第五高等学校』（熊本大学五高記念館）、pp69 pp70 pp79、2007年10月10日
- ⑥ 岩崎竹彦：「子の年はなぜめでたいのか!？」、『備北新聞』（備北新聞社）、pp5、2008年1月5日
- ⑦ 岩崎竹彦：「平山敏治郎先生を偲んで」、『民俗学研究所ニュース』第79号（成城大学民俗学研究所）、pp1、2008年1月25日
- ⑧ 岩崎竹彦：「紀州・新宮からみた不白」、『孤峰』第30巻第2号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年2月10日
- ⑨ 岩崎竹彦：「書評 谷晃著『茶人たちの日本文化史』」、『紫明』第22号（丹波古陶館・能楽資料館友の会）、pp106、2008年3月20日
- ⑩ 岩崎竹彦：「平成19年度特別展『衝撃エネルギーの世界へようこそ!』」「五高こぼれ話②」「平成19年度『はじめてのキュレーター体験!?!』展」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第4号（熊本大学五高記念館）、pp4-6、2008年3月31日
〔シンポジウム・講演会等〕
- ① 岩崎竹彦：講演「江戸千家と紀州」（えどはくカルチャー川上不白の茶）、主催 江戸東京博物館、会場 江戸東京博物館、2008年11月18日
- ② 岩崎竹彦：講演「回想法のススム」、主催 熊本市立熊本博物館博萌会、会場 熊本市立熊本博物館研修室、2008年3月6日

平成20年度

〔学術記事〕

- ① 岩崎竹彦：「『南紀徳川史』と不白（上）」、『孤峰』第30巻第4号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年4月10日
- ② 岩崎竹彦：「平成19年度『はじめてのキュレーター体験!?!』展」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第5号（熊本大学五高記念館）、pp3、2008年4月30日
- ③ 岩崎竹彦：「『利休の再来』川上不白」、『NEWSきのくに』第10号（きのくに活性化センター）、pp4、2008年4月30日
- ④ 岩崎竹彦：「『南紀徳川史』と不白（下）」、『孤峰』第30巻第5号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年5月10日
- ⑤ 岩崎竹彦：「不白、忠昭に仕官する」、『孤峰』第

30巻第8号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年8月10日

- ⑥ 岩崎竹彦：「熊野本宮大社と江戸千家」、『孤峰』第30巻第9号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年9月10日
- ⑦ 岩崎竹彦：「二代自得斎宗幸の病休願い」、『孤峰』第30巻第10号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年10月10日
- ⑧ 岩崎竹彦：「徳川治宝と水野忠央」、『孤峰』第30巻第11号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年11月10日
- ⑨ 岩崎竹彦：「幕末の動乱と江戸千家」、『孤峰』第30巻第12号（財団法人江戸千家茶道会）、pp42-45、2008年12月10日
〔学会発表等〕

① 岩崎竹彦：口頭発表「小泉八雲の日本研究」、熊本大学小泉八雲研究会例会、2008年7月24日

〔シンポジウム・講演会等〕

- ① 岩崎竹彦：講演「地域の核としての祭りの可能性——祭礼行事からフェスティバルへ——」（熊本学コース くまもとの祭り——まつりは地域の元気のもと——）、主催 熊本県教育委員会生涯学習推進センター、会場 くまもと県民交流館パレア、2008年8月27日
- ② 岩崎竹彦：講演「思い出のチカラ」、主催 熊本市立熊本博物館、会場 熊本市立熊本博物館研修室、2008年9月13日
- ③ 岩崎竹彦：講演「紀州発の茶の湯の道統」（フォーラム『茶人・川上不白が発信するもの～熊野からのまなざし・江戸からのまなざし～』）、主催 きのくに活性化センター、会場 新宮商工会議所、2008年11月15日

【藤本秀子（特定事業研究員）】

平成18年度

- ① 藤本秀子：展示解説とキャプション、企画展『創業140年富重写真所の古写真にみる熊本と五高』（熊本大学五高記念館）、2006年3月1日～4月7日
- ② 藤本秀子：「ラフカディオ・ハーン」、第二回ラフカディオ・ハーン生誕記念コンサート『ハーンの愛した日本の音色』チラシ（熊本大学五高記念館）、2006年6月27日
- ③ 藤本秀子：展示キャプション、企画展「旧制第

五高等学校オリジナル設計図面展『赤煉瓦—明治の夢と情熱』(熊本大学五高記念館)、2006年7月20日～9月24日

- ④ 藤本秀子：展示キャプション、企画展「夏目漱石『草枕・二百十日』発表100年記念展『五高時代の漱石先生』(熊本大学五高記念館)、2006年11月3日～12月10日
- ⑤ 藤本秀子：展示解説とキャプション、写真展「『空想散歩』絵葉書にみる古き熊本の街かど」(熊本大学五高記念館)、2007年3月15日～5月28日

平成19年度

- ① 藤本秀子：展示解説とキャプション、「第五高等学校開校120周年記念寄贈資料展『レジェンド—五高龍南健児達の青春』(熊本大学五高記念館)、2007年10月10日～12月17日
- ② 藤本秀子：トピック「五高生 萩原朔太郎」「物理学者 寺田寅彦」「萬葉の人 犬飼孝」「五高七高対抗戦」「五高生と熊本の街」「ストーム」「重光葵」「五高の女生徒」、『第五高等学校』(熊本大学五高記念館)、2007年10月10日
- ③ 藤本秀子：「第1回五高記念館文化講座『細川家お殿様の食卓』」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第4号(熊本大学五高記念館)、pp2、2008年3月31日
- ④ 藤本秀子：「第3回ラフカディオ・ハーン生誕記念コンサート『日本の音 西洋の音』」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第4号(熊本大学五高記念館)、pp3、2008年3月31日

平成20年度

- ① 藤本秀子：展示解説とキャプション、「くまもとの産業遺産展—明治篇—」(熊本大学五高記念館)、2008年4月10日～6月30日
- ② 藤本秀子：「寄贈資料展 レジェンド—五高龍南健児達の青春」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第5号(熊本大学五高記念館)、pp2、2008年4月30日
- ③ 藤本秀子：「記念品のこと」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第5号(熊本大学五高記念館)、pp2、2008年4月30日
- ④ 藤本秀子：展示解説とキャプション、「Dr.Arit 天然痘根絶の軌跡」(熊本大学五高記念館)、2008年5月8日～6月30日
- ⑤ 藤本秀子：「記念焼酎『龍南』と紙袋の意匠」、

『全国五高会報』第113号(全国五高会会報編集室)、pp10-11、2009年3月27日

【薄田千穂(特定事業研究員)】

平成19年度

- ① 薄田千穂：第1章「収藏品」節説明、「森有礼の視察」「学生服の教授厨川白村」「七年間の五高生活村川堅固」等トピック25編、写真キャプション・解説『第五高等学校』(熊本大学五高記念館)、2007年10月10日

平成20年度

- ① 薄田千穂：「五高記念館図録『第五高等学校』」、『熊本大学五高記念館ニュースレター 龍南』第5号(熊本大学五高記念館)、pp2、2008年4月30日
- ② 薄田千穂：「図録編集の苦心など」『全国五高会報』第113号(全国五高会会報編集室)、pp11、2009年3月27日

4 その他の事業

(1) 害虫生息状況調査

平成19年度から20年度にかけて五高記念館及び化学実験場に害虫捕獲トラップを設置して害虫生息状況調査を実施した(写真1)。トラップの設置数は五高記念館が94か所、化学実験場が26か所、合計120か所である(トラップ設置場所図面参照)。

調査期間及び調査結果は次の通りである。なお、『文化財害虫事典』(独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所、2001年)に記載されている害虫は網掛けで示した。



写真1 事務室に設置したトラップ

【第1回調査】

調査期間：平成20年2月5日～同年2月19日

・第1回五高記念館調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
第5展示室	1	トビムシ1
	2	トビムシ1
	3	なし
	4	なし
復原教室	5	なし
	6	なし
	7	トビムシ1
	8	チャタテ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
資料整理室	9	なし
	10	なし
	11	クモ1
	12	なし
第6展示室	13	なし
	14	なし
	15	なし
	16	なし

情報プラザ・図書室・休憩室	17	なし
	18	なし
	19	なし
	20	なし
事務室・研究室・会議室	21	なし
	22	ハエ1
	23	なし
	24	なし
第1収蔵室	25	なし
	26	なし
	27	なし
	28	なし
第2収蔵室	29	なし
	30	なし
	31	なし
	32	なし
博物館実習室	33	なし
	34	なし
	35	ハエ1
	36	なし
講義室	37	なし
	38	なし
	39	なし
	40	チャタテ1、ハエ2
1階ギャラリー	41	ハエ2
	42	なし
	43	ハエ1
	44	アリ1
	45	なし
	46	ハエ1
第4展示室	47	なし
	48	なし
	49	なし
	50	なし
第3展示室	51	なし
	52	なし
	53	なし
	54	なし
	55	なし
	56	なし
第2展示室	57	なし
	58	なし
	59	なし
	60	なし

第1展示室	61	なし
	62	なし
	63	チャタテ1、ハエ1
	64	なし
展示準備室	65	なし
	66	なし
	67	なし
	68	クモ1
第1企画展示室	69	なし
	70	クモ1
	71	なし
	72	なし
第2企画展示室	73	なし
	74	ハエ1
	75	ユスリカ1
	76	なし
第3企画展示室	77	なし
	78	ユスリカ1
	79	なし
	80	なし
第4企画展示室	81	なし
	82	なし
	83	ハエ1
	84	なし
展示資材室	85	なし
	86	ハエ1
	87	なし
	88	なし
2階ギャラリー	89	なし
	90	なし
	91	なし
	92	なし
	93	なし
	94	なし

・第1回化学実験場調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
階段教室	95	クモ1、ハエ2、アリ3
	96	なし
	97	クモ2、ハエ2
	98	ハエ1
	99	なし
	100	ハエ1、トビムシ1

教室1	101	なし
	102	なし
	103	トビムシ1
	104	なし
教室2	105	なし
	106	なし
	107	なし
	108	なし
教室3	109	なし
	110	ハエ1
	111	なし
	112	なし
準備室	113	なし
	114	なし
教室4	115	トビムシ1
	116	クモ1、ハエ1
	117	なし
	118	なし
廊下	119	ハエ2、トビムシ1
	120	クモ3、チョウバエ2、トビムシ1

【第2回調査】

調査期間：平成20年5月28日～同年6月11日

・第2回五高記念館調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
第5展示室	1	ハエ1
	2	クモ3、チョウバエ1
	3	ハエ1
	4	クモ3、チョウバエ3
復原教室	5	ハエ3
	6	アリ1、ハエ1
	7	ダンゴムシ2、ハエ2、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
	8	ダンゴムシ2、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
資料整理室	9	ハエ2
	10	なし
	11	チョウバエ2、チャタテ1
	12	クモ2、ハエ1、チャタテ1
第6展示室	13	クモ2、ハエ3
	14	クモ1、ハエ1、ダンゴムシ6
	15	クモ3
	16	ダンゴムシ1、クモ2

情報プラザ・ 図書室・休憩室	17	クモ2、ハエ3
	18	ダンゴムシ4
	19	ハエ8、クモ1
	20	ヒョウホンムシ1
事務室・研究 室・会議室	21	クモ3、ハエ6
	22	クモ1、ヒョウホンムシ2
	23	クモ1
	24	ゴミムシ1、ダンゴムシ1、クモ3
第1収蔵室	25	ダンゴムシ1、クモ1
	26	ハエ7
	27	クモ2、チョウバエ2、ダンゴ ムシ2、チャタテ1
	28	クモ1、ハエ2
第2収蔵室	29	ハエ2、ダンゴムシ8
	30	クモ2
	31	アリ1、ハエ3
	32	ハエ1
博物館実習室	33	なし
	34	ダンゴムシ1、トビムシ1、ハエ4
	35	クモ1、ハエ2
	36	ゴミムシ1、クモ1
講義室	37	クモ1、ハエ2、ヒメマルカツ オブシムシ成虫1
	38	アリ1、ハエ4
	39	クモ3、ゴミムシ2
	40	クモ1、ゴミムシ1、ハエ2
1階ギャラリー	41	チョウバエ16、ハエ4
	42	クモ2、
	43	クモ3、チャタテ4
	44	クモ2、ダンゴムシ1
	45	ガ1、チャタテ4
	46	チョウバエ3、ハエ6、ヒメマ ルカツオブシムシ成虫1
第4展示室	47	ヒョウホンムシ2
	48	クモ2、アリ1
	49	ゴキブリ1、クモ2、ダンゴムシ7
	50	なし
第3展示室	51	クモ2
	52	ダンゴムシ6
	53	ダンゴムシ1、クモ3、ヒョウ ホンムシ4
	54	ダンゴムシ1、クモ2
	55	クモ4、ヒョウホンムシ1
	56	クモ3、チャタテ3

第2展示室	57	チャタテ2
	58	クモ3
	59	クモ5、ハエ1
	60	なし
第1展示室	61	クモ3
	62	クモ5、ハエ2
	63	チャタテ5
	64	なし
展示準備室	65	クモ2、チャタテ2
	66	クモ2
	67	クモ3、トビムシ1
	68	なし
第1企画展示室	69	クモ8、ダンゴムシ多
	70	クモ6、ダンゴムシ多
	71	クモ11、トビムシ1、ヒョウホ ンムシ1
	72	クモ3、ヒョウホンムシ3、ダ ンゴムシ多
第2企画展示室	73	クモ4、ダンゴムシ多
	74	クモ14、ハエ2、ダンゴムシ多
	75	クモ4、トビムシ1、ダンゴムシ多
	76	クモ7、ダンゴムシ多
第3企画展示室	77	クモ3、ハエ1
	78	クモ5、ヒョウホンムシ3、ダ ンゴムシ多
	79	クモ2、ヒョウホンムシ3、ダ ンゴムシ多
	80	クモ2、ダンゴムシ多
第4企画展示室	81	クモ7、ダンゴムシ多
	82	クモ3、チャタテ4
	83	ダンゴムシ1、クモ1
	84	クモ4、ダンゴムシ多
展示資材室	85	クモ1、ダンゴムシ多
	86	クモ8、チョウバエ1、ダンゴ ムシ多
	87	クモ3、チャタテ4
	88	ダンゴムシ多、チャタテ2
2階ギャラリー	89	ヒョウホンムシ1、チャタテ4
	90	クモ3、チャタテ1、ダンゴムシ4
	91	クモ2
	92	イエバエ1、クモ3、ヒョウホ ンムシ2
	93	クモ2、ハエ1
	94	クモ2、チャタテ4

・第2回化学実験場調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
階段教室	95	クモ4、ハエ18
	96	ハエ2、クモ1
	97	クモ7、ダンゴムシ2
	98	クモ6、セイヨウシミ1
	99	クモ4
	100	クモ8
教室1	101	クモ4、ハエ4
	102	クモ1、トビムシ1
	103	クモ3
	104	コメツキムシ1
教室2	105	なし
	106	なし
	107	クモ2
	108	クモ1
教室3	109	クモ2、チョウバエ2
	110	クモ3、チョウバエ1
	111	チョウバエ2
	112	トビムシ5、チョウバエ2
準備室	113	クモ2
	114	チョウバエ7、セイヨウシミ1
教室4	115	クモ1
	116	クモ8
	117	クモ1、チョウバエ2
	118	クモ1
廊下	119	クモ1、ダンゴムシ5、ガ1
	120	ゴキブリ1、ダンゴムシ2

【第3回調査】

調査期間：平成20年8月7日～同年8月21日

・第3回五高記念館調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
第5展示室	1	なし
	2	クモ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、トビムシ4
	3	ダンゴムシ1、トビムシ5、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
	4	ハエ1、トビムシ8
復原教室	5	コオロギ1、ダンゴムシ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
	6	ダンゴムシ1、ハエ2、トビムシ8
	7	チャタテ2、ハエ2、トビムシ2
	8	ヒメマルカツオブシムシ2、トビムシ3、クモ2

資料整理室	9	ハエ1
	10	なし
	11	チャタテ2、トビムシ2
	12	チャタテ4、ハエ1、トビムシ2
第6展示室	13	トビムシ5
	14	トビムシ2
	15	クモ4、トビムシ3
	16	コオロギ2
情報プラザ・ 図書室・休憩室	17	チャタテ4、トビムシ2
	18	ハエ5
	19	クモ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫2、ダンゴムシ1、トビムシ4
	20	ヒメマルカツオブシムシ1、トビムシ2、クモ1
事務室・研究 室・会議室	21	トビムシ2、クモ1
	22	ヒョウホンムシ1、クモ2
	23	ヒョウホンムシ1
	24	ヒョウホンムシ2、クモ2
第1収蔵室	25	なし
	26	クモ1
	27	クモ1
	28	なし
第2収蔵室	29	クモ2、ダンゴムシ1
	30	トビムシ3
	31	クモ3、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、セイヨウシミ1
	32	ヒョウホンムシ1、トビムシ3
博物館実習室	33	ゴミムシ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
	34	コオロギ1、トビムシ2
	35	トビムシ2、クモ1
	36	トビムシ7、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
講義室	37	コオロギ1、ダンゴムシ2
	38	ダンゴムシ1、クモ3、ゴミムシ2
	39	クモ1、トビムシ3
	40	クモ2、トビムシ4
1階ギャラリー	41	ハエ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、トビムシ8
	42	クモ2、トビムシ2
	43	トビムシ2、ヒョウホンムシ1
	44	クモ1、アリ1
	45	セイヨウシミ1、クモ2、トビムシ5
	46	クモ1

第4展示室	47	アリ1、トビムシ5、クモ1
	48	ヒョウホンムシ1、ハエ2
	49	ヒョウホンムシ3、ダンゴムシ1
	50	ヒョウホンムシ6
第3展示室	51	ヒョウホンムシ2
	52	トビムシ2、ハエ1、チャタテ1
	53	ヒョウホンムシ1、クモ1、トビムシ3
	54	ヒョウホンムシ1、クモ1
	55	カ1、ヒョウホンムシ2
	56	ヒョウホンムシ2、クモ4、ハエ1
第2展示室	57	セイヨウシミ1、ヒョウホンムシ3
	58	ヒョウホンムシ1、トビムシ3
	59	クモ4、ヒョウホンムシ2、トビムシ6、ハエ2
	60	クモ1、チャタテ1
第1展示室	61	セイヨウシミ1、クモ1
	62	クモ3
	63	クモ5
	64	なし
展示準備室	65	クモ1、コオロギ1
	66	クモ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、トビムシ4
	67	クモ8、トビムシ2
	68	クモ2
第1企画展示室	69	ヒョウホンムシ1、ハエ2、トビムシ3
	70	クモ1、ハエ2
	71	ダンゴムシ1、ヒョウホンムシ1
	72	ダンゴムシ1、ヒョウホンムシ1
第2企画展示室	73	トビムシ2、クモ1
	74	トビムシ2
	75	ヒョウホンムシ1、トビムシ3
	76	ヒョウホンムシ1、ダンゴムシ1、トビムシ2
第3企画展示室	77	トビムシ1、クモ1
	78	トビムシ5
	79	ヒョウホンムシ2、トビムシ9
	80	ヒョウホンムシ2、トビムシ4、クモ2
第4企画展示室	81	ダンゴムシ1、ゴキブリ1
	82	トビムシ3、ハエ1、クモ2
	83	ダンゴムシ2、トビムシ4、クモ8
	84	ヒョウホンムシ1、トビムシ5、クモ2

展示資材室	85	ヒョウホンムシ1
	86	ダンゴムシ1、トビムシ3、クモ2
	87	チョウバエ1、ヒメマルカツオブシムシ抜殻1
	88	クモ1、ダンゴムシ2、トビムシ1
2階ギャラリー	89	コオロギ1、ヒョウホンムシ2
	90	ヒョウホンムシ4、トビムシ3
	91	コオロギ1
	92	ヒョウホンムシ1、トビムシ2
	93	セイヨウシミ1、ヒョウホンムシ4、クモ4
	94	セイヨウシミ1、ダンゴムシ1

・第3回化学実験場調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
階段教室	95	不明
	96	セイヨウシミ1
	97	トビムシ2、コガネムシ1、ハエ多
	98	トビムシ15、ハエ2
	99	クモ2
	100	クモ2、ハエ4、トビムシ2、ダンゴムシ1
教室1	101	クモ1、チョウバエ1
	102	ハエ3、トビムシ1
	103	クモ1、ハエ3
	104	トビムシ4
教室2	105	トビムシ7
	106	なし
	107	クモ1、トビムシ1
	108	なし
教室3	109	不明
	110	アリ1、トビムシ3
	111	クモ1、トビムシ2、ハエ3
	112	アリ1、トビムシ2、ハエ3
準備室	113	トビムシ1
	114	クモ2
教室4	115	ハエ10、トビムシ2
	116	不明
	117	ハエ4、ガ2、ダンゴムシ1
	118	不明
廊下	119	カ1、ハエ6
	120	ダンゴムシ1、クモ1、ハエ4、トビムシ5

(回収時にトラップが行方不明となり回収できなかったものは不明と記した。)

【第4回調査】

調査期間：平成20年11月5日～同年11月19日

・第4回五高記念館調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
第5展示室	1	なし
	2	クモ類2、トビムシ1
	3	ダンゴムシ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
	4	なし
復原教室	5	ハエ類1、トビムシ1
	6	ダンゴムシ1、トビムシ1
	7	ダンゴムシ2、トビムシ1
	8	ゴキブリ1
資料整理室	9	チャタテ2、ハエ2
	10	クモ類2、ハエ1
	11	ハエ類2、クモ1
	12	ヒョウホンムシ2
第6展示室	13	なし
	14	なし
	15	ヒョウホンムシ1
	16	チャタテ1、ハエ2
情報プラザ・ 図書室・休憩室	17	チャタテ2、トビムシ1
	18	ダンゴムシ1、ハエ1、トビムシ1
	19	クモ2
	20	ヒョウホンムシ2、ハエ2
事務室・研究 室・会議室	21	ヒョウホンムシ1
	22	なし
	23	なし
	24	ヒョウホンムシ1、ハエ2
第1収蔵室	25	なし
	26	なし
	27	なし
	28	なし
第2収蔵室	29	クモ2
	30	ダンゴムシ2、トビムシ2
	31	ヒョウホンムシ2、ハエ2
	32	ヒョウホンムシ1、ハエ2
博物館実習室	33	トビムシ2、ハエ1
	34	ヒョウホンムシ2、ハエ1
	35	クモ2
	36	クモ1、ハエ2

講義室	37	ダンゴムシ2、ハエ2
	38	ヒョウホンムシ1、ハエ1
	39	クモ1、ハエ2
	40	クモ1、トビムシ2
1階ギャラリー	41	なし
	42	クモ2、ハエ1
	43	クモ1
	44	クモ1、トビムシ2
	45	トビムシ3、クモ2
	46	セイヨウシミ1
第4展示室	47	なし
	48	セイヨウシミ1
	49	なし
	50	クモ1
第3展示室	51	なし
	52	なし
	53	なし
	54	なし
	55	ヒョウホンムシ2
	56	ゴキブリ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
第2展示室	57	チャタテ1
	58	ハエ2、ヒョウホンムシ1
	59	なし
	60	なし
第1展示室	61	なし
	62	なし
	63	なし
	64	なし
展示準備室	65	ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、トビムシ2
	66	なし
	67	なし
	68	なし
第1企画展示室	69	ヒメマルカツオブシムシ幼虫1
	70	なし
	71	カメムシ1、ハエ1
	72	ヒョウホンムシ1、ハエ1
第2企画展示室	73	ハエ1
	74	なし
	75	なし
	76	なし

第3企画展示室	77	なし
	78	ハエ2
	79	ギンバエ2
	80	なし
第4企画展示室	81	ハエ1、トビムシ1
	82	なし
	83	ゴキブリ1
	84	なし
展示資材室	85	なし
	86	なし
	87	なし
	88	なし
2階ギャラリー	89	ハエ1
	90	クモ1
	91	なし
	92	なし
	93	なし
	94	ハエ2

・第4回化学実験場調査結果

調査場所	No.	捕獲虫名及び捕獲数
階段教室	95	なし
	96	なし
	97	アリ1、トビムシ12
	98	トビムシ2
	99	なし
	100	なし
教室1	101	なし
	102	なし
	103	なし
	104	なし
教室2	105	なし
	106	なし
	107	ハエトリグモ1
	108	なし
教室3	109	なし
	110	なし
	111	なし
	112	なし
準備室	113	クモ2
	114	クモ2、カ1
教室4	115	カ1
	116	なし
	117	なし
	118	なし
廊下	119	なし
	120	ダンゴムシ2

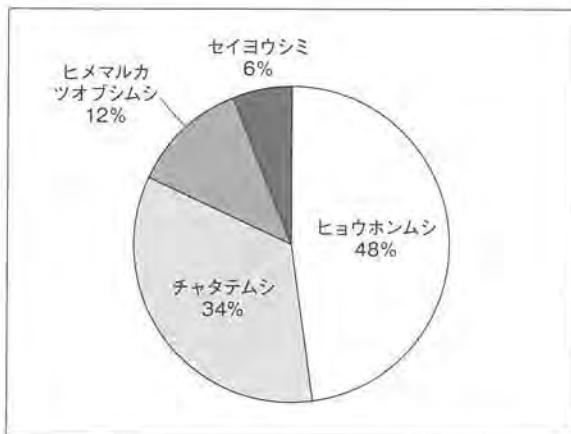
第1回目の調査では、五高記念館復原教室でチャタテ1、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、同講義室でチャタテ1、同第1展示室でチャタテ1を捕獲した。

第2回目の調査では、五高記念館復原教室でヒメマルカツオブシムシ幼虫2、同資料整理室でチャタテムシ2、同情報プラザ・図書室・休憩室でヒョウホンムシ1、同事務室・研究室・会議室でヒョウホンムシ2、同第1収蔵室でチャタテムシ1、同講義室でヒメマルカツオブシムシ成虫1、同1階ギャラリーでチャタテムシ8、ヒメマルカツオブシムシ成虫1、同第4展示室でヒョウホンムシ2、同第3展示室でヒョウホンムシ5、チャタテムシ3、同第2展示室でチャタテムシ2、同第1展示室でチャタテムシ5、同展示準備室でチャタテムシ2、同第1企画展示室でヒョウホンムシ4、同第3企画展示室でヒョウホンムシ6、同第4企画展示室でチャタテムシ4、同展示資材室でチャタテムシ6、同2階ギャラリーでヒョウホンムシ3、チャタテムシ9を捕獲した。また、化学実験場階段教室でセイヨウシミ1、同準備室でセイヨウシミ1を捕獲した。

第3回目の調査では、五高記念館第5展示室でヒメマルカツオブシムシ幼虫2、同復原教室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1、チャタテムシ2、ヒメマルカツオブシムシ2、同資料整理室でチャタテムシ6、同情報プラザ・図書室・休憩室でチャタテムシ4、ヒメマルカツオブシムシ幼虫2、ヒメマルカツオブシムシ1、同事務室・研究室・会議室でヒョウホンムシ4、同第2収蔵室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1、セイヨウシミ1、ヒョウホンムシ1、同博物館実習室でヒメマルカツオブシムシ幼虫2、同1階ギャラリーでヒメマルカツオブシムシ幼虫1、ヒョウホンムシ1、セイヨウシミ1、同第4展示室でヒョウホンムシ10、同第3展示室でヒョウホンムシ8、チャタテムシ1、同第2展示室でセイヨウシミ1、ヒョウホンムシ6、チャタテムシ1、同第1展示室でセイヨウシミ1、同展示準備室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1、同第1企画展示室でヒョウホンムシ3、同第2企画展示室でヒョウホンムシ2、同第3企画展示室でヒョウホンムシ4、同第4企画展示室でヒョウホンムシ1、同展示資材室でヒョウホンムシ1、ヒメマルカツオブシムシ抜殻1、同2階ギャラリーでヒョウホンムシ11、セイヨウシミ2を捕獲した。また、化学実験場階段教室でセイヨウシミ1を捕獲した。

第4回目の調査では、五高記念館第5展示室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1、同資料整理室でチャタテムシ2、ヒョウホンムシ2、同第6展示室でヒョウホンムシ1、チャタテムシ1、同情報プラザ・図書室・休憩室でチャタテムシ2、ヒョウホンムシ2、同事務室・研究室・会議室でヒョウホンムシ2、同第2収蔵室でヒョウホンムシ3、同博物館実習室でヒョウホンムシ2、同講義室でヒョウホンムシ1、同1階ギャラリーでセイヨウシミ1、同第4展示室でセイヨウシミ1、同第3展示室でヒョウホンムシ2、ヒメマルカツオブシムシ幼虫1、同第2展示室でチャタテムシ1、ヒョウホンムシ1、同展示準備室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1、同第1企画展示室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1、ヒョウホンムシ1を捕獲した。

今回の調査で捕獲できた文化財害虫は、ヒメマルカツオブシムシ23頭、セイヨウシミ11頭、ヒョウホンムシ92頭、チャタテムシ65頭、合計191頭であった。ヒョウホンムシが全体の48%を占め、チャタテムシが34%、ヒメマルカツオブシムシが12%、セイヨウシミが6%の割合である。



ヒョウホンムシ類は日本では4属7種が知られ、ニセセマルヒョウホンムシとナガヒョウホンムシがその代表種とされている。

ニセセマルヒョウホンムシは本州以南に生息し、動植物標本・昆虫標本・各種貯蔵食品を加害する。幼虫または成虫で越冬し、春から夏にかけて羽化する。幼虫期に加害穿孔し、加害程度は低いものの博物館・美術館における発生頻度は高い。『文化財害虫事典』(前掲)では加害虫重要度B(文化財への被害発生頻度は高いが加害力は強大でない害虫、または被害発生頻度は低い、多大な被害をもたらす害虫)にランクされている。

ナガヒョウホンムシは日本全土に生息し、動植物

標本・昆虫標本・毛織物・各種貯穀類を加害する。幼虫または成虫で越冬し、幼虫期・成虫期ともに加害する。加害程度は低い、博物館・美術館における発生頻度は高い。『文化財害虫事典』(前掲)では加害虫重要度Bにランクされている。

チャタテムシは非常に多くの種類があり、世界中で1700種ほどが知られている。代表的な種類はコチャタテ、カツブシチャタテ、ヒラタチャタテなどであり、いずれも日本全域に生息している。書籍・動植物標本・各種貯蔵食品を加害し、とくに糊付けした紙を好み、そこに発生したカビを食べる。ヒラタチャタテは藁製の文化財に発生することも多い。博物館・美術館での発生頻度はかなり高いが、被害は軽微である。『文化財害虫事典』(前掲)では加害虫重要度Bにランクされている。

ヒメマルカツオブシムシは日本全域に生息し、毛皮・皮革・蚕繭・生糸・生薬・種子などの動植物質を加害する。幼虫期は通常約300日であり、幼虫のまま越冬し、3~5月頃に羽化する。成虫の寿命は約1か月といわれている。幼虫・成虫ともに被害材から脱出する際に穿孔食害し、『文化財害虫事典』(前掲)では加害虫重要度A(文化財への被害発生頻度が高く、かつ加害力の強大な害虫)にランクされている。

セイヨウシミは日本全域に生息し、書籍・古文書・掛軸などと、これらに使用された糊、亜麻・綿・絹・人造繊維などの織物を加害する。とくに糊付けした紙を好み、書籍などの表面をなめるように食害する。ただし、内部まで穿孔することはない。『文化財害虫事典』(前掲)では加害虫重要度Bにランクされている。

つぎに、表1はそれら4種類の文化財害虫を調査時期別に集計したものであり、表2は捕獲できた文化財害虫を場所と時期によってまとめたものである。

表1 (上段：五高記念館、下段：化学実験場)

	1回	2回	3回	4回	小計	合計
	ヒメマルカツオブシムシ	1	4	14	4	
	0	0	0	0	0	
セイヨウシミ	0	0	6	2	8	11
	0	2	1	0	3	
ヒョウホンムシ	0	23	52	17	92	92
	0	0	0	0	0	
チャタテムシ	3	42	14	6	65	65
	0	0	0	0	0	
小計	4	69	86	29	188	191
	0	2	1	0	3	
合計	4	71	87	29	191	191

表2

調査場所	捕獲文化財害虫名	捕獲数				
		1	2	3	4	計
第5展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	2	1	3
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数(3)						
復原教室	ヒメマルカツオブシムシ	1	2	3	0	6
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	1	0	2	0	3
捕獲数(9)						
資料整理室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	2	2
	チャタテムシ	0	2	6	2	10
捕獲数(12)						
第6展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	1	1
	チャタテムシ	0	0	0	1	1
捕獲数(2)						
情報プラザ・図書室・休憩室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	3	0	3
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	1	0	2	3
	チャタテムシ	0	0	4	2	6
捕獲数(11)						
事務室・研究室・会議室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	2	4	2	8
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数(8)						

第1収蔵室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	1	0	0	1
捕獲数(1)						
第2収蔵室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	1	0	1
	セイヨウシミ	0	0	1	0	1
	ヒョウホンムシ	0	0	1	3	4
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数(6)						
博物館実習室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	2	0	2
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	2	2
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数(4)						
講義室	ヒメマルカツオブシムシ	0	1	0	0	1
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	1	1
	チャタテムシ	1	0	0	0	1
捕獲数(3)						
1階ギャラリー	ヒメマルカツオブシムシ	0	1	1	0	2
	セイヨウシミ	0	0	1	1	2
	ヒョウホンムシ	0	0	1	0	1
	チャタテムシ	0	8	0	0	8
捕獲数(13)						
第4展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	1	1
	ヒョウホンムシ	0	2	10	0	12
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数(13)						
第3展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	1	1
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	5	8	2	15
	チャタテムシ	0	3	1	0	4
捕獲数(20)						
第2展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	1	0	1
	ヒョウホンムシ	0	0	6	1	7
	チャタテムシ	0	2	1	1	4
捕獲数(12)						
第1展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	1	0	1
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	1	5	0	0	6
捕獲数(7)						
展示準備室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	1	1	2
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	2	0	0	2
捕獲数(4)						

第1企画 展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	1	1
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	4	3	1	8
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (9)						
第2企画 展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	2	0	2
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (2)						
第3企画 展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	6	4	0	10
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (10)						
第4企画 展示室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	1	0	1
	チャタテムシ	0	4	0	0	4
捕獲数 (5)						
展示資材室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	1	0	1
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	1	0	1
	チャタテムシ	0	6	0	0	6
捕獲数 (8)						
2階ギャラ リー	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	2	0	2
	ヒョウホンムシ	0	3	11	0	14
	チャタテムシ	0	9	0	0	9
捕獲数 (25)						

教室3	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (0)						
準備室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	1	0	0	1
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (1)						
教室4	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (0)						
廊下	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (0)						

表1からわかるように、梅雨時から夏場にかけての捕獲数が多い。第2回目及び第3回目のトラップ調査で捕獲した文化財害虫数は158であり、総捕獲数の約83%にあたる。これは館内には2か所しか冷暖房装置がなく、冬期はきわめて低温になるため文化財害虫の生息しにくい環境が生まれているからであろう。しかし、こうした環境は文化財にも好ましくないことはいままでのま。

捕獲場所で見ると、五高記念館は館内全域で文化財害虫が捕獲されている。ただし、第1収蔵室は第2回目の調査でチャタテムシ1を捕獲したのみで良好な環境が保たれている。これは空き教室を収蔵室として活用するため第2回目のトラップ調査の前に、室内清掃（ホコリ落とし、ペーパーフィルター付きの掃除機による清掃、かたく絞った雑巾での拭き掃除及び乾拭き、）及びブンガンによる室内燻蒸を実施したことの効果であろうと考えられる（写真1～18）。また、化学実験場はセイヨウシミ3を捕獲したのみできわめて良好な環境が保たれている。これは、化学実験場が事前申請のあった場合のみ公開しており、通常は閉鎖していること、展示室や収蔵室を設置しておらず加害されにくい環境におかれていることによるものと考えられる。

一方、五高記念館は公開施設であり、正面及び裏口の扉は常に開放状態である。また、夏場の館内は

調査場所	捕獲文化財害虫名	捕獲数				
		1	2	3	4	計
階段教室	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	1	1	0	2
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (2)						
教室1	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (0)						
教室2	ヒメマルカツオブシムシ	0	0	0	0	0
	セイヨウシミ	0	0	0	0	0
	ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0
	チャタテムシ	0	0	0	0	0
捕獲数 (0)						

高温多湿になるため、ギャラリー（廊下）の窓を開けて通気性をよくしている。そのため、文化財害虫のみならず一般的な昆虫や不快害虫の侵入は容易であり、職員が毎朝こまめに清掃しているにも関わらず、年間を通してハエやクモ、ダンゴムシなどが大量に捕獲されるという状況を生み出している。不快害虫は直接的に文化財を加害するわけではないが、その死骸が文化財害虫を招くことも考えられ、何らかの対策を講じなければならないであろう。



写真1 ホコリ落とし



写真2 掃除機による清掃



写真3 掃除機による清掃



写真4 拭き掃除



写真5 使用薬剤（ブンガノン）



写真6 排気ファン設置



写真7 窓目張り



写真8 投薬前炭酸ガス濃度測定



写真9 投薬作業



写真10 投薬作業



写真11 投薬作業



写真12 投薬終了時炭酸ガス濃度測定



写真13 開放前炭酸ガス濃度測定



写真14 ガス開放作業（大気希釈方式）



写真15・16 ガス開放作業（大気希釈方式）



写真17 安全確認



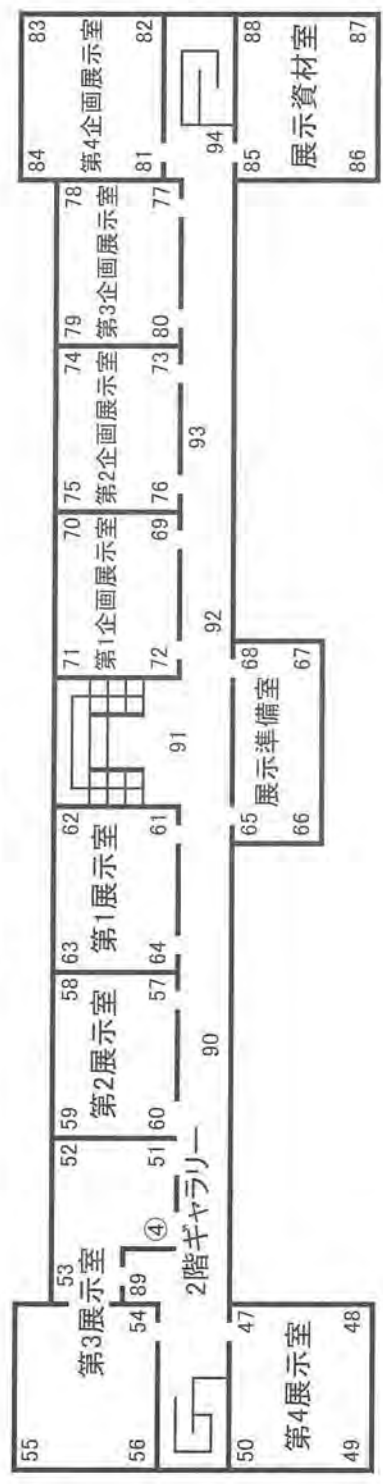
写真18 立入禁止表示

ところでチャタテムシが広範囲で捕獲され、数はそれほど多くないがセイヨウシミも見られることから、カビの発生が考えられる。少なくとも展示室及び資料保管スペースにおいては除湿機を早急に設置し、防カビ対策を講じなければならないだろう。

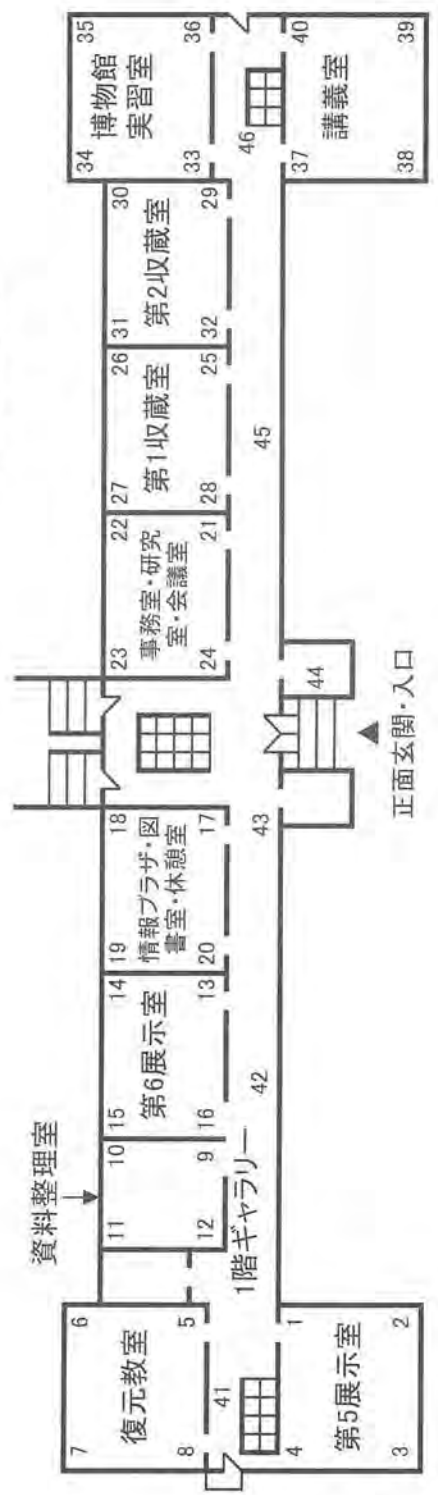
また、広範囲でヒメマルカツオブシムシが捕獲されていることから、毎日の清掃はもちろんであるが、現状では外部からの侵入を防ぐことができないため、定期的な大掃除に加えてDDVPまたはピレスロイド系の薬剤等による燻蒸を検討する必要があるだろう。

当館は残念ながら収蔵資料の保管に関して適切な環境にあるとはいいがたい。将来的には空調やハロン化物消火設備の整った収蔵庫の設置が求められるが、現時点で対応しうるもっとも効果的な方策を検討すべく、平成22年度事業として大掃除のあとにブンガノンもしくはヴァイケーンなどによる室内燻蒸、収蔵資料の虫干し、トラップ調査等を実施する予定である。

（岩崎竹彦）



五高記念館



(2) 収蔵資料の燻蒸

平成20年2月5日(火)～6日(水)にかけてエキヒュームによる収蔵資料の包み込み燻蒸を館内で行った。燻蒸資料及び作業工程等は以下のとおりである。

燻蒸対象資料

番	資料名称	員数	材質	備考
1	生徒募集掛木札	2枚	木材	
2	掛木札 生徒心得	1枚	木材	
3	掛木札 五高剣道部	1枚	木材	
4	掛木札 図書閲覧細則	1枚	木材	
5	棟札	1枚	木材	
6	第五高等学校 表札	1枚	木材	

作業工程

月日	時間	作業内容
2/5	10:00～10:20	事前打ち合わせ、資材、機材搬入
	10:20～12:00	枠組み、投薬ホース、検知パイプ、テストサンプル設置、包み込み作業、目張り作業
	13:00～13:30	気化器加温、投薬準備
	13:30～13:40	投薬作業、ガス濃度検知、ガス漏洩点検
	13:40～15:50	ガス濃度検知、ガス漏洩点検
2/6	10:40～13:40	ガス濃度検知、ガス漏洩点検
	13:40～15:00	ガス排気作業、ガス濃度検知、ビニール、枠撤去、後片付け
	15:00～15:10	安全確認、引渡し

ガス濃度経時測定表

経過時間	測定日時	上 (%)	中 (%)	下 (%)	温度 (°C)	薬量 (kg)	備考
投薬開始	5日 13:30				20	1	
投薬終了	〃 13:40	1.45		1.55			
終了後1h	〃 14:40	1.5		1.5			
2h	〃 15:40	1.47		1.5			
21h	6日 10:40	1.22		1.22			
22h	〃 11:40	1.21		1.21			
23h	〃 12:40	1.2		1.21			
24h	〃 13:40	1.2		1.2			
	〃 13:40						排気開始
	〃 14:20		2 ppm				
	〃 15:00		0 ppm				排気停止
	〃 15:10		0 ppm				安全確認

なお、燻蒸処理効果の有無については殺虫殺卵効果100%（財団法人文化財虫害研究所による効果判定：燻蒸処理後の殺虫殺卵用テストサンプルを温度27℃、湿度70～80% R.H.の環境条件で約1か月間保持したが、成虫・蛹・幼虫の生存はなく、虫卵の孵化も認められず、合格）、殺カビ効果100%（財団法人文化財虫害研究所による効果判定：燻蒸処理後の殺カビ用テストサンプルを麦芽汁寒天培地で温度25℃、7日間培養した結果、合格）であった。



テストサンプル



テストサンプル



エキヒュームS



枠組み中



検知パイプ上段テストサンプル設置



検知パイプ下段設置



テストサンプル下段設置



投薬ホース設置



被覆完了



被覆完了



被覆完了



投薬中



投薬中



濃度検知



ガス漏れ点検



ガス開放中



ガス開放中



ガス開放中



ガス開放中



抑制濃度確認

(岩崎竹彦)

Ⅲ 収蔵資料

(1) 寄贈資料

番号	資料名称	数量	作成者・発行者	年代	寄贈者
1	アルバム	1		昭和15年	田代照子
2	アルバム	1		昭和17年	寄贈者不明
3	アルバム	1		昭和6年3月	岡村一郎
4	アルバム	1		昭和19年	藤田光一
5	五高修了五十周年 末子会記念文集	1	五高末子会	平成11年11月14日	五高末子会
6	昭和19年度第1学期二寮七班名簿	1		昭和19年	樋口俊二
7	組長任命書	1	第五高等学校	昭和18年4月30日	樋口俊二
8	副組長任命書	1	第五高等学校	昭和19年4月14日	樋口俊二
9	寮惣代任命書	1	第五高等学校	昭和19年5月8日	樋口俊二
10	二寮蚊帳番号及び責任者氏名	1			樋口俊二
11	昭和19年度第1学期幹事会要項	1	習学寮当番惣代	昭和19年5月3日	樋口俊二
12	允許状 柔剣道5等	1	大日本武徳会	昭和19年4月18日	樋口俊二
13	在学証明書	1	第五高等学校長本島一郎	昭和20年1月17日	樋口俊二
14	教練検定合格見込証明書	1	軍事教官陸軍大佐杉本一雄	昭和20年1月19日	樋口俊二
15	業間体操(高等学校体操前後操)	1		昭和18年12月	樋口俊二
16	昭和19年度二寮生(階上、階下)	2		昭和19年	樋口俊二
17	習学寮方針	1	習学寮惣代	昭和19年1月8日	樋口俊二
18	昭和18年度第3学期習学寮幹事会要項	1		昭和18年	樋口俊二
19	習学寮入寮者心得	1		昭和19年	樋口俊二
20	第五高等学校生徒学資金概算書	1	第五高等学校	昭和18年3月	樋口俊二
21	入学者心得	1			樋口俊二
22	入学許可証	1	第五高等学校	昭和18年3月18日	樋口俊二
23	漢詩	1	野方散史良	7月1日	樋口俊二
24	入寮者心得及習学寮諸規程	1		昭和14年4月	樋口俊二
25	写真 五高校章	1			樋口俊二
26	写真 開校記念式の歌と校旗	1			樋口俊二
27	写真 正門からサインカーブの桜並木へ	1			樋口俊二
28	写真 姿を現す赤壁城	1			樋口俊二
29	写真 校長添野信先生	1			樋口俊二
30	写真 五高本館	1			樋口俊二
31	写真 習学寮と授業開始を告げる鐘	1			樋口俊二
32	写真 武夫原と立田山	1			樋口俊二
33	写真 教授陣ポートレート	1			樋口俊二
34	写真 文・理科対抗ポートレース	2			樋口俊二
35	写真 宇土櫓	1			樋口俊二
36	『ぜんぶ馬の話』(木下順二署名入り)	1		昭和59年7月1日	荒木光昭
37	轡鎖 第五高等学校馬術部部誌	1	五高馬術部	昭和48年11月17日	荒木光昭
38	五高馬術部報	1	五高馬術部	昭和59年4月	荒木光昭
39	近況短信・思い出など	3	五高馬術部OB会	平成9年10月9日	荒木光昭
40	五高馬術部同窓会会員近況	1	五高馬術部OB会	平成13年10月14日	荒木光昭
41	第五高等学校馬術部報	1	五高馬術部OB会	平成14年10月6日	荒木光昭
42	全国五高会会報 28号	2	全国五高会	昭和57年3月25日	荒木光昭
43	全国五高会会報 89号(部分コピー)	3	全国五高会	平成11年9月	荒木光昭
44	中井正文氏近況写真	1		平成19年	吉富達彦
45	五十周年記念葉書スタンプ付表書(コピー)	2		昭和12年10月10日	姫野照正

46	アルバム 1926	1		大正15年	石原信実
47	追悼石原辰郎	1	石原キチ	昭和64年 6月25日	石原信実
48	図書閲覧票	1		昭和22年 4月	中満重明
49	龍南会雑誌抜粋 弓道部関係	1		明治26年	膳瀬勝人
50	龍弓会名簿整備関係	1		昭和47年 4月	膳瀬勝人
51	弓そして友ー思い出の記ー	1	旧制五高龍弓会編	昭和56年10月10日	膳瀬勝人
52	龍弓 一〜四号	5	龍弓会	昭和14年	膳瀬勝人
53	部報 第二〜十号	9	五高弓道部	昭和 4年	膳瀬勝人
54	弓そして友 (追録その一)	6	旧制五高龍弓会	昭和57年	膳瀬勝人
55	弓友だより	6	七高弓友会	昭和53年	膳瀬勝人
56	集合写真	9			膳瀬勝人
57	弓の起	1	大日本武徳会弓術範士宇野文九郎	大正 8年 6月	膳瀬勝人
58	五高弓道会手書名簿、遠征書類	1		昭和 3年	膳瀬勝人
59	全国高等学校大学予科専門学校弓道優勝 競技大会廿周年記念誌	1	京都帝国大学学友会 弓道部	昭和11年	膳瀬勝人
60	龍弓思い出の記出納簿	1		昭和55年	膳瀬勝人
61	東京龍弓会記録	10		昭和43年	膳瀬勝人
62	「弓そして友」出版記録	1		昭和57年	膳瀬勝人
63	龍球会ハンディ	1		昭和50年	膳瀬勝人
64	龍弓会関係資料	1			膳瀬勝人
65	龍弓会同窓会写真	2			膳瀬勝人
66	五高弓道部写真	1			膳瀬勝人
67	熊本大学周辺写真	16			膳瀬勝人
68	湯呑 1個	1			赤坂極
69	思い出のアルバム五高残照の時代	5	羽田野哲郎		羽田野哲郎
70	アルバム 龍南の思い出	1		昭和 7年	松本浩子
71	アルバム GOKO SHUGAKURYO	1		昭和 4年	松本浩子
72	五十周年記念葉書コピー	5		昭和12年10月10日	姫野照正
73	鴛海幾太郎宛端紙部寄付依頼書一式 (コピー)	3			姫野照正
74	封筒 Karl Arnold Hahnドイツ宛書簡 封筒 (コピー)	1	Karl Arnold Hahn	明治37年 3月31日	姫野照正
75	アルバム	4		昭和11年	今川新
76	卒業記念杯	1		昭和 6年 3月	宮原昭三
77	歌集 田園と幼日	1	高橋宵月	昭和53年11月10日	宮原昭三
78	日本寮歌通信 第15号	4	吉富達彦		吉富達彦
79	旧制高等学校在籍女子生徒名簿	2	吉富達彦		吉富達彦
80	特設高等学校在籍女子生徒名簿	2	吉富達彦		吉富達彦
81	戦後旧制高等学校改革調査書	2	吉富達彦		吉富達彦
82	特設旧制高等学校校章	1	吉富達彦		吉富達彦
83	五高手ぬぐい、下駄、帽子絵画写真	1	栗原光子		福島尚幸
84	家元継承披露能予定番組	1	田代慶一郎		中村勝
85	熊本日独協会創立30周年記念誌	1	熊本日独協会	平成 5年 7月 1日	窪田隆穂
86	アルバム	1		昭和10年	竹下精紀
87	五高竜剣会同窓会写真	1		昭和10年	竹下精紀
88	竜剣会誌 優勝記念号 (復刊)	1	五高竜剣会	昭和14年 6月 1日	竹下精紀
89	全国五高会会報	1	全国五高会		竹下精紀
90	「五高」開校100周年記念特集 熊本日日新聞	1	熊本日日新聞	昭和62年10月 3日	竹下精紀
91	くまもとビデオ文学館「私のなかの熊本」	2	吉村滋		石元義正
92	バイオリンを弾く地球物理学者・寺田寅彦23〜33	1	末延芳晴		寺田寅彦記念館友の会

93	第26回全国高校剣道大会優勝記念写真解説	1	都留忠久	昭和13年	堀川俊章
94	船越一郎手紙	1	船越一郎	平成18年2月23日	福島尚幸
95	平松守彦の地域自立戦略- 廃県置州への道	1	平松守彦	平成16年11月30日	田尻琴美
96	21世紀の地域リーダーへ	1	平松守彦	平成17年7月14日	田尻琴美
97	文芸カセット 万葉の歌人	1	犬養孝		赤坂極
98	絵画『五高校舎』	1	戸田郁郎	昭和41年	東京五高会
99	第11回ひのくに校歌祭	1	ひのくに校歌祭	平成18年5月28日	不明
100	『龍南の五高生』	1	J. G. de G. Martyr	昭和5年7月8日	園田寛
101	明治36年卒業記念集合写真	1	合志淵蔵	明治36年5月	合志長生
102	扁額『行雲流水』	1	福島讓二		樋口欣一
103	五高創立95周年記念祭寄書屏風	1	五高同窓会	昭和57年10月10日	樋口俊二
104	五高創立100周年記念祭寄書屏風	1	五高同窓会	昭和62年10月10日	樋口俊二
105	製図綱要	1	吉方謙一郎	昭和21年12月20日	田阪耕一
106	図学試験問題 理科1年、2年、3年	3		昭和23年2月13日	田阪耕一
107	微分学Ⅱ	1	稲葉教授、小貫教授	昭和22年	田阪耕一
108	立体解析幾何と曲線	1		昭和23年	田阪耕一
109	有機化学	1		昭和22年	田阪耕一
110	有機化学問題集	1	大原英一	昭和22年5月28日	田阪耕一
111	化学計算問題集	1	加来宏一	昭和22年5月28日	田阪耕一
112	THE SKETCH BOOK By Washington Irving	1	青木常雄	昭和23年5月1日	田阪耕一
113	Walden or Life In The Woods by H. D. Thoreau	1	土方辰三	昭和23年5月20日	田阪耕一
114	Normal Lehrbuch der Deutschen Grammatik 標準ドイツ文法	1	関口存男	昭和21年8月10日	田阪耕一
115	Gurt Beher : Land und Leute 国土と人々	1	徳澤得二	昭和23年4月10日	田阪耕一
116	Ludwing Tieck : Der Runenberg 国土と人々	1	山本真策	昭和23年4月10日	田阪耕一
117	Adalbelt Stifter : Kalkstein	1	小島貞介	昭和23年4月10日	田阪耕一
118	Hoffman : Die Fermate	1	石川鍊次	昭和23年9月10日	田阪耕一
119	Naturgenuss und Naturforschung von Alexander von Humboldt 自然鑑賞と自然研究	1	堀内明	昭和24年4月30日	田阪耕一
120	Kalksteinの単語帳	2	田阪耕一	昭和23年	田阪耕一
121	ドイツ語試験問題	1		昭和23年	田阪耕一
122	倫理学の根本問題	1		昭和23年	田阪耕一
123	龍南 第253号	1	龍南会	昭和23年3月25日	田阪耕一
124	寮歌集	1	習学寮	昭和23年3月25日	田阪耕一
125	五高在学時の諸費用	6	田阪耕一	昭和22年4月	田阪耕一
126	全国五高会会報 110、111、112号	3	全国五高会		竹下精紀
127	五高13年会会報 『三四郎』第1号	1	五高13年会	昭和51年8月	竹下精紀
128	五高三土会名簿	1	五高三土会	平成5年9月30日	竹下精紀
129	五高龍剣会(同窓会)記録	1	五高三土会	昭和51年1月1日	竹下精紀
130	百二十周年に寄せて 原稿	3	中井正文	昭和51年1月1日	五高会
131	熊本大学習学寮史	1	熊本大学習学寮	昭和30年4月30日	吉富達彦
132	写真 松尾精一	5			有馬直之
133	写真 松尾鴻達	3			有馬直之
134	写真 吉田久太郎	2			真武喜代子
135	新・鴻之舞金山物語コピー	2			真武喜代子
136	卒業証書コピー	1	熊本大学第五高等学校・熊本大学	昭和25年3月25日	濱田秀子
137	第五高等学校絵葉書	10			小島直行

138	手記 一ソ連参戦及び帰国(ダモイ)を 夢見る極限の日々	1	岡本博行	平成18年9月23日	小島直行
139	アルバム「松光雲栄」	1	習学寮	昭和17年	小島直行
140	九大医学部五高会会報 1~9号データ、 五高記念祭絵葉書CD	1		大正14年	赤坂極
141	寮歌・部歌選集 付五高小史	1	東京五高会	昭和62年8月	吉富達彦
142	近代熊本の劇場、活動写真、及び大衆演芸	1	安田宗生	平成19年6月20日	安田宗生
143	第五高等学校120周年記念式典カセット テープ	2	五高会	平成19年10月10日	五高会
144	五高〔武夫原頭〕誕生百周年墓前祭 懇 親会	1	杭田嘉夫	平成17年2月15日	杭田嘉夫
145	第五高等学校120周年記念式典ビデオD VD	6	杭田嘉夫	平成19年10月10日	杭田嘉夫
146	創立85周年 タイピン	2	五高同窓会	昭和47年10月10日	竹下精紀
147	創立85周年 バックル	1	五高同窓会	昭和47年10月10日	竹下精紀
148	創立80周年 記念品 朱肉	1	五高同窓会	昭和42年10月10日	竹下精紀
149	創立95周年 記念品 升	1	五高同窓会	昭和57年10月10日	竹下精紀
150	群馬寮歌祭十周年記念『寮歌物語ーわが 寮歌の誕生』	1	群馬寮歌祭実行委員 会	昭和56年11月15日	竹下精紀
151	明治六年地図写	1		明治6年	竹下精紀
152	三菱長崎造船所鉸鋌(かしめ)作業写真	1		昭和20年	岡本甲子男
153	三菱長崎造船所表彰状	1	三菱長崎造船所	昭和20年	岡本甲子男
154	東京五高会資料	1式			東京五高会
155	ブラジル移民の父 上塚周平先生銅像建 立趣意書	1	上塚周平先生銅像建 立期成会	平成19年2月	平山謙二郎
156	銅像建立めざして	1	上塚周平先生銅像建 立期成会	平成18年4月25日	平山謙二郎
157	くまもと文学百景	1	平山謙二郎	昭和62年10月8日	平山謙二郎
158	自然と文化くまもと 熊本自然環境研究 連合会 会誌	1	五家荘の会・熊本自 然環境研究会・宇城 自然観察会・熊本里 山研究会	平成19年3月	平山謙二郎
159	日本寮歌集	1	日本寮歌集編集委員 会	昭和41年10月10日	水田宗昭
160	楽譜 裏 五高試験問題	4	第五高等学校	昭和17年	水田宗昭
161	幕末の会津藩	1	星亮一	昭和17年	水田宗昭
162	よみなおし戊辰戦争	1	星亮一	平成13年	水田宗昭
163	The Strange Case Of Dr. Jekyll and Mr. Hyde	1	曾根保	昭和8年9月5日	水田宗昭
164	会津会会報 104号	1	会津会	平成10年6月25日	水田宗昭
165	秋月悌次郎 詩碑建立記念誌	1	秋月悌次郎詩碑建立 委員会	平成2年10月14日	水田宗昭
166	秋月悌次郎伝	1	秋月一江	平成10年10月	水田宗昭
167	『龍南物語』	1	上田沙丹著、宮島真 一発行	昭和37年2月10日	竹下精紀
168	『私の歩いた道』	1	竹下精紀	平成15年4月20日	竹下精紀
169	アルバム	1		昭和13年3月	竹下精紀
170	五高バックル	4			佐川敏明
171	50周年記念メダル	4		昭和12年	佐川敏明
172	生命の旅(加田勉遺稿)	1	加田勉	昭和18年	東泰彦
173	日本の戦争 西南戦争~日露戦争	1	姫野照正	明治9年	姫野照正
174	季刊アステイオン 『秋月悌次郎ー老日 本の面影』書評	1	財)サントリー文化財 団・生活文化研究所	昭和62年10月1日	水田宗昭

175	近代日本に生きた会津の男たち	1	会津武家屋敷 文化 財管理室	平成3年4月1日	水田宗昭
176	寮長羽織	1		昭和18年	古賀與平
177	入学許可書	1	第五高等学校	昭和16年3月27日	古賀與平
178	入学許可者に対する手続き	1	第五高等学校	昭和16年3月	古賀與平
179	保証人選定について	1	第五高等学校	昭和16年3月	古賀與平
180	生徒学資概算書	1	第五高等学校生徒課	昭和16年3月	古賀與平
181	習学寮入寮について	1	第五高等学校生徒課	昭和16年3月	古賀與平
182	習学寮入寮について	1	五高習学寮惣代	昭和16年3月	古賀與平
183	新入生諸氏に告ぐ	1	龍南学徒報国団総務 部	昭和16年3月	古賀與平
184	龍泳会便り11号12号13号	3	第五高等学校水泳部	平成17年	馬場元
185	級日誌 理乙	1	第五高等学校理乙組	昭和16年12月4日	大野泰治
186	済美柔道会 会報	3	済美柔道会	昭和16年3月	大野泰治
187	西暦二千年記念 五高済美柔道会文集	1	五高済美柔道会	平成12年4月	大野泰治
188	全国五高会々報 第80号 (コピー)	1	全国五高会	平成8年7月25日	大野泰治
189	同窓生名簿	1		昭和47年	大野泰治
190	夏目金之助ロンドンに狂せり	1	末延芳晴	平成16年	末延芳晴
191	五高馬術部報	1	五高馬術部	昭和59年4月	荒木雄豪
192	轡 第五高等学校馬術部誌	1	五高馬術部	昭和48年11月17日	荒木雄豪
193	龍南騎道部日誌 (コピー)	1	龍南学徒報国団騎道 部	昭和18年4月12日	荒木雄豪
194	Agora 8月号	1	株式会社JALブラ ンドコミュニケーション	平成19年7月27日	水田宗昭
195	大連を予見した漱石	1	甲斐正人 20世紀大 連会議	平成19年6月25日	芥川昭
196	住友鴻之舞金山史	1	住友金属鉱山(株)	平成15年10月20日	篠崎昭彦
197	吉田久太郎の写真 (『住友鴻之舞金山史』 部分) 額装	1	住友金属鉱山(株)	平成15年10月20日	吉田勝
198	教科書	32		昭和12年10月10日	小野哲生
199	五高七〇年史	1	五高同窓会	昭和32年10月10日	小野哲生
200	続武夫原頭に草萌えて	1	東京五高会	平成15年10月10日	水田宗昭
201	九大医学部五高会会報 第一～九号	9	九州帝国大学医学部 五高会	大正14年8月	赤坂極
202	九大医学部五高会会報 1～9号データ CD	1		大正14年	赤坂極
203	五高記念祭絵葉書	6		昭和9年10月10日	赤坂極
204	会報 第一～十号	11	五高同窓会	昭和5年11月25日	赤坂極
205	会報 第一号 データCD	3	五高同窓会	昭和5年11月15日	赤坂極
206	大宇宙の旅	1	荒木俊馬	昭和25年2月28日	荒木雄豪
207	京都産業大学40年史	1	京都産業大学	平成17年11月27日	荒木雄豪
208	学祖 荒木俊馬先生と京都産業大学-建 学の心をたずねて	1	京都産業大学	平成13年11月27日	荒木雄豪
209	扁額「自他共栄」	1	嘉納治五郎		長野吉彰
210	五高記念館絵画	1	野田健郎		長野吉彰
211	『鉄道人』	1	佐藤栄作	昭和52年	長野吉彰
212	『花 追想』	1	佐藤寛子	平成5年	長野吉彰
213	佐藤栄作 雪駄	2			長野吉彰
214	佐藤栄作 下駄	1			長野吉彰
215	五高黒羽織	1			長野吉彰
216	帽子	1			長野吉彰
217	『涉外活動効率化必携』	1	長野吉彰	昭和54年	長野吉彰

218	『九州の社長』	1	日本経済新聞社	平成2年	長野吉彰
219	『生涯稽古』	1	長野吉彰	平成7年	長野吉彰
220	松本雅明短冊	1	松本雅明		長野吉彰
221	熊本市立龍南中学校 創立60周年記念誌	1	武田邦彦	平成19年7月25日	中山仙十郎
222	森興彦資料についての説明	3	芥川昭	平成19年9月10日	芥川昭
223	第五高等学校沿革略	1		昭和12年	柏木
224	福祉のための民俗学	1	岩崎竹彦	平成20年1月28日	岩崎竹彦
225	寮歌（武夫原頭に）歌詞	2			宮崎吉隆
226	全国五高会報 第84号	1	全国五高会	平成10年1月25日	宮崎吉隆
227	五高野球部名簿	1		平成7年5月20日	宮崎吉隆
228	東京五高会創立七十五周年記念大会	1	東京五高会	昭和37年10月1日	宮崎吉隆
229	東京五高会大会	1	東京五高会	平成6年10月4日	宮崎吉隆
230	東京五高会大会	1	東京五高会	平成9年9月20日	宮崎吉隆
231	東京五高会名簿	1	東京五高会	平成3年10月	宮崎吉隆
232	東京五高会名簿	1	東京五高会	平成10年12月	宮崎吉隆
233	新聞記事コピー 北川武氏関連記事	1		7月10日	宮崎吉隆
234	木版画 第五高等学校本館赤煉瓦	1	犬塚勲（東京五高会 実行委員長）	昭和54年3月	宮崎吉隆
235	熊中熊高江原人脈	1	郡田弘 西日本新聞社	昭和47年3月1日	宮崎吉隆
236	五高開校八十五周年 盃	1	五高同窓会	昭和47年	宮崎吉隆
237	五高手拭	1			宮崎吉隆
238	五高はちまき	1			宮崎吉隆
239	五七会浴衣	1			宮崎吉隆
240	五高校章入り羽織袴	1			宮崎吉隆
241	壁をこえて 自治会八十年の軌跡	1	国立療養所菊池恵楓 園入所者自治会	平成18年6月19日	中川哲子
242	龍泳会便り14号	1	五高水泳部	平成20年4月	馬場元
243	龍泳会会員名簿	1	五高水泳部	平成20年3月31日	馬場元
244	五高120周年記念大会写真帳	6	撮影者 杭田嘉夫	平成19年10月10日	塩地薫
245	全国五高会々報 113号	1	全国五高会	平成20年3月27日	東京五高会
246	全国五高会々報 113号附録 主要記事目 次総覧	1	全国五高会	平成20年3月27日	東京五高会
247	五高徽章 額入り	1	五高水泳部		馬場元
248	龍南回顧 - 第五高等学校創立80周年記 念出版	1	東京五高会	昭和42年10月10日	田淵 元
249	旧制五高開校百周年記念 わが心の中の 五高物語	1	井上直明	昭和62年9月26日	田淵 元
250	合唱曲集 寮歌は生きている	1	関西寮歌振興会	昭和53年5月1日	田淵 元
251	武夫原頭に草萌えて - 開校百拾周年記 念・全国五高会報特集 -	1	東京五高会	平成9年10月10日	田淵 元
252	続武夫原頭に草萌えて - 開校百拾五周 年記念・全国五高会会報特集 -	1	東京五高会	平成15年10月10日	田淵 元
253	龍南会雑誌 龍南 - 五高創立88周年記 念復刻	1	五高同窓会	昭和50年10月10日	田淵 元
254	龍南の青春-九龍会だより 特集号	1	九龍会事務局	平成6年4月1日	田淵 元
255	わが青春・旧制高校 写真集 記録 随筆	1	ノーベル書房株式会社	昭和52年10月25日	田淵 元
256	昭和19年入学者選抜筆答試問問題	1	ノーベル書房株式会社	昭和19年3月1日	田淵 元
257	写真 東光原にて 騎道部一同	1		昭和19年	田淵 元
258	手拭	6			田淵 元
259	旗 五高校章入り（手書）	1			田淵 元
260	陣羽織 88周年	1		昭和51年10月10日	田淵 元
261	陣羽織	1			田淵 元
262	帽子	2			田淵 元

(2) 購入資料

番号	資料名称	数量	作成者・発行者	年代
1	龍南会雑誌 17号	1	龍南会	明治26年 5月27日
2	龍南会雑誌 90号	1	龍南会	明治35年 2月15日
3	龍南会雑誌 91号	1	龍南会	明治35年 4月25日
4	龍南会雑誌 94号	1	龍南会	明治35年10月20日
5	龍南会雑誌 96号	1	龍南会	明治35年12月21日
6	龍南会雑誌 98号	1	龍南会	明治36年 3月31日
7	龍南会雑誌 99号	1	龍南会	明治36年 5月25日
8	龍南会雑誌 103号	2	龍南会	明治36年12月25日
9	龍南会雑誌 104号	1	龍南会	明治37年 2月20日
10	龍南会雑誌 105号	1	龍南会	明治37年 3月13日
11	絵葉書 (熊本百景) 第五高等学校 (其壺)	1		
12	絵葉書 (熊本百景) 第五高等学校 (其三)	1		
13	絵葉書 (熊本百景) 第五高等学校 (其四)	1		
14	絵葉書 (熊本百景) 第五高等学校 (其四)	1		
15	絵葉書 熊本第五高等学校第十六回開校記念運動会 (其二)	1		
16	絵葉書 (熊本百景) 熊本高等工業学校 (其一)	1		
17	絵葉書 (熊本百景) 熊本高等工業学校 (其六)	1		
18	絵葉書 熊本高等工業学校 (機械工学科実験室)	1		
19	絵葉書 熊本高等工業学校 (土木工学科標本室)	1		
20	絵葉書 第五高等学校 10枚組	10		
21	東京龍蹴会会誌 第1号	1	東京龍蹴会	昭和 6年10月
22	部報 I	1	五高ア式蹴球部	昭和 5年12月
23	五高龍蹴会名簿	1	龍蹴会	昭和13年 6月10日
24	高く聳ゆる (アルバム)	1		昭和 8年
25	不知火燃ゆる (アルバム)	1		昭和10年12月
26	同窓会員名簿	1		昭和 8年 9月
27	寮歌集	1		
28	図書閲覧票 網脇貞美	1	第五高等学校	昭和10年 4月
29	図書携帯特許証 網脇貞美	1	熊本図書館	昭和12年 9月
30	習学寮入寮について説明	1	第五高等学校生徒監	大正 5年 8月22日
31	第五高等学校入学につき説明	1	第五高等学校	大正 5年 7月21日
32	第五高等学校生徒学資概算書	1	第五高等学校	大正 5年
33	杉山岩三郎教授在職20周年祝賀会の件	1	第五高等学校内杉山岩三郎君在職二十年記念祝賀会事務所	明治43年 8月15日
34	Souvenir (アルバム)	1		昭和12年
35	アルバム	1		大正13年
36	絵葉書 熊本医学専門学校 (其一)	1		
37	絵葉書 熊本医学専門学校 (其二)	1		
38	絵葉書 熊本医学専門学校講堂	1		
39	絵葉書 熊本医学専門学校	5		
40	絵葉書 熊本医学専門学校附属病院	2		
41	絵葉書 九州製紙株式会社	10		

42	絵葉書 三池七浦坑	1		
43	絵葉書 三池宮ノ浦坑	1		
44	アルバム	1		大正13年
45	龍南会雑誌 113号	1	龍南会	明治38年11月3日
46	東京五高会名簿	1	五高同窓会	昭和33年10月
47	熊本御幸坂通り しおり	1		
48	Science No.1	1	五高科学同好会	昭和13年
49	龍南会雑誌 114号	1	龍南会	明治38年11月23日
50	龍南会雑誌 115号	1	龍南会	明治39年3月8日
51	郷友雑誌肥後	1	肥後郷友雑誌社	昭和15年10月20日
52	アルバム	1		昭和15年12月
53	アルバム	1		大正13年
54	アルバム 佐賀師範学校	1		大正11年
55	アルバム 不明	1		
56	絵葉書 九州新聞社全景	1		
57	絵葉書 九州新聞社講堂	1		
58	絵葉書 九州新聞社展望塔より金峰山一帯を望む	1		
59	絵葉書 (熊本名勝) 堂々たる大橋、長六橋の壮観	1		
60	絵葉書 三角港船舶輻湊の景	1		
61	絵葉書 (熊本百景) 九日前より上通町筋を望む	1		
62	大アマゾンを開く	1	アマゾン産業研究所 東京本部	昭和6年10月21日
63	花陵会会報 第27号	1	第五高等学校基督教青年会 花陵会	昭和13年11月1日
64	学校教員、学生、生徒二対スル旅客運賃割引証	1	第五高等学校長十時弥	昭和11年3月2日
65	山上 9月号(第1巻7号)	1	第五高等学校内山上社	大正14年9月1日
66	平凡な六十年	1	青木大勇	昭和11年7月25日
67	龍南会雑誌 143号	1	龍南会	明治44年12月25日
68	龍南会雑誌 144号	1	龍南会	明治45年2月26日
69	龍南会雑誌 145号	1	龍南会	明治45年5月10日
70	龍南会雑誌 147号	1	龍南会	大正元年11月18日
71	龍南会雑誌 148号	1	龍南会	大正元年12月20日
72	龍南会雑誌 149号	1	龍南会	大正2年3月15日
73	龍南会雑誌 150号	1	龍南会	大正2年6月15日
74	龍南会雑誌 151号	1	龍南会	大正2年6月20日
75	龍南 209号	1		昭和4年2月20日
76	絵葉書 三池万田坑	7		
77	熊本市案内図	1	丸小旅館	
78	熊本高等工業学校沿革史	1	熊本高等工業学校	昭和13年4月5日
79	行幸記念誌	1	熊本高等工業学校	昭和6年11月
80	ポスター 熊本県第三区衆議院候補者大麻唯男	1	東京立憲青年総同盟本部	昭和13年5月10日
81	卒業アルバム	1	熊本薬学専門学校	昭和13年
82	卒業アルバム	1	九州薬学専門学校	大正12年
83	熊本医学専門学校平面図	1	熊本医学専門学校	
84	絵葉書 九州薬学専門学校	1		

85	絵葉書 (熊本百景)熊本医学専門学校 臨床講義室	1		
86	絵葉書 第二回卒業生送別会記念 熊本医学専門学校	1		
87	絵葉書 第二回卒業生送別会記念 熊本医学専門学校	1		
88	絵葉書 熊本医学専門学校第五回卒業生送別会記念	1		
89	絵葉書 熊本医学専門学校 (其六)	1		
90	創立二十周年 記念論文集	1	熊本高等工業学校熊本工業会	大正15年4月
91	私立熊本医学専門学校平面図	1	私立熊本医学専門学校	
92	絵葉書 海軍大将有栖川宮殿下	1		
93	絵葉書 陸軍中将閑院宮殿下	1		
94	絵葉書 (熊本百景) 江津川の夏	1		
95	絵葉書 (熊本百景) 桜花瀾漫たる、花岡山の春色	2		
96	絵葉書 (熊本百景) 新築聳ゆる、熊本市公会堂	1		
97	絵葉書 (熊本百景) 花岡山より見たる熊本市街の全景	1		
98	絵葉書 (熊本百景) 花岡山より熊本市街及阿蘇山の遠望	1		
99	絵葉書 (熊本百景) 水前寺の実景	1		
100	絵葉書 (熊本百景) 平坦道路磐根橋及新堀橋	1		
101	絵葉書 (熊本百景) 熊本公会堂	1		
102	絵葉書 (熊本百景) 熊本勸業館、前の景観	1		
103	絵葉書 (熊本百景) 市役所前より官衙街を望む	1		
104	絵葉書 (熊本百景) 水前寺の下流江津湖の景	1		
105	絵葉書 (熊本百景) 新に架せし長六橋の壯観	1		
106	絵葉書 (熊本百景) 本妙寺の桜馬場	1		
107	絵葉書 (熊本名勝) 下河原公園	1		

(薄田千穂)

Ⅳ 運営等に関する資料

1 入館者の動向

平成5年度～17年度

年度	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備 考
平成5年度	46	—	—	—	3,016	65.6	
平成6年度	110	—	—	—	2,215	20.1	
平成7年度	109	—	—	—	2,191	20.1	
平成8年度	109	—	—	—	4,311	39.6	
平成9年度	101	—	—	—	1,516	15.0	
平成10年度	104	—	—	—	1,470	14.1	
平成11年度	—	—	—	—	1,283	—	
平成12年度	— ₁₀₂	—	—	—	2,002	—	
平成13年度	— ₁₀₃	—	—	—	4,558	—	
平成14年度	102	—	—	—	2,017	19.8	
平成15年度	99	—	—	—	1,651	16.7	
平成16年度	99	—	—	—	2,409	24.3	
平成17年度	122	—	—	—	3,257	26.7	企画展「創業140年富重写真所の古写真にみる熊本と五高」3/1～4/7

平成18年度

月	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備 考
平成18年4月	30	—	—	—	934	31.1	
5月	26	—	—	—	357	13.7	
6月	29	—	—	—	364	12.6	
7月	28	—	—	—	343	12.3	旧制第五高等学校オリジナル設計図面展「赤煉瓦—明治の夢と情熱」7/20～9/24
8月	28	—	—	—	615	22.0	
9月	28	—	—	—	866	30.9	
10月	28	—	—	—	500	17.9	
11月	27	—	—	—	1,312	48.6	夏目漱石『草枕・二百十日』発表100年記念展「五高時代の漱石先生」11/3～12/10 熊本大学埋蔵文化財調査室企画展「熊本大学を発掘する」11/3～1/28
12月	24	—	—	—	400	16.7	
平成19年1月	20	—	—	—	205	10.3	
2月	20	—	—	—	215	10.8	
3月	26	—	—	—	507	19.5	写真展「空想散歩—絵葉書にみる古き熊本の街かど—」3/15～5/28
合計	314	818	1455	4345	6,618	21.1	

平成19年度

月	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備 考
平成19年 4月	29	363	166	333	862	29.7	
5月	31	320	176	323	819	26.4	
6月	27	23	109	519	651	24.1	
7月	25	33	57	349	439	17.6	
8月	29	84	209	479	772	26.6	特別展「衝撃エネルギーの世界へようこそ！」8/8～9/24
9月	26	53	99	373	525	20.2	
10月	28	84	352	1,186	1,622	57.9	第五高等学校開校120周年記念寄贈資料展「レジェンドー五高龍南健児たちの青春」10/10～12/17
11月	25	185	365	736	1,286	51.4	
12月	18	116	138	154	408	22.7	
平成20年 1月	17	103	53	64	220	12.9	
2月	21	59	45	280	384	18.3	ミニ企画展「はじめてのキュレーター体験!？」2/28～3/17
3月	27	94	131	443	668	24.7	
合計	303	1,517	1,900	5,239	8,656	28.6	

平成20年度

月	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備 考
平成20年 4月	30	357	212	391	960	32.0	くまもとの産業遺産展「明治篇」4/10～6/30 企画展「Dr.Arita天然痘根絶の軌跡」5/8～6/30
5月	26	158	172	385	715	27.5	
6月	24	256	269	241	766	31.9	
7月	26	94	144	685	923	35.5	
8月	24	61	211	943	1,215	50.6	
9月	26	61	74	1,044	1,179	45.3	
10月	27	151	94	566	811	30.0	特別展「思い出のチカラー回想のスヌー」10/1～11/24
11月	26	366	624	769	1,759	67.7	
12月	19	160	76	107	343	18.1	
平成21年 1月	20	66	101	141	308	15.4	
2月	19	72	54	195	321	16.9	
3月	29	136	212	475	823	28.4	ミニ企画展「はじめてのキュレーター体験!？」3/9～16
合計	296	1,938	2,243	5,942	10,123	34.2	

2 五高記念館機構



(平成21年12月25日現在)

3 五高記念館教職員

館長 (併任)	伊藤 重剛 (平成18年4月1日～)
准教授 (専任)	岩崎 竹彦 (平成19年1月1日～)
特定事業研究員 (非常勤)	藤本 秀子 (平成18年4月1日～)
特定事業研究員 (非常勤)	薄田 千穂 (平成18年11月1日～)
事務補佐員 (非常勤)	市原 富代 (平成20年4月1日～)
事務補佐員 (非常勤)	東 孝治 (平成20年4月1日～)

社会連携課 課長	城 義雄 (平成18年7月1日～)
社会連携課 副課長	吉本 昭彦 (平成19年4月1日～)
社会連携課 総務係長	内田 浩 (平成18年7月1日～)
社会連携課 会計係長	木下 聖一 (平成20年4月1日～)
社会連携課 総務主任	宮下 雄治 (平成20年4月1日～)
社会連携課 会計係員	平井 丈士 (平成21年10月1日～)
社会連携課 事務補佐員 (総務)	永田美智子 (平成21年12月1日～)
社会連携課 事務補佐員 (総務)	町田 智子 (平成21年4月1日～)
社会連携課 事務補佐員 (会計)	竹森 良子 (平成20年4月1日～)
社会連携課 事務補佐員 (会計)	佐藤 嘉洋 (平成21年4月1日～)

(平成21年12月25日現在)

4 五高記念館等運営委員会委員名簿

(平成21年12月25日現在)

部局名	職種	氏名	任期	備考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	1号委員 (委員長)
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定	2号委員 (専任教員)
附属図書館	館長	入口 紀男	役職指定	3号委員 (図書館長)
大学院社会文化科学研究科	教授	安田 宗生	20.04.01～22.03.31	4号委員 (文選出)
教育学部	准教授	春田 直紀	20.04.01～22.03.31	4号委員 (教育選出)
法学部	教授	岩岡 中正	20.04.01～22.03.31	4号委員 (法選出)
大学院社会文化科学研究科	教授	吉川 榮一	20.04.01～22.03.31	4号委員 (社文選出)
大学院自然科学研究科 (理学系)	准教授	磯部 博志	20.04.01～22.03.31	4号委員 (理、自然選出)
大学院自然科学研究科 (工学系)	教授	伊東 龍一	20.04.01～22.03.31	4号委員 (工、自然選出)

大学院医学薬学研究部（医学系）	教授	山本 哲郎	20.04.01～22.03.31	4号委員（医、医教選出）
大学院医学薬学研究部（薬学系）	教授	高濱 和夫	20.04.01～22.03.31	4号委員（薬教選出）
企画部	部長	山崎 雅彦	役職指定	5号委員
財務部	部長	岩倉 公男	役職指定	6号委員
研究・国際部	部長	今田幸二郎	役職指定	7号委員
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	20.04.01～22.03.31	8号委員
政策創造研究教育センター	教授	矢加部和幸	20.04.01～22.03.31	8号委員
			16名	

（順不同）

5 教職員等の変遷

(1) 館長

- 初代館長 魚津 郁夫（文学部教授） 平成5年8月1日～平成8年3月31日
 第2代館長 江藤 孝（法学部教授） 平成8年4月1日～平成11年3月31日
 第3代館長 岩岡 中正（法学部教授） 平成11年4月1日～平成15年4月30日
 第4代館長 北野 隆（大学院自然科学研究科教授） 平成15年5月～平成18年3月31日
 第5代館長 伊藤 重剛（大学院自然科学研究科教授） 平成18年4月1日～

(2) 教職員（五高記念館内のみ）

- 事務補佐員 竹森 良子 平成18年7月4日～平成19年3月31日
 事務補佐員 洲崎五十鈴 平成19年4月1日～平成20年3月31日

(3) 五高記念館等運営委員会

・第4期（平成18年4月1日～平成20年3月31日）

部局名	職種	氏名	任期	備考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定 19.01.01～20.03.31	
附属図書館	館長	中山 仁 田口 宏昭	役職指定 18.04.01～19.03.31 19.04.01～20.03.31	
文学部	教授	安田 宗生	18.04.01～20.03.31	
教育学部	教授	西川 盛雄	18.04.01～20.03.31	
法学部	教授	岩岡 中正	18.04.01～20.03.31	
大学院自然科学研究科（理学系）	准教授	磯部 博志	18.04.01～20.03.31	
医学部	教授	三池 輝久	18.04.01～20.03.31	
大学院医学薬学研究部	教授	庄司 省三	18.04.01～20.03.31	
大学院自然科学研究科（工学系）	准教授	伊東 龍一	18.04.01～20.03.31	
大学院社会文化科学研究科	教授	山中 進	18.04.01～20.03.31	
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	18.04.01～20.03.31	
企画部	部長	山崎 雅彦	役職指定	
財務部	部長	小杉 信行	役職指定	
研究・国際部	部長	東 雅彦 園田 秋雄	役職指定 18.04.01～19.03.31 19.04.01～20.03.31	
			15名	

（順不同）

・第5期（平成20年4月1日～平成22年3月31日）

部局名	職種	氏名	任期	備考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	1号委員（委員長）
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定	2号委員（専任教員）
附属図書館	館長	田口 宏昭 入口 紀男	役職指定 20.04.01～21.03.31 21.04.01～22.03.31	3号委員（図書館長）
大学院社会文化科学研究科	教授	安田 宗生	20.04.01～22.03.31	4号委員（文選出）
教育学部	准教授	春田 直紀	20.04.01～22.03.31	4号委員（教育選出）
法学部	教授	岩岡 中正	20.04.01～22.03.31	4号委員（法選出）
大学院社会文化科学研究科	教授	吉川 榮一	20.04.01～22.03.31	4号委員（社文選出）
大学院自然科学研究科（理学系）	准教授	磯部 博志	20.04.01～22.03.31	4号委員（理、自然選出）
大学院自然科学研究科（工学系）	教授	伊東 龍一	20.04.01～22.03.31	4号委員（工、自然選出）
大学院医学薬学研究部（医学系）	教授	山本 哲郎	20.04.01～22.03.31	4号委員（医、医教選出）
大学院医学薬学研究部（薬学系）	教授	高濱 和夫	20.04.01～22.03.31	4号委員（薬教選出）
企画部	部長	山崎 雅彦	役職指定	5号委員
財務部	部長	岩倉 公男	役職指定	6号委員
研究・国際部	部長	園田 秋雄 今田幸二郎	役職指定 20.04.01～21.03.31 21.04.01～22.03.31	7号委員
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	20.04.01～22.03.31	8号委員
政策創造研究教育センター	教授	矢加部和幸	20.07.01～22.03.31	8号委員
			16名	

（順不同）

6 五高記念館等運営委員会記録

平成18年度

・平成18年度第1回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成18年4月4日（火）15:00～
- 2 場所 事務局大会議室
- 3 議事
 - (1) 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想について
 - (2) ユニバーシティ・ミュージアム検討WG設置について
 - (3) その他

【配布資料】

資料1 「熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想」

・平成18年度第2回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成18年4月18日（火）
- 2 場所 メール会議
- 3 議事
 - (1) 五高記念館休館日について

・平成18年度第3回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成18年5月11日(木)
- 2 場所 メール会議
- 3 議事
 - (1) 教員の選考について(教員選考申出書)

・平成18年度第4回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成18年10月20日(金) 15:00～
- 2 場所 事務局3階 特別会議室
- 3 議事
 - (1) 学内共同教育研究施設(五高記念館)の設置について
 - (2) その他

【配布資料】

- 資料1 国立大学法人熊本大学法人基本規則の一部を改正する規則(案)
新旧対照表及び熊本大学学則の一部を改正する学則(案)新旧対照表
- 資料2 熊本大学五高記念館等規則(案)新旧対照表
- 資料3 今後の五高記念館企画展等について
- 資料4 五高記念館等運営委員会名簿

平成19年度

・平成19年度第1回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成19年5月25日(金) 13:05～
- 2 場所 工学部一号館2階 共用会議室C(A208室)
- 3 議事
 - (1) 平成18年度決算について
 - (2) 平成19年度事業予定について
 - (3) 平成19年度予算執行計画について
 - (4) 博物館相当施設申請進捗状況について
 - (5) 寄附金箱の設置及びグッズ販売について
 - (6) その他
- 4 報告連絡
 - (1) 外部資金の獲得状況について
 - (2) 兼業について
 - (3) その他

【配布資料】

- 資料1 平成18年度五高記念館収支概要報告(案)
- 資料2 平成19年度五高記念館事業予定(案)
- 資料3 平成19年度予算執行計画(案)
- 資料4 博物館相当施設申請進捗状況
- 資料5 寄附金箱の設置及びグッズ等の販売について(案)
- 資料6 外部資金の獲得状況について
- 資料7 兼業について

資料 8 五高記念館等規則

資料 9 五高記念館等運営委員会名簿

・平成19年度第2回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成20年3月5日(水) 10:30～
- 2 場所 工学部一号館2階 共用会議室C (A208室)
- 3 議事
 - (1) 五高記念館長の任期満了(平成20年3月31日)に伴う、次期館長の推薦について
 - (2) その他
- 4 報告連絡
 - (1) 五高記念館の活動報告
 - (2) 博物館相当施設進捗状況
 - (3) 兼業について
 - (4) その他

【配布資料】

- 資料 1 平成19年度第1回五高記念館等運営委員会議事要録(案)
- 資料 2 平成19年度五高記念館活動報告
- 資料 3 大学博物館等協議会会則
- 資料 4 全国大学博物館学講座協議会規約
- 資料 5 博物館相当施設申請進捗状況
- 資料 6 兼業について
- 資料 7 五高記念館等規則
- 資料 8 五高記念館等運営委員会名簿

平成20年度

・平成20年度五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成20年7月7日(月) 16時10分～
- 2 場所 事務局2階 特別会議室
- 3 議事
 - (1) 平成19年度決算について
 - (2) 平成20年度事業計画について
 - (3) 平成20年度予算執行計画について
 - (4) 博物館相当施設申請進捗状況について
 - (5) 五高記念館ミュージアム・フェローについて
 - (6) 熊本大学五高記念館市民研究員制度について
 - (7) その他
- 4 報告連絡
 - (1) 外部資金の獲得状況について
 - (2) 兼業について
 - (3) その他

【配布資料】

- 資料 1 五高記念館等運営委員会名簿

- 資料2 平成19年度第2回五高記念館等運営委員会議事要録
- 資料3 平成19年度五高記念館収支概要報告(案)
- 資料4 平成20年度事業計画(案)
- 資料5 平成20年度五高記念館予算執行計画(案)
- 資料6 博物館相当施設申請進捗状況
- 資料7 熊本大学五高記念館の管理運営に関する内規(案)
- 資料8 熊本大学五高記念館資料取扱要項(案)
- 資料9 熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー制度の設置について
- 資料10 熊本大学五高記念館市民研究員制度について
- 資料11 科学研究費補助金・寄附金受入について
- 資料12 兼業状況
- 資料13 五高記念館等規則

7 運営に関する諸規程等

(1) 設置規程

熊本大学五高記念館は、国立大学法人熊本大学法人規則第36条及び熊本大学学則第9条に「学内共同教育研究施設」として位置付けられている。

・国立大学法人熊本大学法人規則第36条

(学内共同教育研究施設)

第36条 本学に、教育職員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設として、次の学内共同教育研究施設を置く。

- 総合情報基盤センター
- 留学生センター
- 大学教育機能開発総合研究センター
- 政策創造研究教育センター
- 五高記念館
- eラーニング推進機構
- 沿岸域環境科学教育研究センター
- 衝撃・極限環境研究センター
- 生命資源研究・支援センター
- エイズ学研究センター
- 発生医学研究センター
- バイオエレクトロニクス研究センター
- 環境安全センター

・熊本大学学則第9条

(学内共同教育研究施設)

第9条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

- 総合情報基盤センター
- 留学生センター

大学教育機能開発総合研究センター

政策創造研究教育センター

五高記念館

eラーニング推進機構

沿岸域環境科学教育研究センター

衝撃・極限環境研究センター

生命資源研究・支援センター

エイズ学研究センター

発生医学研究センター

バイオエレクトロニクス研究センター

環境安全センター

- 2 学内共同教育研究施設に関する規則は、別に定める。

(2) 教授会等

五高記念館は学内共同教育研究施設であり、教授会に関しては国立大学法人熊本大学法人基本規則第50条及び熊本大学教授会等規則第4条の規定に基づき、教授会として「学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会」を置いている。学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会は、熊本大学教授会等規則第4条及び熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則第3条の規定に基づき、施設等の教育又は研究に関する重要事項について審議し、並びに施設等の教員の採用及び昇任のための選考並びに施設等の教員の再任審査に関する事項を行う、と定められている。また、熊本大学教授会等規則第14条及び熊本大学文学部教授会規則第2条の規定により、五高記念館の専任准教授は文学部教授会に所属している。

・国立大学法人熊本大学法人基本規則第50条

(教授会等)

第50条 学部、研究科、研究部及び教育部に、教授会又は研究科委員会を置く。

- 2 学長は、学内共同教育研究施設及び保健センターのうち必要と認めるものに、教授会又は教授会として運営委員会を置くことができる。
- 3 学長は、学内共同教育研究施設及び保健センターのうち前項の規定により教授会又は教授会として運営委員会を置く組織以外の組織にあっては、本学に、教授会として学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を置く。
- 4 前3項に規定する教授会又は研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

・熊本大学教授会等規則第4条及び第14条

(教授会)

第4条 学内共同教育研究施設で前条第1項に掲げる組織以外の組織及び保健センターにあっては、熊本大学に、教授会として学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を置く。

- 2 前項の委員会は、同項に規定する組織の教育又は研究に関する重要事項について審議し、及び当該組織の教員の採用及び昇任のための選考に関する事項を行う。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、教授会、研究科委員会及び代議員会等の組織運営等に関し必要な事項は、当該組織の長が別に定める。

・熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則

(任務)

第3条 人事等委員会は、施設等の教育又は研究に関する重要事項について審議し、並びに施設等の教員の採用及び昇任のための選考並びに施設等の教員の再任審査に関する事項を行う。

・熊本大学文学部教授会規則第2条

(構成)

第2条 教授会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 文学部の専任の教授、准教授、講師及び助教
- (2) 文学部の授業を担当する大学院社会文化科学研究科の専任の教授及び准教授
- (3) 留学生センター、政策創造研究教育センター及び大学教育機能開発総合研究センターの専任の教授並びに五高記念館及び埋蔵文化財調査室の専任の准教授のうち、別に定めるところにより教授会が必要と認めたる者

(3) 熊本大学五高記念館等規則

熊本大学五高記念館等規則は、熊本大学学則第9条第2項（前掲）の規定に基づき、設置目的、業務、組織、館長、兼務教員、業務協力者、委員会の設置、委員会の組織、審議事項、委員長、議事、意見の聴取、事務等の五高記念館に関し必要な事項を定め、併せて熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想を視野に入れた本学の貴重な学術研究資料及び建築物の活用に関し必要な事項を定めている。

○**熊本大学五高記念館等規則**

(平成18年10月26日規則第253号)

改正 平成19年3月30日規則第179号 平成20年9月2日規則第239号

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則（平成16年4月1日制定）第9条第2項の規定に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）に関し必要な事項を定め、併せて熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想を視野に入れた熊本大学（以下「本学」という。）の貴重な学術研究資料及び建築物（以下「資料」という。）の活用に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 五高記念館は、本学及び旧制第五高等学校、旧制第五高等学校その他本学の沿革にある学校の発足以来の資料の充実を図るとともに、質の高い学芸員教育を行い、もって、本学の教育研究に貢献し、地域文化の発展・向上に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 五高記念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 旧制第五高等学校の本館及び化学実験場（以下「五高記念館施設」という。）の資料を収集、整理及び保管し、並びに展示・公開すること。
- (2) 五高記念館施設の資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 五高記念館施設の資料に関する講演会、講習会、研究会等の実施に関すること。
- (4) 学芸員教育に関すること。
- (5) 工学部研究資料館その他学部等の資料館に係る第1号から第3号までの業務に関する学部等に対する支援
- (6) その他五高記念館の業務に関し必要な事項

(組織)

第4条 五高記念館に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専任教員
- (3) 兼務教員
- (4) その他必要な職員
(館長)

第5条 館長の選考及び任命は、本学専任の教授のうちから、第7条に定める委員会の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 館長は、五高記念館の業務を掌理する。
- 3 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 館長に欠員が生じた場合の補欠の館長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
(兼務教員)

第6条 兼務教員は、本学の教員のうちから、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

- 2 館長は、前項の推薦を行うに当たっては、兼務教員として推薦しようとする者の所属する部局の長の同意を得るものとする。
- 3 兼務教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 兼務教員に欠員が生じた場合の補欠の兼務教員の任期は、前任者の残任期間とする。
(業務協力者)

第7条 五高記念館は、次に掲げる業務協力者を受け入れることができる。

- (1) ミュージアム・フェロー
- (2) 市民研究員
- 2 業務協力者に関し必要な事項は、別に定める。
(委員会の設置)

第8条 五高記念館及び学部等の資料館（以下「五高記念館等」という。）の管理運営に関し必要な事項を審議するため、熊本大学五高記念館等運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第9条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 館長
- (2) 五高記念館の専任教員
- (3) 附属図書館長
- (4) 各学部（薬学部を除く。）、大学院社会文化科学研究科、大学院自然科学研究科、大学院医学教育部、大学院薬学教育部及び大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授 各1人
- (5) 企画部長
- (6) 財務部長
- (7) 研究・国際部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第4号及び第8号の委員は、学長が委嘱する。
- 3 第1項第4号及び第8号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 第1項第4号及び第8号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第10条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 五高記念館の管理運営に関すること。

- (2) 五高記念館の業務に関すること。
- (3) 館長の推薦に関すること。
- (4) 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想の具体化に関すること。
- (5) その他五高記念館等に関し必要な事項

(委員長)

第11条 委員会に、委員長を置き、館長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第12条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第13条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させて意見を聴くことができる。

(事務)

第14条 五高記念館及び委員会の事務は、研究・国際部社会連携課が処理する。

(雑則)

第15条 この規則に定めるもののほか、五高記念館の管理運営に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年12月1日から施行する。
- 2 熊本大学五高記念館等規則（平成16年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に任命される館長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則施行の際現に熊本大学五高記念館長である者をもって充てるものとし、その任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。
- 4 この規則施行後、最初に任命される兼務教員の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。
- 5 この規則施行後、最初に委嘱される第8条第1項第4号の委員は、この規則施行の際現に附則第2項による廃止前の熊本大学五高記念館等規則第8条第1項第3号の委員である者をもって充てるものとし、その任期は、第8条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則（平成19年3月30日規則第179号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年9月25日規則第239号）

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

(4) 職員組織規程等

五高記念館の職員組織は、国立大学法人熊本大学法人基本規則第24条、第45条及び熊本大学学則第15条の規定に基づき、熊本大学五高記念館等規則第4条（前掲）において、館長、専任教員、兼務教員、その他必要な職員と定められている。現在、その他必要な職員としては、国立大学法人熊本大学有期雇用職員雇用規則及び国立大学法人熊本大学有期雇用職員就業規則に基づき特定事業研究員（2）と事務補佐員（2）を置いている。

また、専任教員の任用にあたって任期制（5年）が採用されたことから、その再任審査等については国立大学法人熊本大学教員の任期に関する規則第4条第2項及び熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則第8条第2項の規定に基づき、熊本大学五高記念館教員の再任審査等に関する内規を定めている。

・ 国立大学法人熊本大学法人基本規則第24条及び第45条

(職員)

第24条 法人に、次の職員を置く。

教育職員

一般職員

医療職員

2 職員は、学長が任命する。

(学内共同教育研究施設長)

第45条 学内共同教育研究施設に、学内共同教育研究施設の長（以下「センター長」という。）を置く。

2 センター長は、学内共同教育研究施設の業務を掌理する。

3 センター長の選考等に関し必要な事項は、別に定める。

・ 熊本大学学則第15条

(職員)

第15条 本学に、学長及び副学長を置き、学部には学部長を、研究科（研究部及び教育部を含む。第6項において同じ。）に研究科長（研究部にあつては研究部長、教育部にあつては教育部長。第6項において同じ。）を置く。

2 本学に教授、准教授、専任講師、助教及び助手を置く。

3 前2項に定めるもののほか、本学に事務職員、技術職員、医療職員その他必要な職員を置く。

4 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

5 副学長は、学長の職務を助ける。

6 学部長及び研究科長は、学部又は研究科に関する校務をつかさどる。

7 教授は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

8 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

9 専任講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

10 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

11 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

12 第3項に規定する職員の職務については、別に定める。

・ 国立大学法人熊本大学教員の任期に関する規則第4条

(業績審査)

第4条 教員を再採用しようとする場合、その可否は、当該教員の任期中の業績審査に基づき、任期満了の日の1年前までに決定するものとする。

2 前項の業績審査は、次の各号に掲げる事項について行うものとし、その審査の方法、項目等審査のために必要な事項については、教授会（熊本大学教授会等規則（平成16年4月1日制定）第3条第1項に定める研究所及び学内共同教育研究施設の運営委員会並びに同規則第4条第1項に定める学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を含む。以下同じ。）の議を経て、教育研究組織の長が別に定める。

(1) 教育活動に関する事項

(2) 研究活動に関する事項

(3) 本学の管理運営、社会への貢献等に関する事項

・熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則第8条

(業績評価委員会)

第8条 人事等委員会に、施設等の教員の再任審査に係る業績評価に関する事項を審議するため、業績評価委員会を置く。

2 業績評価委員会の組織運営等に関し必要な事項は、人事等委員会の議を経て委員長が別に定める。

○熊本大学五高記念館教員の再任審査等に関する内規

(平成18年12月1日内規第12号)

(趣旨)

第1条 この内規は、国立大学法人熊本大学教員の任期に関する規則(平成16年4月1日制定)第4条第2項及び熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則(平成16年4月1日制定)第8条第2項の規定に基づき、熊本大学五高記念館(以下「記念館」という。)教員の再任審査に係る業績評価委員会(以下「委員会」という。)の組織運営及び委員会が行う業績評価等に関し必要な事項を定める。

(業績評価委員会の組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長が指名する副学長

(2) 館長

(3) 熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会(以下「人事等委員会」という。)委員3人以上

(4) その他学長が必要と認めた者 若干人

2 前項の規定にかかわらず、同項第2号の館長が記念館の専任の教員の場合は、館長は、委員となることができない。

3 第1項第1号、第3号及び第4号の委員は、学長が人事等委員会の議を経て委嘱する。

(委員長)

第3条 委員会に、委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第4条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の3分の2以上をもって決する。

(業績評価資料の作成)

第5条 再任を希望する記念館の教員は、任期満了の日の1年6月前までに、業績評価資料を作成するものとする。

2 業績評価資料の評価項目は、次に掲げるとおりとする。

(1) 企画・運営業務に係る業績

(2) 研究活動及び研究業績

(3) 教育活動

(4) 学術及び社会活動

(5) 外部資金(研究費)獲得状況

(6) その他評価を行うための適切な業績

(評価項目についての発表)

第6条 再任を希望する教員は、委員会において、評価項目についての発表を行う。

(業績評価)

第7条 業績評価は、委員会が、業績評価資料、委員会における発表内容、質疑等により行うものとする。

- 2 委員長は、前条により評価項目についての発表を行った教員に、業績評価の結果を文書により通知する。
- 3 前項の通知を受けた教員は、業績評価について委員長に対し、異議の申し立てを行うことができる。
- 4 委員長は、申し立ての内容を委員会に諮るものとする。
- 5 委員長は、業績評価を人事等委員会に報告する。

(意見の聴取)

第8条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(再任の可否の決定)

第9条 再任の可否は、委員長からの報告に基づき、人事等委員会が決定する。

- 2 前項の決定は、再任審査を受ける教員の任期満了の日の1年前までに行うものとする。
- 3 再任審査を受ける記念館の教員は、人事等委員会における当該教員の再任についての審議に加わることはできない。
- 4 記念館長は、人事等委員会の決定を受け、再任の可否について、再任審査を受けた教員に文書により通知する。

(対象除外期間)

第10条 出産・育児等により勤務できなかった期間等については、再任審査に係る業績評価の対象期間としないものとする。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、人事等委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年12月1日から施行する。

(5) 資料公開等に関する規程等

五高記念館所蔵資料は、旧制第五高等学校及び同第五高等学校の学籍簿等きわめて個人情報にかかわる資料を含んでいるため、国立大学法人熊本大学法人文書管理規則第2条及び国立大学法人熊本大学情報公開規則第2条において「五高記念館において、歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別の管理がされているもの」は法人文書から除くと定められ、情報公開の制限を設けて法人文書の適正な管理を行っている。また、五高記念館に関する法人文書は、その保存期間を定めた国立大学法人熊本大学法人文書管理規則第7条第1項及び別表の規定にかかわらず、五高記念館が必要と認めた法人文書について適切な保存管理を行っている。

五高記念館所蔵資料の公開については、熊本大学五高記念館等規則第3条第1項第1号（前掲）において、「旧制第五高等学校の本館及び化学実験場の資料を収集、整理及び保管し、並びに展示・公開すること」と定められている。

・国立大学法人熊本大学法人文書管理規則第2条

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 法人文書 本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）であって、本学の役員又は職員が組織的に用いるものとして、本学が保有しているものをいう。ただし、次に掲げるものを除く。
 - イ 官報、白書、新聞、雑誌、書籍その他不特定多数の者に販売することを目的として発行されるもの
 - ロ 熊本大学附属図書館及び熊本大学五高記念館において、歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別の管理がされているもの
- (2) 教育研究関係文書 専ら教育、研究の用務に供するための法人文書で、教員又は教育研究組織が主体

となって管理するものをいう。

- (3) 医療関係文書 専ら医療の用務に供するための法人文書で、医療関係者又は医療組織が主体となって管理するものをいう。
- (4) 法人文書ファイル 能率的な事務又は事業の処理及び法人文書の適切な保存の目的を達成するためにまとめられた、相互に密接な関連を有する法人文書（保存期間が1年以上のものであって、当該保存期間を同じくすることが適当であるものに限る。）の集合物をいう。
- (5) 部局 各学部、大学院社会文化科学研究科、大学院自然科学研究科、大学院医学薬学研究部、大学院医学教育部、大学院保健学教育部、大学院薬学教育部、大学院法曹養成研究科、医学部附属病院、附属図書館、大学院先端機構、イノベーション推進機構、熊本大学学則（平成16年4月1日制定）第9条第1項に規定する学内共同教育研究施設、保健センター及び教養教育実施機構をいう。
- (6) 部局長 前項に定める部局の長をいう。

・国立大学法人熊本大学情報公開規則第2条 (定義)

第2条 この規則において「独立行政法人等」とは、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人及び法別表第1に掲げる法人をいう。

2 この規則において「法人文書」とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）であって、本学の役員又は職員が組織的に用いるものとして、本学が保有しているものをいう。ただし、次に掲げるものを除く。

- (1) 官報、白書、新聞、雑誌、書籍その他不特定多数の者に販売することを目的として発行されるもの
- (2) 熊本大学附属図書館及び熊本大学五高記念館において、歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別の管理がされているもの

(6) 利用規則等

五高記念館の利用に関すること（開館時間、休館日、入館料、入館の制限、入館者の順守事項、教室使用、弁償）は、熊本大学五高記念館等規則第15条（前掲）の規定に基づき、熊本大学五高記念館の管理運営に関する内規を定めている。

五高記念館資料の取扱に関すること（特別利用、館外貸出し、出版物等への掲載、寄贈の受入、移管等、寄託の受入等）は、熊本大学五高記念館等規則第15条（前掲）の規定に基づき、熊本大学五高記念館資料取扱要項を定めている。ただし、資料の寄贈については、国立大学法人熊本大学寄贈物品取扱規則に基づき受入を行っている。

○熊本大学五高記念館の管理運営に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年12月1日制定）第15条の規定に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定める。

(開館時間)

第2条 五高記念館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。ただし、午後3時30分以降の入館は、認めない。

2 前項の規定にかかわらず、熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）が必要と認めたときは、開館時間を延長又は短縮することができる。

(休館日)

第3条 五高記念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
- (3) 年末年始 12月28日から翌年1月4日まで
- (4) その他学長が指定した日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めるときは、臨時に開館又は休館することができる。

（入館料）

第4条 五高記念館の入館料は無料とする。

（入館の制限）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 秩序若しくは風俗を乱し、又はそのおそれがあると認められた者
- (2) 他人に迷惑をかけ、又は危険物を所持している者
- (3) その他管理上支障があると認められる者

（入館者の順守事項）

第6条 入館者は、五高記念館職員の指示に従うほか、次の事項を守らなければならない。

- (1) 展示資料（館長が特に指定した展示品を除く。）に触れないこと。
- (2) 許可を受けずに展示資料の撮影をしないこと。
- (3) 指定された場所以外での飲食、喫煙及び火気を使用しないこと。

（教室使用）

第7条 五高記念館教室を使用しようとする者は、五高記念館教室使用届を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

（弁償）

第8条 入館者は、資料を汚損若しくは亡失したとき又は五高記念館の施設、設備、備品等に損害を与えたときは、これを弁償しなければならない。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

○熊本大学五高記念館資料取扱要項

（趣旨）

第1条 この要項は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年12月1日制定）第15条の規定に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）における資料の取扱いに関し必要な事項を定める。

（定義）

第2条 この要項において、「特別利用」とは、資料を閲覧し、複写し、若しくは撮影し、又は五高記念館の写真原板を用いて印画を作成することをいう。

（特別利用及び館外貸出しに供する資料）

第3条 特別利用及び館外貸出しに供することができる資料は、五高記念館の収蔵する資料（以下「資料」という。）とし、原則として寄託を受けている資料の館外貸出しは除くものとする。

（特別利用の許可）

第4条 資料の特別利用は、次の各号に掲げる場合に許可するものとする。

- (1) 国、地方公共団体その他教育、研究機関等が、教育、学術又は文化に係る事業の用に供することを目的として利用するとき。
- (2) 熊本大学教職員及び学生が、教育又は学術研究の用に供することを目的として利用するとき。
- (3) その他館長が特に必要があると認めるとき。

（特別利用の手続）

第5条 資料の特別利用を希望する者は、資料特別利用許可申請書を熊本大学五高記念館長（以下「館長」

という。)に提出するものとする。

- 2 館長は、特別利用を許可するときは、資料特別利用許可書を申請者に交付するものとする。
- 3 特別利用させる資料が寄託を受けたものにあつては、当該資料の寄託者の承諾書を添付しなければならない。
(館外貸出しの許可)

第6条 資料の館外貸出しは、次の各号に掲げる場合に限り許可するものとする。

- (1) 当該資料が、学術上の調査研究又は教育普及のために使用され、かつ、取扱い上の安全性が確保されると認められたとき。
- (2) その他館長が特に必要があると認められたとき。

(館外貸出しの手続)

第7条 資料の館外貸出しを受けようとする者(以下「借受者」という。)は、資料貸出許可申請書を館長に提出するものとする。

- 2 館長は、貸出しを許可するときは、資料貸出許可書を借受者に交付するものとする。
- 3 借受者は、資料の借用に際して、資料借用書を提出するものとする。

(館外貸出しの条件)

第8条 館長は、資料の館外貸出しを許可する場合には、資料の管理等について必要な条件を付することができる。

(特別利用及び館外貸出しの制限)

第9条 館長は、次のいずれかに該当すると認められるときは、資料の特別利用及び館外貸出しを許可しないものとする。

- (1) 貴重な資料で、保存管理上支障が生じると認められるとき。
- (2) 著作権又は個人情報保護上支障が生じると認められるとき。

(出版物等への掲載)

第10条 利用者は、特別利用によって複製された資料を出版物等に掲載しようとするときは、出版物等掲載許可申請書を館長に提出するものとする。

- 2 館長は、掲載を許可するときは、出版物等掲載許可書を利用者に交付するものとする。

(寄贈の受入)

第11条 資料の所有者から、五高記念館に資料の寄贈の申し出があつたときの手続については、国立大学法人熊本大学寄贈物品取扱規則(平成16年4月1日制定)の定めるところによるものとする。

- 2 館長は、資料を受領したときは、寄贈者に寄贈資料受領書を交付するものとする。

(移管等)

第12条 館長は、必要に応じて寄贈資料の移管又は廃棄をすることができる。

(寄託の受入)

第13条 五高記念館に資料を寄託しようとする者は、資料寄託申込書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 館長は、資料を受託したときは、寄託者に寄託資料預り書を発行するものとする。
- 3 資料の寄託期間については、寄託者と協議の上決定するものとする。

(寄託資料の保管等)

第14条 寄託資料の保管その他の取扱いについては、五高記念館の所蔵する資料に準じて行わなければならない。

- 2 寄託資料は、五高記念館がすべての責任をもって保管しなければならない。
- 3 前項の規定にかかわらず、寄託資料が天災、その他不可抗力により紛失又は破損したときは、損害賠償の責めを負わない。

附 則

この要項は、平成20年10月1日から施行する。

○資料特別利用許可申請書（第5条関係別紙様式）

別紙様式（第5条関係）

資料特別利用許可申請書

年 月 日

熊本大学五高記念館長様

申請者
住所 〒
電話
氏名 印

熊本大学五高記念館資料の特別利用を下記の通り許可を申請します。

利用目的	・研究のため（研究名） ・その他			
利用方法	・閲覧 ・複写（フィルム、デジタルデータ） ・撮影（静止画、動画） ・その他			
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで（日間）			
利用資料	資料名	頁数	登録番号	備考
その他				

申請事項

- ・当館資料・借用資料については、所蔵者等の承諾を得てください。
- ・資料写真等を目的に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要となります。
- ・資料の特別利用にあたっては、五高記念館職員が常駐している必要があります。
- ・資料の保存管理上又は著作権法・個人情報保護法により、特別利用できない資料もあります。

○資料特別利用許可書（第5条関係別紙様式）

別紙様式（第5条関係）

資料特別利用許可書

熊本大学五高記念館
年 月 日

様

熊本大学五高記念館
館長 印

年 月 日付で申請のあった熊本大学五高記念館資料の特別利用を下記の通り許可します。

記

利用目的	・研究のため（研究名） ・その他			
利用方法	・閲覧 ・複写（フィルム、デジタルデータ） ・撮影（静止画、動画） ・その他			
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで（日間）			
利用資料	資料名	頁数	登録番号	備考
その他				

申請事項

- ・資料写真等を目的に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要となります。
- ・資料の特別利用にあたっては、五高記念館職員が常駐している必要があります。
- ・著作権法・個人情報保護法により問題が生じた場合は、五高記念館と利用者間で協議をもち、協議の上対応することとなります。

○資料貸出許可申請書（第7条関係別紙様式）

別紙様式（第7条関係）

資料貸出許可申請書

年 月 日

熊本大学五高記念館長様

申請者
住所 〒
電話
氏名 印

熊本大学五高記念館資料の貸出しを下記の通り申請します。

利用目的				
利用方法				
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで			
利用資料	資料名	頁数	登録番号	備考
その他				

申請事項

- ・当館資料・借用資料を目的に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要となります。
- ・資料の貸出にあたっては、五高記念館職員が常駐している必要があります。
- ・著作権法・個人情報保護法により問題が生じた場合は、五高記念館と利用者間で協議をもち、協議の上対応することとなります。

○資料貸出許可書（第7条関係別紙様式）

別紙様式（第7条関係）

資料貸出許可書

熊本大学五高記念館
年 月 日

様

熊本大学五高記念館
館長 印

年 月 日付で申請のあった熊本大学五高記念館資料の貸出しを下記の通り許可します。

記

利用目的				
利用方法				
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで			
利用資料	資料名	頁数	登録番号	備考
その他				

申請事項

- ・資料写真等を目的に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要となります。
- ・資料の貸出にあたっては、五高記念館職員が常駐している必要があります。
- ・著作権法・個人情報保護法により問題が生じた場合は、五高記念館と利用者間で協議をもち、協議の上対応することとなります。

○資料寄託申込書（第13条関係別紙様式）

別紙様式（第13条関係）
資料寄託申請書

熊本大学五高記念館長様

〒 月 日

寄託申請者
氏名 〒

電話

氏名 郵便番号

上記の資料を熊本大学五高記念館に寄託したい旨で申請します。

記

1. 資料

名称	件数	備考

2. 存続期間

年 月 日 から 年 月 日まで

3. 備考

○寄託資料預り書（第13条関係別紙様式）

別紙様式（第13条関係）
寄託資料預り書

〒 月 日

熊本大学五高記念館
館長 様

下記の資料を熊本大学五高記念館の寄託資料としてお預けしました。

記

名称	件数	備考

1. 存続期間

年 月 日 から 年 月 日まで

2. 備考

国立大学法人熊本大学寄贈物品取扱規程は省略する。

(7) 業務協力者に関すること

○熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー要項

(趣旨)

第1条 この要項は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年10月26日制定）第7条第2項に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）に受け入れるミュージアム・フェローの取扱いに関し必要な事項を定める。

(受入申請)

第2条 五高記念館の専任教員又は兼務教員は、五高記念館が実施する業務において、大学院学生を主体的に参画させることにより、コミュニケーション能力及びマネジメント能力が育成され、キャリアアップが図れると判断した場合は、本学の大学院学生の中からミュージアム・フェロー候補者として選定し、参画内容に対する本人の同意を得た上で、五高記念館が別に定める申請書に大学院学生が所属する研究科長又は教育部長の承諾書及び本人の履歴書を添えて、熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）に申し出るものとする。

(受入資格)

第3条 ミュージアム・フェローとして受け入れることができる者は、本学の大学院学生のうち、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学芸員資格を有する者
- (2) 学芸員資格取得を目指す者

(受入承認)

第4条 館長は、五高記念館等運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、ミュージアム・フェローの受入れを決定し、本人へ委嘱するものとする。

(業務)

第5条 ミュージアム・フェローは、五高記念館が実施する業務に参画し、専任教員又は兼務教員の下で、研究及び事業の補助を行う。

(委嘱期間)

第6条 ミュージアム・フェローの委嘱期間は、運営委員会の議に基づき、館長が決定する。

(報酬等)

第7条 ミュージアム・フェローに対する委嘱期間中の報酬、謝礼は本学からは支給しない。

2 ミュージアム・フェローの業務に係る経費の支給については、運営委員会が別に定める。

(業務従事内容証明書の交付)

第8条 ミュージアム・フェローが、従事した業務についての証明を願い出たときは、館長は業務従事内容証明書を交付する。

(遵守事項)

第9条 ミュージアム・フェローは、この要項に定めるもののほか、五高記念館の職員の指示に従わなければならない。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、ミュージアム・フェローに関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年10月1日から施行する。

○ミュージアム・フェロー参画承諾依頼書 (第2条関係別紙様式)

別紙様式(第2条関係)

熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー参画承諾依頼書

平成 年 月 日

〔大学長(西島清尚)様〕 宛

〔五高記念館専任教員・兼務教員 様(氏名)〕

貴校に在任中の方は、五高記念館で実施する業務に参画させることにより、学芸員としての豊富なミュージアム・フェローとしての能力が有効なれ、在任中での参画が困難なと判断しましたので、大学長からの内諾を得て下記の通り五高記念館ミュージアム・フェローとして参画を行わせたいと存じます。

つきましては、熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー参画要項に基づき、貴校に参画する研究科長等の承諾をいただきたいと思いますので、よろしくお取り扱いをお願いいたします。

また、ご手紙の上は、別紙により承諾書をおたがな申すようお願いいたします。

記

1	学名(所属)氏名	所 属 _____ 氏 名 _____
2	参 画 内 容	五高記念館ミュージアム・フェロー
3	参 画 業 務	
4	参 画 期 間	参画開始年月日(西暦) 年 月 日迄 参画終了年月日(西暦) 年 月 日迄
5	参 画 学 科 長 等	
6	備 考	

〔印刷内容に「印」で内添しました。〕

学号再録(氏名) _____

○ミュージアム・フェロー参画承諾書 (第2条関係別紙様式)

別紙様式(第2条関係)

熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー参画承諾書

平成 年 月 日

〔五高記念館専任教員・兼務教員 様(氏名) 様〕

〔大学長(西島清尚)様〕

貴校 年 月 日(印刷内容)に於て下記五高記念館ミュージアム・フェローとして参画を承諾します。

記

1	学名(所属)氏名	所 属 _____ 氏 名 _____
2	参 画 内 容	五高記念館ミュージアム・フェロー
3	参 画 業 務	
4	参 画 期 間	参画開始年月日(西暦) 年 月 日迄 参画終了年月日(西暦) 年 月 日迄
5	参 画 学 科 長 等	
6	備 考	

○ミュージアム・フェロー申請書
(第2条関係別紙様式)

熊本大学五高記念館

熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー申請書

(氏名・住所・電話番号)

(研究の目的・研究内容(種・法))

(この申請書は、五高記念館のホームページに掲載されている「ミュージアム・フェロー」の募集要項に基づいて作成してください。)

1	氏名	姓 名 _____ 姓 名 _____
2	住所	〒 _____ 市 _____ 区 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号 _____
3	電話番号	_____
4	所属機関	_____ 市 _____ 区 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号 _____ _____ 市 _____ 区 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号 _____
5	研究の目的	_____
6	研究内容	_____

※この申請書は、入館券の申請書と併せて提出してください。また、申請書に添付する写真等は、別途提出してください。

○熊本大学五高記念館市民研究員要項

(趣旨)

第1条 この要項は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年10月26日制定）第7条第2項に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）に受け入れる市民研究員の取扱いに関し必要な事項を定める。

(受入)

第2条 熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）は、五高記念館が実施する業務において、広く一般市民の参画を求め、協働して実施することが望ましいと判断した場合は、市民研究員として五高記念館に受け入れることができる。

(受入手続)

第3条 一般市民が五高記念館の実施する事業へ参画を希望する場合は、五高記念館が別に定める申込書に必要書類を添えて、館長に申し込まなければならない。

(受入承認)

第4条 館長は、五高記念館等運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、市民研究員の受入れを決定し、本人へ委嘱するものとする。

(業務)

第5条 市民研究員は、五高記念館が実施する業務に専任教員及び兼務教員と協働してボランティアとして参画する。

(受入期間)

第6条 市民研究員の受入期間は、運営委員会の議に基づき、館長が決定する。

(報酬等)

第7条 市民研究員に対する受入期間中の報酬、謝礼は本学からは支給しない。

2 市民研究員の業務に係る経費の支給については、運営委員会が別に定める。

(研究料)

第8条 市民研究員に係る研究料は、徴収しない。

(業務従事内容証明書の交付)

第9条 市民研究員が、従事した業務についての証明を願い出たときは、館長は業務従事内容証明書を交付する。

(弁償等の義務)

第10条 市民研究員は、受入期間中において故意又は重大な過失により本学の施設、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

(遵守事項)

第11条 市民研究員は、ボランティア保険等へ自己加入しなければならない。

2 市民研究員は、この要項に定めるもののほか、五高記念館の職員の指示に従わなければならない。

(雑則)

第12条 この要項に定めるもののほか、市民研究員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年10月1日から施行する。

○市民研究員申込書（第3条関係別紙様式）

五高記念館市民研究員申込書	
1	姓 名
2	姓 名
3	姓 名
4	姓 名
5	姓 名
6	姓 名
7	姓 名
8	姓 名
9	姓 名
10	姓 名
11	姓 名
12	姓 名
13	姓 名
14	姓 名
15	姓 名
16	姓 名
17	姓 名
18	姓 名
19	姓 名
20	姓 名
21	姓 名
22	姓 名
23	姓 名
24	姓 名
25	姓 名
26	姓 名
27	姓 名
28	姓 名
29	姓 名
30	姓 名
31	姓 名
32	姓 名
33	姓 名
34	姓 名
35	姓 名
36	姓 名
37	姓 名
38	姓 名
39	姓 名
40	姓 名
41	姓 名
42	姓 名
43	姓 名
44	姓 名
45	姓 名
46	姓 名
47	姓 名
48	姓 名
49	姓 名
50	姓 名
51	姓 名
52	姓 名
53	姓 名
54	姓 名
55	姓 名
56	姓 名
57	姓 名
58	姓 名
59	姓 名
60	姓 名
61	姓 名
62	姓 名
63	姓 名
64	姓 名
65	姓 名
66	姓 名
67	姓 名
68	姓 名
69	姓 名
70	姓 名
71	姓 名
72	姓 名
73	姓 名
74	姓 名
75	姓 名
76	姓 名
77	姓 名
78	姓 名
79	姓 名
80	姓 名
81	姓 名
82	姓 名
83	姓 名
84	姓 名
85	姓 名
86	姓 名
87	姓 名
88	姓 名
89	姓 名
90	姓 名
91	姓 名
92	姓 名
93	姓 名
94	姓 名
95	姓 名
96	姓 名
97	姓 名
98	姓 名
99	姓 名
100	姓 名

(8) 公印規程

五高記念館の公印は、国立大学法人熊本大学公印規則第2条及び同第4条並びに別表第1に基づき、組織の印、職の印を定めている。また、同規則第8条及び別表第2の定めにより、研究・国際部社会連携課長を公印管守責任者、社会連携係長が指名する係長を公印管守補助者とし、適切な公印管理を行っている。

・国立大学法人熊本大学公印規則第2条・第4条・第8条

(定義)

第2条 この規則において公印とは、本学において本学の役員又は職員が職務上作成した文書に使用する印章で、その印影を押すことにより当該文書が真正なものであることを認証することを目的とするものをいい、次項の組織の印、第3項の職の印及び第4項の会計機関等の印を総称する。

2 この規則において組織の印とは、本学又はその内部組織の名称を刻印した公印をいう。

3 この規則において職の印とは、役員又は本学の内部組織に置かれた職員で、その職務権限が定められたものの役名又は職名を刻印した公印をいう。

4 この規則において会計機関等の印とは、別表第1会計機関等の印の項に規定する会計機関又は管理の機関(以下「会計機関等」という。)の名称及び当該会計機関等の所属する組織の名称又は当該会計機関等の職名(以下「会計機関等名」という。)を刻印した公印をいう。

(公印の種類及び寸法)

第4条 本学における組織の印、職の印及び会計機関等の印の種類及び寸法は、別表第1に定めるとおりとする。

(公印の管守)

第8条 本学における公印を管理させるために別表第2のとおり公印管守責任者、公印管守補助者及びその管守すべき公印の範囲を定める。

2 公印管守責任者は、公印が適切に使用されるよう公印を管理し、及び公印が使用されないときは、それを確実な保管設備に格納し厳重に保管しなければならない。

3 公印管守補助者は、公印管守責任者の職務を補助するものとする。

国立大学法人熊本大学公印規則に基づく別表は省略する。

(9) 防災規程

五高記念館の防火については、国立大学法人熊本大学防火規則第2条及び別表(第2条第4項関係)の定めにより、財務部長を防火管理者、研究・国際部社会連携課長を副防火管理者としている。また、同規則第4条第3項の規定に基づき、国立大学法人熊本大学消防団を置いている。消防団は、国立大学法人熊本大学消防団規則第3条の定めにより、本学の職員及び学生をもって組織され、同条第2項の規定により分団を置いている。分団は、同条第3項及び別表1(第3条関係)によって編成され、五高記念館は人文社会科学系分団に所属している。

国立大学法人熊本大学防火規則及び国立大学法人熊本大学消防団規則は省略する。

(10) 新聞・単行本・雑誌等掲載一覧

新聞

平成17年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成17年12月12日	激動生きた若者の軌跡 文化庁「旅百選」に熊大・上野助教授プラン	熊本日日新聞
2	平成18年3月2日	五高記念館を博物館に 熊本大が構想策定	熊本日日新聞
3	平成18年3月2日	五高記念館 平日も公開 熊大のシンボルに	西日本新聞
4	平成18年3月5日	ハンセン病資料現地保存を訴え 熊本、シンポで研究者ら	朝日新聞
5	平成18年3月5日	ハンセン病の教訓 後世に 資料保存を訴え熊本市でシンポ	西日本新聞
6	平成18年3月5日	歴史資料後世へ熊本大でシンポ ハンセン病関連整備保存活用研	熊本日日新聞
7	平成18年3月10日	古写真が語る熊本の近代 古写真展	読売新聞
8	平成18年3月14日	明治～昭和写した33点 熊大五高記念館で展示	西日本新聞
9	平成18年3月27日	老舗写真館の古写真展	毎日新聞

平成18年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成18年4月20日	明治～昭和の古写真 五高記念館で展示	熊大学生新聞
2	平成18年5月8日	旧制五高 赤門の門扉“復元”へ 創立120周年で熊本大計画	熊本日日新聞
3	平成18年8月23日	精密…五高記念館の設計図 熊大・国の重文 原画など初の展示	毎日新聞
4	平成18年8月30日	漱石「草枕」100年 記念イベント1日幕開け 五高記念館ライトアップ	熊本日日新聞
5	平成18年9月2日	漱石「草枕」100年 百年祭華やか開幕 熊大・五高記念館前で	熊本日日新聞
6	平成18年9月2日	漱石「草枕」100年 高校生が主役 漱石百年祭開幕セレモニー	熊本日日新聞
7	平成18年10月28日	漱石の「声」に興奮 国語教育研究大会	熊本日日新聞
8	平成18年11月4日	漱石展と出久根達郎氏講演会	熊本日日新聞
9	平成18年11月4日	埋蔵文化財展 大学は歴史の宝庫？	熊本日日新聞
10	平成18年11月6日	富重写真所開業140周年でシンポ 熊本大	熊本日日新聞

平成19年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成19年6月15日	旧制五高 創立120周年 自由が育てた人材	読売新聞
2	平成19年6月30日	小泉八雲の生誕記念 熊大でコンサート	熊本日日新聞
3	平成19年7月24日	くまもと建築遺産めぐり 旧制第五高等学校本館（現五高記念館）	熊本日日新聞
4	平成19年8月26日	最先端研究実験で体感 熊本大五高記念館	熊本日日新聞
5	平成19年10月3日	五高ゆかりの品寄贈 肥後銀行常任顧問 長野氏が熊大に	熊本日日新聞
6	平成19年10月6日	出征学徒の遺文ラベルに 熊大120周年記念品焼酎	西日本新聞
7	平成19年10月7日	聞く語る 「薫陶を与え続ける存在」 五高記念館館長	西日本新聞
8	平成19年10月11日	旧制五高开校120周年記念式典 「世界水準の人材排出を」	熊本日日新聞
9	平成19年11月2日	「熊本大学基金」設置 奨学金充実など支援強化	熊本日日新聞
10	平成20年2月24日	旧制五高の歩み図録で振り返る 豊富な資料基に刊行	熊本日日新聞

平成20年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成20年4月3日	熊本で「坂の上の雲」ロケ NHK 5 - 6月に五高記念館など	熊本日日新聞
2	平成20年5月9日	WHOで天然痘根絶に尽力 蟻田氏の業績紹介 五高記念館で展示会	熊本日日新聞
3	平成20年5月18日	天然痘根絶で講演会 熊本大学で蟻田功氏 活動の苦勞など紹介	熊本日日新聞
4	平成20年5月23日	明治の建造物を写真で紹介 熊本の産業遺産展－明治編 6月30日まで	熊本日日新聞
5	平成20年5月29日	三角西港に時代の熱気 NHKドラマ「坂の上の雲」ロケ	熊本日日新聞
6	平成20年6月11日	「三四郎」の魅力語る 漱石発表100年 記念にシンポジウム 熊本大五高記念館	熊本日日新聞
7	平成20年9月26日	九州・山口・鳥根 秋旅のススメ文豪ゆかりの地を訪ねて	読売新聞
8	平成20年9月30日	漱石「種痘届」を初公開 天然痘根絶尽力の蟻田氏 熊本大で業績展示会	熊本日日新聞
9	平成20年11月27日	明治・大正・昭和の足跡を訪ねて 旧制第五高等学校校舎	日本経済新聞
10	平成21年1月22日	火から五高記念館守れ 消防訓練	読売新聞
11	平成21年3月24日	歴史回廊 くまもと魅力発見の旅 学生街に先達の姿	熊本日日新聞
12	平成21年3月27日	熊本大教授ら学内でアート 作品展開催中	熊本日日新聞

雑誌等

平成18年度～20年度

	発行年月日	掲載記事	掲載誌	発行所
1	平成18年7月25日	ひと紀行 夏目漱石 熊本と『草枕』の旅	旅三昧	九州旅客鉄道株式会社
2	平成19年3月20日	特集 俳人・夏目漱石	華音	星雲社
3	平成19年	熊本の偉人 嘉納治五郎	Hand to Land	NPO法人 Hand to Land
4	平成19年	熊本大学五高資料館	建築MAP九州・沖縄	TOTO出版
5	平成19年8月25日	九州ものしり学 熊本大学五高記念館	プリーズ	九州旅客鉄道株式会社
6	平成19年9月10日	ふるさと探訪 火の国の中心 熊本を歩く	ふるさと味倶楽部	㈲ポスタルサービスセンター
7	平成19年9月30日	異郷に降り立つ漱石	文豪・夏目漱石ーそのころとまなざし	朝日新聞社
8	平成19年10月	熊本大学五高記念館	ブルーガイドてくてく歩き 「湯布院 阿蘇 別府」	実業之日本社
9	平成19年10月	ふるさとスケッチ 熊大 五高記念館	まいらいふ	熊本日日新聞社販売局
10	平成19年10月6日	特集 レトロを歩こう～熊本編～	ナンプレブラザ	コスミック出版
11	平成20年2月	企画・イベント・施設等	国立大学発 特色ある取組紹介	㈱国立大学法人
12	平成20年5月20日	ナンバースクールの遺功 第五高等学校	ESPRESSO	地域情報センター
13	平成20年12月1日	日本の教育文化遺産を訪ねる 熊本大学五高記念館	教育旅行	㈲日本修学旅行協会
14	平成21年1月	熊本大学五高記念館	るるぶドライブ九州	JTBパブリッシング

(藤本秀子・市原富代)

(11) 平成17年以前の活動実績

1. 公開講座

平成11年度

第1回五高記念館公開講座

平成11年10月23日(土) 13:20~15:50

開講の辞 江口吾朗(学長)

「漱石と日本の近代化」

首藤基澄(文学部)

「花陵会と五高キリスト者群像」

岩岡中正(法学部)

「ハーンが見た近代日本」

西川盛雄(教育学部)

平成11年10月24日(日) 13:30~16:10

「近代建築史の中の五高記念館」

北野 隆(工学部)

「寺田寅彦と科学する心」

柏木 潤(工学部)

「五高記念館ミニ・コンサート」

——弦楽アンサンブル——

吉永誠吾(教育学部)



平成12年度

第2回五高記念館公開講座

平成12年11月11日(土曜) 13:00~16:20

「ハーンと夢」

アラン・ローゼン(教育学部)

「教育者としてのハーン」

福澤 清(文学部)

「ハーンの熊本作品とスペンサー」

里見繁美(文学部)

平成12年11月12日(日曜) 13:00~16:20

「ハーンの西洋と東洋」

西川盛雄(教育学部)

「ハーン作品『鯨人の感謝』の背景をめぐって」

金原 理(文学部)

「お箏の演奏——箏アンサンブル——」

二宮昌代



平成13年度

第3回五高記念館公開講座

平成13年11月25日(日曜) 13:30~15:00

「ハーンと夢」

アラン・ローゼン(教育学部)

平成14年度

第4回五高記念館公開講座

平成14年7月6日(土曜)

「五高の博物学者たち」

今江正知(崇城大学教授)

平成14年7月13日(土曜)

「五高のドイツ語教師たち」

上村直己(熊本大学文学部教授)

平成14年7月27日(土曜)

「寺田寅彦と熊本」

柏木 潤(熊本大学工学部教授)

平成14年8月3日(土曜)

「五高の英語教師たち」

西 忠温(崇城大学助教授)

平成14年8月10日(土曜)

「五高の政界人脈」

平山謙二郎

(五高記念館友の会代表世話人)

平成16年度

附属図書館主催「ハーン没後百年祭展」

10月13～28日

附属図書館主催「北御門二郎展」

2. 出版活動

(1) ニュースレター

① 『熊本大学五高記念館ニュースレター』創刊号

(A4版8頁)

編集・発行：熊本大学五高記念館

発行日：平成13年3月1日



② 『熊本大学五高記念館ニュースレター』第2号

(A4版8頁)

編集・発行：熊本大学五高記念館

発行日：平成14年4月26日



(2) その他

① 『熊本大学資料館に関する検討委員会報告』

編集：熊本大学資料館に関する検討委員会

発行：熊本大学

発行日：平成10年3月

② 『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム 熊本大学資料館に関する検討委員会報告書』

編集：熊本大学資料館に関する検討委員会

発行：熊本大学

発行日：平成11年



③ 『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期五カ年計画(案)』

編集：熊本大学政策創造研究センター

「地域資源としての五高記念館の活用整備研究」研究会

発行：熊本大学五高記念館等運営委員会

発行日：平成18年2月

V 研究

『龍南会雑誌』と雑誌部委員—明治期の動向を中心として—

特定事業研究員 薄田千穂

1 はじめに

旧制の高等学校にはそれぞれ校友会が組織されていた。校友会は教職員・生徒からなる全校組織で、その運営は会員の拠出する会費により生徒による自治が行われていた。校友会の中には文化・体育関係の各部が設けられ、生徒たちはそれぞれに所属して活発に活動した。生徒はその諸活動を通して自由に自主的に教養と訓練を積み、自己の意志に基づいて人間形成を行った。それは、寮生活と共に生活面で重要な位置を占め、また旧制高校の校風形成に大きな役割を担うものでもあった^①。

こうした校友会の運動・文化活動には、当時の日本が欧米の文化をとり入れるにあたって啓蒙的役割を果たした面を認めることができる。運動の面では、帝国大学と共に、早くから野球・テニス・ボート等の欧米のスポーツを採り入れ、その後それらは全国に広まっていった。文化の面では文芸・音楽等の新しい文化を紹介し、普及させた事例も見られた^②。また、各高等学校で刊行された校友会雑誌は、言論発表の機関となる一般雑誌が少なかった当時において、若い青年たちの発表の場となった。

第五高等学校（以下五高と称する）で組織された校友会は「龍南会」といい、明治20年（1887）の開校から4年後の明治24年（1891）11月3日に発足した。当初は、雑誌部・演説部・戸外遊戯部・撃剣部・弓術部・柔道部の6部で出発した。その後漸次増加して昭和14年（1939）には、演説部・雑誌部・剣道部・弓術部・柔道部・野球部・庭球部・端艇部・水泳部・山岳部・陸上競技部・ア式蹴球部・ラ式蹴球部・籠球部・排球部・馬術部・音楽部・ホッケー部の18部となっている^③。

校友会雑誌である『龍南会雑誌』（後に『龍南』）は龍南会発足間もない明治24年11月26日に創刊され、昭和23年（1948）3月25日の最終号まで255号を発行した^④。教員や生徒・卒業生が寄稿・投稿した論文・小説・俳句・和歌・漢文等、思想研究・文芸創作・芸術活動など多彩な作品が発表された。また、運営委員会の議題、委員・部長の交代、予算・決算、各部の活動など龍南会の活動の様子、学校行事など生徒たちの活動を具体的に記した記事も掲載されている。龍南会雑誌を編集していたのは選出された雑誌部委員であったが、彼らは雑報や編集後記をはじめとして多くの記事を執筆しており、動向と共にその主張をみることができる。

本稿では雑誌部委員の動向や主張を通して『龍南会雑誌』が抱えていた問題を、龍南会の体制の確立期である明治期について述べていきたいと思う。

2 龍南会の発足

明治20年（1887）五高が開校した後、生徒たちはそれぞれ研志会（後に雑誌部）、土曜会（明治22年5月創立、後に演説部）、第五高等中学体育会（明治21年創立、後に戸外遊戯部）、射術会（後に弓術部）、撃剣部（明治24年創立）、柔道会（明治24年創立）などを組織し、課外活動を行っていた。

校友会設立の話が出たのは、明治24年（1891）4月のことである。第一期生の藤本充安らが撃剣部設立について秋月胤永教授のもとへ相談に赴いた際、秋月が以前教諭をつとめていた第一高等中学校の話題になり、その中で校友会についての話を聞いた。生徒の間でこれと同様の組織を五高にも設立したいとの気運が高まり、6月の第五高等学校協議会で校友会設立がはかられて決定した。そこで白石秀大、木崎虎太、佐藤伝蔵、梅野実、藤本充安ら5名の生徒が選ばれて規則草案作りに着手する。その後10月の協議会で委員を職員からも出すことが決まり、戸沢鼎教授、永井孝一書記の2名を加えた計7名が創立委員となった。10月24日には、

役員を選挙で定める委員選挙会が開かれ、次のように決定した。

会長 嘉納治五郎（校長） 副会長 桜井房記（教授・幹事） 委員長 藤本充安	
雑誌部	部長 大瀬甚太郎（教授 歴史・哲学）
	委員 木崎虎太、加藤本四郎、白石秀大、古森幹枝、佐藤伝蔵、中山文次郎、安住時太郎、江口俊博
演説部	部長 戸沢鼎（教授 歴史・英語）
	委員 雑誌部員と兼任
戸外遊戯部	部長 秋山練太郎（助教授 体操）
	委員 平松末吉 梅野実
撃剣部	部長 秋月胤永（教授 倫理・国語・漢文）
	委員 藤本充安、林市蔵
弓術部	部長 園哲雄（教授 国語・漢文）
	委員 坂田益次郎 江口鎮白
柔道部	部長 大倉増次郎（教授 英語）
	委員 野口弥三 喜入秀三

※委員長、委員は生徒、『五高五十年史』『龍南会雑誌』第1号より作成

開会式は明治24年11月3日、嘉納校長が龍南会の開会式の宣言をしたあと、嘉納・藤本充安・松崎が演説し、隈本繁吉が祝文を朗読した。その後余興として、生徒控所で講談師池田某が義士銘々伝を演じ、出席者は茶菓で創立を祝った⁵⁾。

文化活動の発表機関として『龍南会雑誌』が創刊されたのは龍南会発足間もない11月26日であった。

3 龍南会組織内における雑誌部委員の位置

龍南会発足以前、五高には金蘭会の『回覧雑誌』、『龍南叢誌』等の私的回覧雑誌があった。中でも研志会は毎月『研志会雑誌』を発行しており、20余号を数えるほどになっていた。「龍南会紀事」（『龍南会雑誌』1号 明治24年11月26日発行、以下号数、発行日のみ表記する）の「初メ本校生徒中研志会ト称スルモノヲ組織シ、毎月雑誌ヲ発行シ、爾来号ヲ追フテ二十余ニ至ル、本会（龍南会、筆者注）ノ起ルニ及ビ、主トシテ加入シ、今ヤ事務ヲ拡張シ、茲ニ始メテ本誌第一号ヲ発兌スルニ至レリ」という表現から龍南会雑誌部は、研志会を引き継ぐ形で活動を始めたと考えられる。また、当初雑誌部委員は演説部委員を兼務し、月番で事務を執っていたこともあり8名の委員がいた。編輯に携わる雑誌部員全員が委員となり、委員会に出席する権限を持っていた。他部の委員が2名であったことから考えても、雑誌部は初期の龍南会で重要な位置を占めていたと思われる。

明治期の雑誌部員については表の通りである。

これにみるように初期の雑誌委員数は、総務委員、演説部委員との関係で変化している。特に総務委員との関係は、その後の龍南会雑誌の抱える問題の一つと密接な関係を持っていた。総務委員は『龍南会雑誌』上には7号（明治25年5月20日発行）にその名が現れる。委員の一覧では役員の筆頭に書かれており、撃剣部委員林市蔵、戸外遊戯部委員梅野実の2名が兼任した。明治26年（1893）度は、柔道部委員野口弥三・雑誌部委員隈本繁吉が総務委員を兼任している。これによると、総務委員が所属する部は固定されていなかったと思われる。総務委員が会則上で規定されるのは明治27年（1894）である。28号（明治27年6月27日発行）「会則の修正」では次のように報告されている。

明治期の『龍南会雑誌』雑誌部委員一覧

年度	発行回数	号数	雑誌部委員名	委員数	備考
24	6	1～6	木崎虎太、加藤本四郎、白石秀大、古森幹枝、佐藤傳蔵、中山文次郎、安住時太郎、江口俊博	8	雑誌部委員8名
25	10	7～16	中山文次郎、隈本繁吉、白河次郎、古森幹枝、安東俊明、村川堅固、浅川雄太郎、江口俊博	8	
26	10	17～26	村川堅固、隈本繁吉、水月仲丸、朝山景秀、和木貞、大塚末雄、江口俊博	7	
27	10	27～34	村川堅固、秋月胤継、水月仲丸、高木敏雄、杉山富槌、江口俊博	6	総務委員2名、雑誌部委員6名となる。34号に委員臨時改選記録あり
		35～36	太田辰一、十時弥、飯田御世吉郎、渡辺断雄、小原之正、本田弘	6	
28	9	37～45	十時弥、高木敏雄、本田弘、飯田御世吉郎、小原之正、渡辺断雄	6	
29	10	46～55	湯浅孫三郎、小嶋武雄、大野禧一、本田弘	4	
30	9	56	湯浅孫三郎、小嶋武雄、吉丸一昌、伊喜見謙吉、松崎求己	5	演説部独立に付演説部委員2名、雑誌部委員5名となる。56号に4名辞任の記事あり
		57～64	吉丸一昌、藤村作、戸次正、楠田義任、石田昇	5	
31	7	65～71	戸次正、徳谷豊之助、清水壮左久、大槻静修、堀内収蔵	5	
32	7	72～78	柳井幸弘、大木俊九郎、田仲(成田)忠良、島田敏三、常吉徳寿	5	
33	6	79～84	岡嶋誘、石川重治、丸山篤、田嶋勝太郎、成田忠良(79～80)、豊田多賀雄(81～84)	5	成田忠良辞任
34	7	85～91	今村勝、高田知一郎、青木新、咲花一二三、吉田修夫	5	
35	7	92～98	咲花一二三(92～93)、鴻巣盛廣、谷口保太郎、後藤文夫、今岡信一郎、関一男(94～98)	5	咲花一二三学寮会幹事に当選に付辞任
36	7	99～105	恵利武、松居與一郎、江上恒之、猪股勲、大野至海	5	
37	5	106～110	平井三男、内田虎六、佐々木良綱、太田黒作次郎、高田保馬	5	
38	5	111～115	吾妻耕一、倉岡軍次、沼川福太、谷龍之助、奥村安基	5	
39	4	116～119	松村武雄、大川周明、深川繁治、柏木純一、緒方大象	5	
40	6	120～125	石田馨、加瀬丈兵衛、立花親民、船越純一、村山真雄(120～121)、前田讓(122～125)	5	村山真雄論旨退学に付辞任
41	5	126～130	千田憲、山浦護、前田穰、神山義次、牛原虎生	5	
42	5	131～135	太田文雄、住田一郎、江口渙、青木敬次、落合直幸(131)、中村寛猛(132～135)	5	落合直幸韓国へ渡航に付辞任
43	5	136～140	南正樹、赤瀬八代喜、吉鹿善郎、河崎清風、富田仙三	5	
44	5	141～145	江口渙、古賀行義、吉鹿善郎、藤山一雄、小田精一	5	145号に予算削減問題あり

『龍南会雑誌』1～145号、『五高五十年史』より作成

「本年度より本会委員中、雑誌部委員八名を六名に減じ、総務委員を独立せしめて、他部委員を兼ねざらしむべしとの議起り、今回の選挙はこの方針により執行し、委員会に於て事後承諾を求めしに、満場異議なく之を決せしかば、本会規則第六条中、委員十六名、うち雑誌部八名、其他各部二名宛、とあるを改めて、総務二名、雑誌部六名、其他各部二名宛となせり。」

雑誌部委員はこのとき2名減じており、雑誌部員の人数を削り総務委員を独立させた形になっている。明治29年(1896)に雑誌部委員が4名になるが、これについては、施行される1年前の明治28年の会則から「但し二十九年度より雑誌部委員を四名とす」という条項が盛り込まれ、減員が予定されていた。明治30年(1897)には演説部が独立して2名の委員を擁するようになり、雑誌部委員の数は5名となった。以後、昭和16年(1941)に龍南会が龍南学徒報国団に改組される際に2名に減じるまで委員数は5名のままである。

また、雑誌部には、17号(明治26年5月27日発行)には、「雑誌部委員なき各組に於て新に雑誌部世話係を置き雑誌分配原稿取り纏め等の件を職託す」として、雑誌世話係が置かれていた。しかし、37号(明治28年6月7日発行)「従来雑誌部より依頼せる各組世話係を廃し、新たに龍南会世話係として之を囑託して、従前の事務を処置せしむることとなせり。」として雑誌世話係は総務部の下部組織となる。さらに50号(明治29年11月15日発行)の2月1日の役員会の記事によると「従来総務委員より囑託せし、各組世話掛を各組の互選となし、且つ其名称を各組総代と更め、新に之を龍南会役員に加へたる事」と会則改正が行われ、役員数は一気に増加することとなった。ちなみにこの時も49号(明治29年10月24日発行)によると、委員会前にすでに互選が行われ、各組の総代は決定している。

創立当初の龍南会の中で、委員数において多数を占めていた雑誌部員は、数の縮小、組織変更により、徐々に龍南会内での位置を小さくしていった。次に論ずる龍南会雑誌が抱える問題の一つである総務委員と雑誌部委員の衝突は、このことも起因していると思われる。

4 龍南会雑誌が抱える問題と雑誌部委員の苦悩

雑誌部委員の動向を追ってみると、改選時期ではない時期に大幅な交代が行われたり、辞任までいかなくても、雑誌部員がそろって辞表を出すという事態が何度か見られる。明治期には、明治28年(1895)2月と明治30年(1897)5月に臨時の改選が行われている。

明治28年の2月には、「某々懲戒事件は某々除名事件を牽起し、某々除名事件は端なくも委員の辞任となれり。」(34号 明治28年3月5日発行)と記される事件が起った。雑誌部委員を含むすべての委員が臨時改選されたが、再選された委員が辞退するなど事態は深刻だったようである。しかし、雑誌上では「今回の事件及び其結果に就ては云ふべきことなきにあらざるも、今は憚りて之を記さす。」(34号)とあり、残念ながら詳しいことはわからない。

明治30年5月には、当時の5人の雑誌部委員中4人が辞任し、補欠選挙が行われる事態が起った。ただ一人留任した吉丸一昌が56号(明治30年5月28日発行)「雑報」にこの顛末を記している。それによると、4月17日に行われた30年度の予算会で各部予算審議の最後に雑誌部についての審議が行われている最中、長峰安三郎総務委員が次のような発言をした。

「雑誌の目的とする所は、第一、本校及本会に於ける事実を記載し其現状を察し、将来を戒しむるの具に供し、以て内を養ひ、外に応ずるにあり、第二、論説詩歌の萃を蒐め、以て智力交換の用に資するにあり、然れども此二者自ら先後の序あり、且経費に限りあるを以て、予は紙稿を七十五頁とし、先づ第一の目的を達し、其余を以て、論説詩歌等、智力交換の用に供するを得ば、足れりと信ず」

これに対し、雑誌部委員は「雑誌部の気運を阻撓せんとする謬妄の意見」と反発し退場、予算会は決議がなされることなく閉会した。その後雑誌部委員5名、吉丸一昌、松崎求巳、伊喜見謙吉、湯浅孫三郎、小嶋武雄は辞任書を龍南会会長である中川元校長あて提出した。長峰は会長の注意で発言を撤回したが、松崎求巳、伊喜見謙吉、湯浅孫三郎、小嶋武雄の4名は発言の撤回が「是れ已に適當の時機を失せるもの」として受け入れず、26日正式に4名の辞任が許可された。吉丸一昌は、25日「予も総務が当時の説には異論あり、総務委

員として以後雑誌部のことにつき、前説を固執せざるは勿論、すべからざらしむも、予の断言する処なれば留任すべき」との会長の慰留に応じ、辞任を撤回した。吉丸は「本是我会雑誌に対する目的上の見解を異にしたるに止まる恰もかの財務を掌るものと、政務を議するものと、往々其手段目的の緩急をことにするが如く」と述べている。

このころ、投稿は一部生（文法）にかたより、二部生（理工）三部生（医）の投稿は少なくなっていた。いきおい掲載される原稿は文科的なものばかりとなる。総務委員の発言は、この傾向に対する批判であったと思われるが、『龍南会雑誌』の内容に対する総務委員の介入という一面もあった。退任の辞の中には、「生等尚其謬見を憫み、其誤解を悲み、之を啓発提撕する所以に於て、敢て力を致さざるにあらずと雖も、奈何せん氏勝心自ら固し、強弁他を禦ぎ、毫も協同和衷して意見の中正を討論審議の間に庶幾ふの意あるなし。」とあり、総務委員の強硬姿勢がうかがわれる。

『龍南会雑誌』からはこれ以上の事実がうかがえないが、次年度からの発行回数はこれまで9～10回だったのが、7回に減じた。

明治45年（1912）5月10日発行の145号「雑誌部部報」に、雑誌部予算を巡って雑誌部委員が辞表を提出し、総務委員が進退伺を出すという事件の顛末が掲載された

3月1日、龍南会次年度の予算審議の席上、次期総務委員が雑誌部次年度の予算を今年度から百円削減する提案をした。その理由は次の通りであった。

「今や雑誌は全く投書家の跡を絶って、殆んど全部、委員の手になった原稿のみで埋めざるを得ない。実に其忙しさは、外の見える目も気の毒である。次に近頃の校友会雑誌は頗る不可解な文で埋められるようになった。論説と文苑と、一部分の人を除いては読む人もない有様である。雑報を除いては、殆ど読むでも解らない。折角多大の経費を投じて作る校友会雑誌を、かかる境遇に置き度くない、もっと有益な、多数に読まれる雑誌にし度い、其には小説や論文の頁数をへらして、内容の充実した物を作る可きである。委員も投書のない折柄、忙しいのは気の毒だから、年5回の発行を3回に減じて充分腕を振ってほしい。」

ところがこの予算会に次期雑誌委員は一人も出ていなかった。現雑誌部委員のうち吉鹿善郎、古賀行義はその話を別の部の新委員から聞き、総務委員の提案理由に憤慨し、また、次期雑誌部委員が出席していなかったことに憤慨した。そして江口渙を加えた3名で本田弘雑誌部長に事実を確かめた後、夜の八時半になっていたが新総務の意向を聞くため寄宿舎へ行き、総務委員室にいた大津留耕吾と4人で11時まで議論を戦わせた。このときの雑誌部委員側の主張から雑誌部委員が置かれていた状況を推察することができる。

「（前略）内容の充実した、有益な雑誌とは如何なる事を意味するのか。吾等は無益の雑誌を作らんがために筆を取った覚えはない。唯自ら信ずる処に従ひ、自らのベストを尽して経営して来た。又経営せざるを得なかった。不可解の文は何の意味か、九百の会員に悉く読まれて、悉く利益を与へる文とは如何なる文だらうか。成程雑誌の文芸化と云ふ誹難は従来度々聞いた。然し文科の生徒又は文学好きな者が委員に多い以上、之は止むを得ない。故意にするのではない。自然の結果である。二部三部からの当初を吾等は謹んで歓迎する。然し悲しいかな唯一度の外は遂になかった。法科生の手になった法科的の投書すらない。先輩からの投書もない、度々東京へ頼んでも、少しも送らない。偕先生も、執筆は許してくれと云はれる、仕方がないから吾等は、忙しき中に筆を執るのである。雑誌は雑誌部委員の雑誌では無い。然し此境遇に陥れたのは、果して誰の罪か。雑誌に筆を執る暇が有るなら、明日の独乙語でも引いた方が好い。何なら活動写真でも見に行つた方がましであると。是か現代五高の風潮である。かかる時に委員となった吾々は試験の三日前でも、向ふ鉢巻きで筆を執らざるを得なかった。其だのに出来上った物は、不可解、無益と云ふ一語の下に葬られる。吾々のベストを尽してした仕事が単に不可解な文に貴重な紙面を埋めて。無益に多大の経費を浪費したと云はれるなら、吾々は是以上、職に停るのを欲しない。（後略）」

次の日雑誌部委員は辞表を提出、総務も進退伺を提出したが、両方とも却下された。松浦寅三郎校長と本

田弘雑誌部長の調停により、新総務委員が失言に対する謝罪を行い、雑誌部は議決に従い予算を承認するという事で落ち着いた。なお、以後の龍南会雑誌発行回数を年3回にすることも承認された。

江口渙は、年度最後145号の「編輯の後に」で、「嗚呼人間生まれて雑誌部委員となる勿れ。折角夜も寝ずに作った雑誌は、何の反響もなく、空しく暗の中に黙殺される。斯る馬鹿気たまねは、もう二度と再び、したくない。子々孫々にもさせたくない。死ぬ時は必ず遺言する決心である。」と心境を吐露している。

ここにみられる慢性的な投稿・寄稿の不足、二部（工理農）・三部生（医）の無関心、総務委員と雑誌部委員の意見対立は、龍南会雑誌が絶えず抱えていた問題でもあった。

とくに深刻だった投稿・寄稿の不足は、本稿では詳しく取り上げなかったが、校風についての議論と共に語られることが多かった。時々の雑誌部委員の活動により投稿数が一次増加することもあったが、発行回数が減ったことにより掲載できなくなるなど歯車はかみ合わなかったようである。それでも雑誌部委員たちは、「事実をして事実たらしめ之に公明正大なる判決を下すは最も正当順理のことにあらずや、吾等は今後に於ても苟も龍南の学風を真面目に批評し醒覚し指導せんとするものは亦此方針に出てんことを希望するものなり、而して之を批評し之を醒覚し之を指導するは雑誌部委員なり、委員たるも亦難哉。」（91号 明治35年4月25日発行）のように使命感をもって任務に当たり、「記憶せよ諸君、龍南会雑誌は委員の雑誌にあらずして会員全体の雑誌なり会員が協同して、共に校風を作振すべき好機なり。（後略）」（78号 明治33年5月5日発行）のように紙上で呼びかけ続けた。

5 おわりに

龍南会雑誌の雑誌部委員には、のちに文筆家や研究者になる卒業生の名前が多数みられる。村川堅固、吉丸一昌、後藤文夫、下村湖人、大川周明、松村武雄、牛原清彦、木下順二、梅崎春生など枚挙にいとまがない。雑誌部委員は龍南会雑誌に多くの文章を発表しており、筆者は文筆活動に心得のある生徒が自己主張の場を求めて雑誌部委員となるのではないかという印象を持っていた。しかし、明治期のみの分析ではあるが、雑誌部委員は自ら原稿を執筆せざるを得ない状況の中にあつたことがみえてきた。好むと好まざるとにかかわらず、文筆活動について鍛錬されていったのではないだろうか。記事の中には龍南会雑誌を先輩から引き継いだという責任感と、変化する生徒の質の狭間にあつた委員たちの苦悩を折々にうかがうことができる。

龍南会雑誌は、以上述べてきたような生徒間の不協和音のほかに、この後顕在化してくる学校側からの干渉・検閲という問題を抱えることになる。すでに明治33年（1900）9月30日発行の81号「新学年来る」では、雑報の冒頭に「（前略）本誌は校風改善の好方便たるべき性質を失して、殆ど御用新聞的態度を執りつつあり、否、しかし余儀なくせられつつあるなり。（中略）此の如きは当局者が本誌に対する政略にして、言論の自由殆ど压制束縛せられ本誌は僅かに一綫余命を喘々の間に保ちつつあるのみ。（後略）」とその苦悩が記された。また、大逆事件がおこった明治43年（1910）には、「近頃文芸の取締が一般に厳になったが吾が龍南会雑誌も多少そこに制限が出来たので校閲其他やかましい事情がふりかかって来た、勢ひ少々時日が延んだ上に延ぶ事になる。」（138号 明治43年12月20日発行）と世情の変化を嘆いている。検閲の問題は、龍南会雑誌についての今後の大きな研究課題であると思われる。

この報告は2008年度日本学術振興会科学研究費補助金奨励研究「第五高等学校『龍南会雑誌』目次のデータベース化及び書誌学的研究」（19902013）の成果の一部である。

注

- ① 『旧制高等学校全書』第7巻 生活・教養編（2）1985年 旧制高等学校資料保存会編
- ② 同上
- ③ 昭和15年11月12日の龍南学徒報国団への改組に際して、総務部、鍛錬本部、国防訓練部、文化本部、生活本部の5部に分けられ、各本部は次のような諸部を統轄した。

鍛錬本部（一般体錬部、剣道部、柔道部、弓道部、陸上競技部、山岳部、端艇部、水泳部、野球部、庭球部、排球部、籠球部、蹴球部、ホッケー部）、国防訓練部（射撃部、騎道部、銃剣道部、航空部、自動車部、通信部）、文化本部（科学研究部、雑誌部、弁論部、音楽部、学芸部）、生活本部（阿蘇道場部、修養部、集会所部、厚生部）

以上の組織は戦況の変化に伴って、その後もさらに細分化し、戦時色を濃くしていった。

- ④ 昭和23年3月25日発行の253号は戦後発行された唯一の『龍南』であるが、戦前の254号の続きの255号ではなく、253号『龍南』復刊号と称している。理由は今のところ不明である。
- ⑤ 『龍南会雑誌』第1号 48頁

参考文献

『五高五十年史』 1939年 第五高等学校

『旧制高等学校全書』第7巻 生活・教養編（2）1985年 旧制高等学校資料保存会編

熊本大学五高記念館館報 第1号
(平成18年度～20年度)

発行日 平成21(2009)年12月25日

編集・発行 国立大学法人 熊本大学五高記念館
〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-40-1
TEL (096)342-2050 FAX (096)342-2051
URL: www.goko.kumamoto-u.ac.jp
Email: goko@kumamoto-u.ac.jp

印刷 ホープ印刷株式会社